

教育関係共同利用拠点

知識基盤社会を担う専門教育指導力育成拠点

—大学教員のキャリア成長を支える日本版 SoTL の開発—

平成 29 年度 事業報告書

Joint Educational Development Center

"Excellence in University Learning and Teaching" Project Report 2017

資料編 (web 版)

東北大学高度教養教育・学生支援機構

大学教育支援センター

Center for Professional Development(CPD)

Institute for Excellence in Higher Education (IEHE)

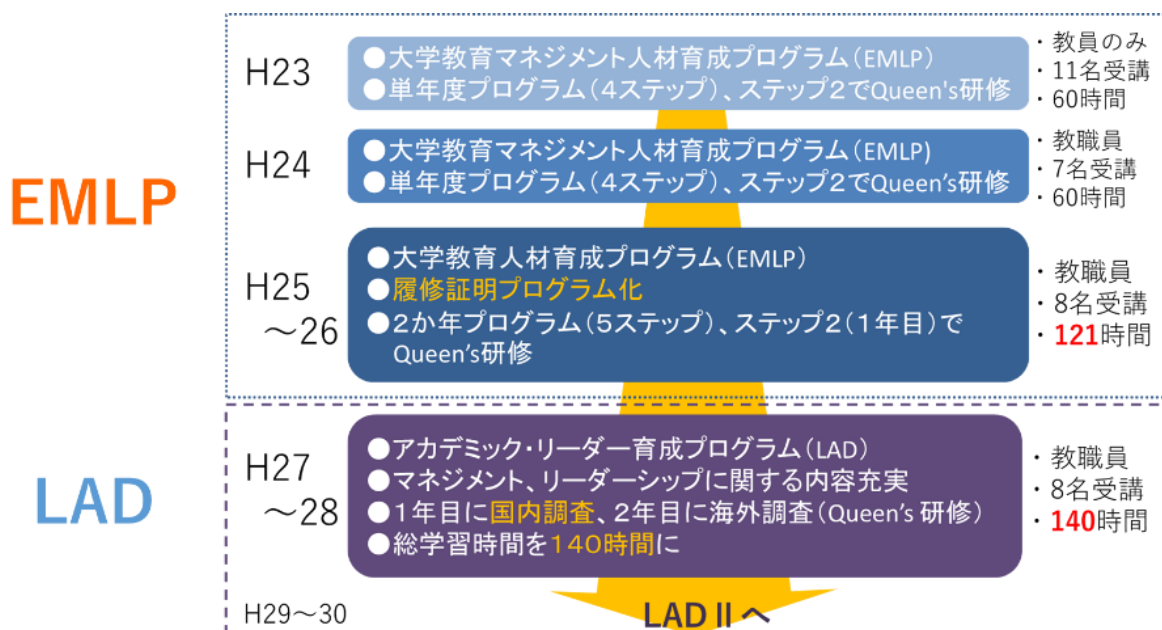
Tohoku University

資料編目次

4.1	拠点事業効果の事後検証	1
4.2	東北大学 大学教員準備プログラム (Tohoku U. PFFP)・新任教員プログラム	2
4.3	履修証明プログラム「アカデミック・リーダー育成プログラム (LAD)」	4
4.4	PDP (専門性開発) セミナー	7
4.5	PD セミナー参加者アンケート結果	17
4.6	PDPonline (専門性開発プログラム動画配信サイト)	59

4.1 拠点事業効果の事後検証

①EMLP/LAD の変遷



②EMLP/LAD ユーザ会議タイムテーブル

時間	内容/質問項目等
13:00-13:05	開会挨拶 (羽田貴史 大学教育支援センター長)
13:05-13:25	趣旨説明 (杉本和弘 EMLP/LAD 開発担当)
13:25-14:00 (35分)	自己紹介 (各2分) ● 氏名/所属/現在の仕事/改革案タイトル/受講理由
14:00-15:15 (75分)	【テーマ1】改革の進捗状況 (今後の改革への抱負) ● 改革はどのように進んでいるか. なぜうまく進捗できていると思うか. ● なぜ停滞しているのか. 何が不足していると思うか. ● EMLP/LAD で獲得したことで, 何 (知識・スキル・経験・人間関係) が最も役立っている (役立ちそう) か.
15:15-15:30	コーヒーブレイク
15:30-16:30 (60分)	【テーマ2】意識・行動の変容 ● EMLP/LAD に参加したことで, 職務や改革への意識や取り組み方は変化したか. ● 具体的にどのような場面・言動でそう感じるか. ● 自らの周囲や組織に変化は生じているか.
16:30-17:00 (30分)	【テーマ3】イノベーター/リーダーに必要なもの ● 改革を進める人材に必要な能力・スキル・態度は何か. ● それらはどのように身に付けられると考えるか. (OJT/Off-JT)
17:00-17:10	コーヒーブレイク
17:10-17:55 (45分)	【テーマ4】履修証明プログラムへの期待 ● 同僚や部下 (後輩) に履修証明プログラムを勧めたいか (勧めたくないか). それはなぜか. ● イノベーター/リーダーの育成プログラムに必要な要素 (学習内容・経験) は何か.
17:55-18:00	閉会挨拶 (大森不二雄 大学教育支援センター副センター長)

4.2 東北大学 大学教員準備プログラム (Tohoku U. PFFP)・新任教員プログラム

①2017年度東北大学ジュニアファカルティ・プログラムの参加者

参加コース	No	所属	国籍	学年・職階
PFFP	1	東北大学 工学研究科	中国	D2
	2	東北大学 経済学研究科	パキスタン	外国人特別研究員
	3	東北大学 情報科学研究科	日本	D2
	4	東北大学 法学研究科	日本	特任フェロー
	5	東北大学 情報科学研究科	日本	D2
	6	東北大学 教育学研究科	日本	博士研究員
	7	東北大学 国際文化研究科	中国	D3
NFP	8	いわき明星大学 看護学部	日本	助教
	9	東北大学 工学研究科	日本	教授
	10	東北大学 東北メディカル・メガバンク機構	日本	助教
	11	東北大学 学際科学フロンティア研究所	日本	助教
	12	東北大学 歯学研究科	日本	講師
	13	宮城大学 看護学群	日本	講師
	14	東北大学 医学系研究科	日本	助手
	15	東北大学 歯学研究科	日本	研究助教
	16	東北大学 文学研究科	ロシア	助教
	17	東北大学病院	日本	助教
	18	仙台大学体操学部	日本	助教
	19	東北大学 工学研究科	日本	助教
	20	東北医科薬科大学	日本	助教
	21	東北大学 高度教養教育・学生支援機構	日本	講師

②2017年度参加者アンケートの結果（抜粋）

プログラム修了後に、プログラム参加者に対して目標達成やプログラムを通じた学び等について Web アンケートを実施した。調査は無記名で18名の有効回答が得られた。

Q1. 目標達成への寄与度：以下に示す達成目標に対して、それぞれのセミナーはどの程度有益であったかについて4件法（1. 有益ではなかった～4. 有益だった）で評価を求めた。

【ジュニアファカルティ・プログラム（JFP）の達成目標】

〔目標1〕生涯にわたり専門性を高めるために、効果的な省察ができるようになる

〔目標2〕大学教員の役割、仕事を理解し、展望を持ってキャリアを設計できる

〔目標3〕教育活動に関する基礎的知識を身に付け、自分なりの言葉で教育観を語れるようになる

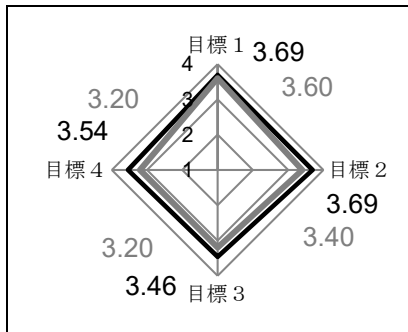
〔目標4〕異分野の研究や教育文化を知る

Q2. 目標達成度：プログラムを通じて上記の4つの目標をどの程度達成できたのかについて4件法（1. 達成できた～4. 達成できなかった）で評価を求めた。

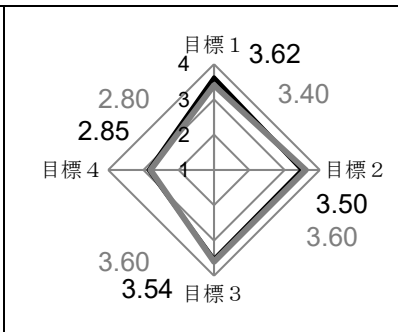
③各活動のプログラム目標達成への寄与度及び参加者の目標達成度

灰色線はPFFP、黒線はNFPの回答結果を示す

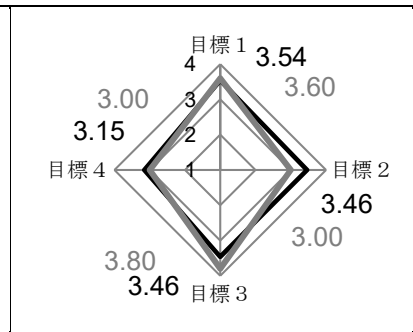
Q1-1 オリエンテーション



Q1-2 授業デザインとシラバス作成



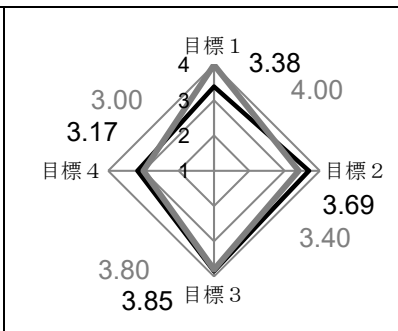
Q1-3 学生理解と学生発達



Q1-4 大学生のクリティカルシンキングの育成



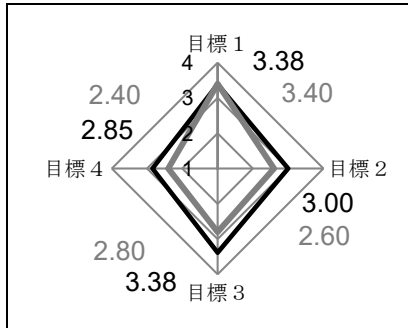
Q1-5 授業づくり:準備と運営



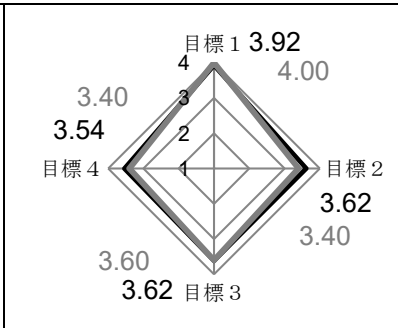
Q1-6 授業参観



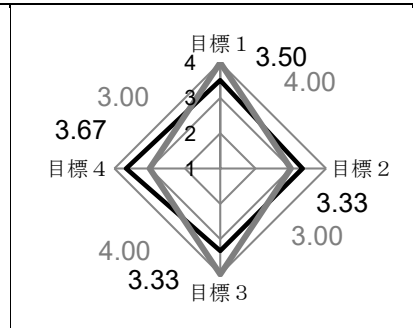
Q1-7 コーチング技能を活用した院生指導



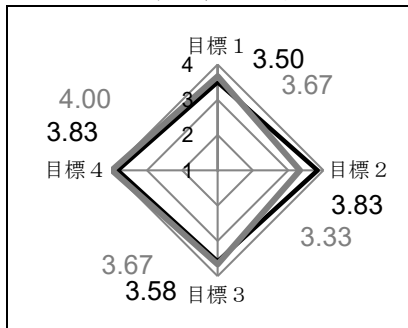
Q1-8 マイクロ・ティーチング



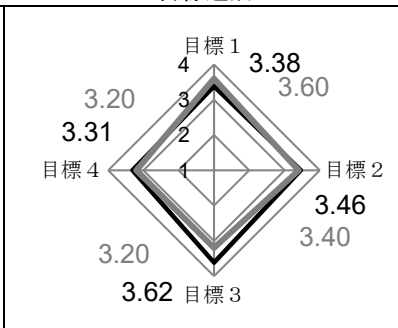
Q1-9 国内他大学訪問調査



Q1-10 先達教員
コンサルテーション



Q2 プログラム全体を通じた
目標達成



4.3 履修証明プログラム「アカデミック・リーダー育成プログラム（LAD）」

①LAD2 の構造と特徴



②LAD2 プログラム内容の概要と学習時間

カテゴリー	概要	学習時間
1. 高等教育基礎	高等教育論，専門性開発論，学生発達論，教育設計論など高等教育について知っておくべき必須の知識と技能を学ぶ。	14 時間
2. 教育研究マネジメント	教育学習マネジメント論，インスティテューショナル・リサーチ，研究マネジメント論など教育研究のマネジメントや企画立案について必要な知識や技能を学ぶ。	14 時間
3. 高等教育リーダーシップ	高等教育政策論，大学ガバナンス論，組織開発論など高等教育の組織を担う各層のリーダーに必要なビジョン策定や意思決定について必要な知識や技能を学ぶ。	16 時間
4. フィールドワーク	国内大学（複数大学から1大学選択），海外大学（カナダ・クイーンズ大学）における調査活動を行う。	44 時間
5. アクションラーニング	受講者が設定した所属機関の改革課題について，各種セミナーやフィールドワークにおける学びやLADアドバイザーや他受講者との対話・討論を通して，実現可能性の高い「改革案」の作成・省察・実践を行う。1年に2回（2年間で4回），2～3日程度の集中ワークショップを行う。	50 時間

③LAD2 の達成目標

- ① 高等教育に関する幅広い知識と最先端の動向を理解する。
- ② 具体的・現実的な問題を分析し、背景にある原因構造を抽出する。
- ③ 機関・分野の特性や資源を視野に入れ、多様な解決アプローチを知る。
- ④ 機関・分野の特性や資源を視野に入れ、最適の改革案を策定する。
- ⑤ 改革案を実施し、その有効性を検証するとともに、新たな課題を把握する。
- ⑥ 関連する諸活動を通じて、協働して課題に取り組むための組織的能力・問題解決能力を獲得する。

④LAD2 のアドバイザー体制

氏 名	所 属・職 位
小笠原 正明	北海道大学・名誉教授
吉 武 博 通	筑波大学・教授
岩 野 雅 子	山口県立大学・副学長

⑤LAD2 プログラム内容（2017 年度実施分）

プログラム	日 程	概 要
集中セミナーⅠ —改革課題の明確化—	2017 年 8 月 4 日（金） ～8 月 5 日（日）	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション ・アドバイザー・スタッフ紹介，自己紹介 ・「私立大学のガバナンス—事例にみるその多様性と可能性—」（大森昭生） ・「公立大学のガバナンスと教学改革」（清水一彦） ・「IR データの収集と分析の技法」（串本剛・松河秀哉） ・ディスカッションⅠ ・ピア・ディスカッション ・コンサルテーションⅠ
国内大学調査 —先行事例に学ぶ—	①2017 年 9 月 25 日（月） ②2017 年 10 月 4 日（水） ③2017 年 10 月 31 日（火）	①共愛学園前橋国際大学の訪問調査 ②国際教養大学の訪問調査 ③岩手大学・岩手医科大学の訪問調査
集中セミナーⅡ —改革案の構造化—	2017 年 12 月 22 日（金） ～12 月 24 日（日）	<ul style="list-style-type: none"> ・「組織のパフォーマンスを向上させるマネジメント」（藤本雅彦） ・IR による教学データの活用手法」（浅野茂） ・世界における高等教育の質保証の到達点と課題」（深堀總子） ・ディスカッションⅡ ・コンサルテーションⅡ
2017 年度 単独開催セミナー (必修)	①2017 年 9 月 23 日（土） ②2018 年 2 月 17 日（土）	①「学生理解と学生発達」（岡田有司），「大学生のクリティカルシンキングの育成」（楠見孝） ②「日本の高等教育政策」（羽田貴史），「研究政策と知的財産戦略大学—大学における研究成果の取扱い—」（玉井克哉）

<p>2017 年度 単独開催セミナー (自由聴講)</p>	<p>①2017年9月8日 (金) ②2017年10月13日 (金) ③2017年11月29日 (水) ④2018年2月17日 (土)</p>	<p>①「大学組織を創造的・革新的にするための科学的知見の探究～組織論とリーダーシップ論から大学ガバナンスを再考する～」(高橋潔, 青島矢一) ②「大学の研究戦略マネジメント」(小林信一, 林隆之, 羽田貴史) ③「大学生と言語—思索と文化の礎としての現代像—(平成29年度IDEセミナー)」(酒井邦嘉, 嶋内佐絵, 島田康行, 佐渡島紗織) ④ ‘ Preparing for Your Fieldwork at Queen’s University: An Introduction to Canada and the Canadian Post-Secondary Education System ’ (Andy Leger)</p>
--	---	---

4.4. PD（専門性開発）セミナー

① PD（専門性開発）分野一覧

ゾーン	カテゴリー	エレメント
高等教育のリテラシー 形成関連 コード：L (Literacy)	高等教育論 L-01	高等教育の歴史，大学の理念，大学制度・組織，入試制度，関連法制，管理運営，国内外の動向など広く高等教育に関する知識・教養に関するもの
	大学教員論 L-02	大学教師の役割・責務，倫理，キャリア形成など大学教員に関する知識
	教育内容・ カリキュラム論 L-03	教養教育論，カリキュラム論など教授する教育内容の教育論に関するもの
	教授技術論 L-04	授業の設計，シラバスの書き方，学習と教授の心理学，教育測定の原理と方法，プロジェクトベースラーニングの進め方，論文・レポート執筆の指導など教授技術に関するもの
専門教育での 指導力形成関連 (各専門分野) コード：S (Specialty)	学習指導法 S-01	専門分野の学習方法の指導法
	実験指導法 S-02	実験の計画，準備，実施，結果の整理，施設・設備・機器類の使用，危険の防止，倫理的ガイドライン等についての指導法
	研究指導法 S-03	研究テーマの設定方法，関連文献の検索方法，プレゼンテーションの方法，論文のまとめ方，研究費の申請方法等についての指導法
学生支援力 形成関連 コード：W (Health & Welfare)	学生論 W-01	現代学生論，大学生の発達と学習，学生の生活問題，学生理解とカウンセリングなど学生理解と指導に関するもの
	学生相談 W-02	大学コミュニティへの適応支援の技術，カウンセリングの基礎，コンサルテーションの基礎，グループワークの基礎，人間関係調整法等の指導
	キャリア教育 W-03	進路選択の支援方法，キャリア形成の支援方法，経済的自立の指導
	健康教育 W-04	健康な生活習慣形成の指導法，趣味や余暇活用の指導法
マネジメント力 形成関連 コード：M (Management)	組織運営論 M-01	大学の管理運営，大学のリーダーシップ論，危機管理
	大学人材開発論 M-02	FD/SD 論，教職員開発プログラム作成，キャリア・ステージ論
	教育マネジメント M-03	質保証，入口管理，カリキュラム・マネジメント，出口管理

② PD セミナー一覧

*参加者数：上段 合計数，中段（学内者数），下段（学外者数）

高等教育のリテラシー形成関連 コード：L (Literacy)			参加者数*
1	<p>第25回東北大学高等教育フォーラム（新時代の大学教育を考える [14]） 個別大学の入試改革 —東北大学の入試設計を事例として— 2017年5月12日（金）13:00-17:00 倉元直樹（東北大学 教授）、木南敦（京都大学 教授）、阿部淳（秋田県立湯沢高等学校校長）、清水和弘（福岡大学附属大濠中学校・高等学校副校長）、山地弘起（大学入試センター試験・研究副統括官）</p>		427 (34) (393)
2	<p>日本高等教育学会公開シンポジウム 世界的視座から改めて国立大学法人化を問う —外部ガバナンスとしての政府統制の変遷— 2017年5月27日（土）15:15-18:15 大森不二雄（東北大学 教授）、David D. Dill（ノースカロライナ州立大学チャペルヒル校 教授）、Michael Dobbins（ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン 教授）、William Yat Wai Lo（香港教育大学 助教）</p>		214
3	<p>「しまった!!」にならないために —ICT時代の教育で押さえておきたい法— 2017年6月29日（木）14:00-16:00 三石大（東北大学 准教授）、金谷吉成（東北大学 講師）</p>		18 (10) (8)
4	<p>授業デザインとシラバス作成 2017年8月21日（月）13:30-16:30 串本剛（東北大学 准教授）</p>		29 (20) (9)
5	<p>大学生のクリティカルシンキングの育成 2017年9月23日（土）13:00-15:00 楠見孝（京都大学 教授）</p>		72 (36) (36)
6	<p>授業づくり：準備と運営 2017年9月26日（火）13:00-15:00 邑本俊亮（東北大学 教授）</p>		40 (27) (13)
7	<p>シンポジウム「世界の高等教育改革と危機に立つ教養教育」 2017年12月25日（月）13:00-17:00 青木利夫（広島大学 教授）、平手友彦（広島大学 教授）、綾井 桜子（十文字学園大学 准教授）、鈴木大裕（NPO 法人 SOMA 副代表理事，コロンビア大学大学院） ●科学研究費補助金 基盤研究（A）主催行事</p>		51 (21) (30)




8	日本の高等教育政策 2018年2月17日(土) 10:00-12:00 羽田貴史(東北大学 教授)		58 (23) (35)
9	Creating Innovative Higher Education for the 21st Century (21世紀に求められる「革新的な高等教育」の創出に向けて) 2018年3月27日(火) 14:00-16:30 Andy Leger(クィーンズ大学 准教授)、Angelito Calma(メルボルン大学 上級講師)		15 (12) (3)
専門教育での指導力形成関連 コード：S (Speciality)			参加者数 ¹
10	研究倫理シリーズ 第5回 責任ある研究活動の担い手を育てる 一院生の研究指導と研究倫理 *学内限定 2017年7月31日(月) 13:30-16:00 羽田貴史(東北大学 教授)、大隅典子(同 教授)、工藤成史(同 特任教授(客員))、佐々木孝彦(同 教授)		47 (47) (0)
11	科学教育を科学的に変革する：学生が学習する授業は人気教授の名講義に勝る 2017年8月10日(木) 14:00-16:00 スティーヴン・ポラック(コロラド大学ボルダー校 教授)		26 (24) (2)
12	大学中国語教育法強化講座：中国語を教える大学教員のためのスキルアップコース(海外集中コース, 1週間) 2017年9月1日(金)～9日(土)		22 (8) (14)
13	大学における外国語教授法強化講座(フランス語)「いま、外国語をどう教えるか?—フランス語を例に—」 2017年9月25日(月) 13:00-17:30 クロード・ジェルマン(ケベック大学 名誉教授)、ロマン・ジョルダン(京都外国語大学 講師)、杉山香織(西南学院大学 准教授)、バルトラン・ソゼド(東北大学 講師)		31 (23) (8)
14	Teaching in English (TiE): Course Design and Classroom Management Teaching to Improve Learning *学内限定(工学研究科機械系) 2017年9月27日(水) 14:00-15:00 Todd Enslen(東北大学 講師)		60 (60) (0)

15	SDP シリーズ第 2 回 大学の研究戦略マネジメント 2017 年 10 月 13 日 (金) 13:00-16:30 小林信一 (元国立国会図書館 研究員)、林隆之 (大学改革支援・学位授与機構 教授)、羽田貴史 (東北大学 教授)		27 (13) (14)
16	CLIL の理論と実践 —ヨーロッパから日本へ発展する新しい学び— 2017 年 10 月 16 日 (月) 13:30-16:00 笹島 茂 (東洋英和女学院大学 教授)、バリー・カヴァナ (東北大学 講師)		25 (16) (9)
17	数理科学教育シンポジウム「数理科学教育の現代的展開」 2017 年 11 月 13 日(月) 13:00-17:30 上藤一郎 (静岡大学 教授)、水町龍一 (湘南工科大学 准教授)、竹村彰通 (滋賀大学データサイエンス学部長)、谷口説男 (九州大学基幹教育院 副院長)		39 (10) (29)
18	Classroom management techniques for classes conducted in English 2017 年 11 月 27 日 (月) 15:30-18:00 Todd Enslen (東北大学 講師)、Barry Kavanagh (同 講師)		23 (18) (5)
19	大学における外国語教授法強化講座 (韓国語) 2017 年 12 月 1 日 (金) 16:30-18:30 金昌佑 (SBS 放送 芸能部長)		92 (91) (1)
20	コーチング技能を活用した院生指導 2017 年 12 月 12 日 (火) 13:00-16:10 出江紳一 (東北大学 教授)、倉重知也 (株式会社イグニタス 代表取締役)		35 (27) (8)
21	Classroom English : Pronunciation 2017 年 12 月 15 日 (金) 15:00-17:00 Vincent Scura (東北大学 講師)		25 (21) (4)
22	大学における外国語教授法強化講座 (スペイン語) Del Marco Común Europeo de Referencia para las Lenguas y el Plan Curricular del Instituto Cervantes al aula / Implicaciones del MCER y el PCIC en el diseño de pruebas evaluativas 2018 年 1 月 20 日 (土) 13:00-17:15		18 (10) (8)

23	大学における外国語教授法強化講座（ドイツ語）ドイツ語教育とアクティブラーニング— どのような教材を用いるか— 2018年1月27日（土）14:00-16:20		15 (9) (6)
24	Teaching in English (TiE): Course Design and Classroom Management Teaching to Improve Learning *学内限定（理学研究科） 2018年2月21日（水） Todd Enslen（東北大学 講師）		52 (52) (0)
学生支援力形成関連 コード：W (Health & Welfare)			
25	学生理解と学生発達 2017年9月23日（土）10:00-12:00 岡田有司（東北大学 准教授）		62 (33) (29)
26	発達障害学生の実態の理解と支援の取り組み 2017年11月22日（水）13:00-16:20 都筑学（中央大学 教授）、篠田直子（信州大学 助教）		54 (21) (33)
マネジメント力形成関連 コード：M (Management)			
27	若手職員のための大学職員論(8) —大学職員による自発的 SD 実践のイマを知る：中堅職員 Meetup からの示唆— 2017年7月1日（土）13:00-17:00 寺尾健志（京都文教大学）、三島卓也（金沢大学）		19 (4) (15)
28	SDP シリーズ第 1 回「大学の質保証のための IR・評価マネジメント」 2017年7月14日（金）13:00-16:00 森雅生（東京工業大学 教授）、杉本和弘（東北大学 教授）、大森不二雄（同 教授）		51 (18) (33)
29	私立大学のガバナンス 2017年8月4日（金）13:00-15:00 大森昭夫（共愛学園前橋国際大学 学長）		44 (12) (32)
30	公立大学のガバナンス 2017年8月4日（金）15:30-17:30 清水一彦（山梨県立大学 理事長・学長）		38 (11) (27)

31	IRデータの収集と分析の技法 2017年8月6日(日) 13:00-17:00 串本剛(東北大学 准教授)、松河秀哉(同 講師)		32 (11) (21)
32	大学組織を創造的・革新的にするための科学的知見の探究 —組織論とリーダーシップ論から大学ガバナンスを再考する— 2017年9月8日(金) 13:00-16:00 高橋潔(立命館大学 教授)、青島矢一(一橋大学 教授)		34 (21) (13)
33	大学におけるアカデミック・リーダーの育成 2017年11月7日(火) 14:00-17:50 Heather Davis(メルボルン大学 LH Martin Institute プログラムディレクター)、Richard James(メルボルン大学 副学長)、山口昌弘(東北大学 教授)、米澤由香子(同 助教)、末松和子(同 教授)、杉本和弘(同 教授)		35 (22) (3)
34	IDE 大学セミナー「大学生と言語 —変容する思索と文化の礎—」 2017年11月29日(水) 13:00-17:30 酒井邦嘉(東京大学 教授)、嶋内佐絵(早稲田大学 助手)、島田康行(筑波大学 教授)、佐渡島紗織(早稲田大学 教授)		84 (38) (46)
35	組織のパフォーマンスを向上させるマネジメント 2017年12月22日(金) 13:00-17:10 藤本雅彦(東北大学 教授)		33 (12) (21)
36	IRによる教学データの活用手法 2017年12月23日(土) 10:00-12:00 浅野茂(山形大学 教授)		53 (10) (43)
37	世界における高等教育の質保障の到達点と課題 2017年12月23日(土) 13:00-15:00 深堀聰子(国立教育政策研究所 高等教育研究部長)		58 (14) (44)
38	教育ビッグデータで教育・学習活動を検証する —大学教育におけるラーニングアナリティクスの可能性— 2018年2月14日(水) 14:00-17:00 村上正行(京都外国語大学 教授)、金子智一、他(東北大学大学院 理学研究科 博士後期課程、イノベーション創発塾修了生)		53 (21) (32)

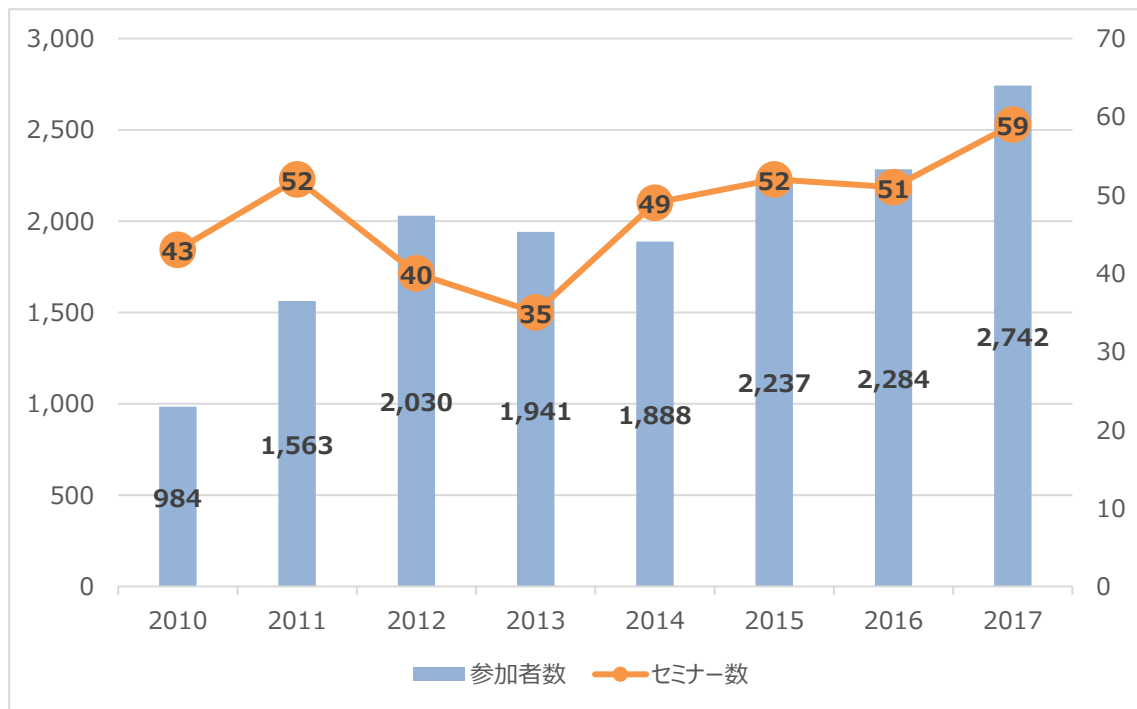
39	研究政策と知的財産戦略—大学における研究成果の取扱い— 2018年2月17日(土) 13:00-15:00 玉井克哉(東京大学 教授)		31 (13) (18)
40	若手職員のための大学職員論(9)～「一皮むけた経験」に学ぶ(3)～ 2018年3月18日(日) 13:30-17:30 大津正和(中京大学)、坂倉みどり(早稲田大学)		21 (8) (13)
正午 PD 会			
41	第40回正午PD会「データを意味ある情報に変換し、教育改善につなげるには～教育評価分析センターの取組～」 2017年4月12日(水) 12:10-12:50 川面きよ(東北大学 特任講師)		24
42	第41回正午PD会「児童期における学力の発達の变化と 規定要因に関する縦断的研究」 2017年5月10日(水) 12:10-12:50 宮本友弘(東北大学 准教授)		20
43	第42回正午PD会「コーパスに基づくコロケーション分析と語義記述」 2017年5月30日(火) 12:10-12:50 カン・ミンギョン(東北大学 准教授)		19
44	第43回正午PD会「グローバル人材育成事業における アクティブラーニング形式の授業の 導入による学習効果の検証 —東北大学グローバルゼミを事例として—」 2017年6月15日(木) 12:10-12:50 富田真紀(東北大学 准教授)		22
45	第44回正午PD会「教育における個の自由と社会的公正 —ミクロとマクロのリンクを求めて—」 2017年6月30日(金) 12:10-12:50 大森不二雄(東北大学 教授)		16
46	第45回正午PD会「スペイン語の与格の振る舞いに対する「意図性」～se le V 構文の考察～」 2017年7月12日(水) 12:10～12:50 田林洋一(東北大学 准教授)		14

47	<p>第 46 回正午 PD 会「東日本大震災後の大学生の心身の健康状態」 2017 年 10 月 26 日 (木) 12:10-12:50 松川春樹 (東北大学 助教)</p>		11
48	<p>第 47 回正午 PD 会「東北大学の肥満学生健診から学んだこと」 2017 年 11 月 24 日 (木) 12:10-12:50 小川晋 (東北大学 准教授)</p>		9
49	<p>第 48 回正午 PD 会「高等教育における課外・ボランティア活動支援の目的」 2017 年 11 月 24 日 (金) 12:10-12:50 藤室玲治 (東北大学 特任准教授)</p>		4
50	<p>第 49 回正午 PD 会「日本における 教職員人事評価制度に関する研究紹介 一目標管理手法による能力開発型の評価手法の現状と課題を中心に一」 2017 年 12 月 8 日 (金) 12:10-12:50 頼舜延 (東北大学 助教)</p>		14
51	<p>第 50 回正午 PD 会「「死」の教育 —MOOC (Massive Open Online Course) から全学教育—」 2017 年 12 月 18 日 (月) 12:10-12:50 鈴木岩弓 (東北大学 総長特命教授)</p>		20
52	<p>第 51 回正午 PD 会「日本語の副詞研究と教育における現状と課題 —「急いで」は副詞か動詞か形容詞か?—」 2018 年 2 月 6 日 (火) 12:10-12:50 林雅子 (東北大学 講師)</p>		22
53	<p>第 52 回正午 PD 会「学生グループ活動において「チームワーク」をどう促し、評価するか」 2018 年 2 月 20 日 (火) 12:10-13:30 Andy Leger (クィーンズ大学 准教授)</p>		24

その他			
54	健康科学セミナー第1回「保健管理最近の話題 2017」 2017年10月17日(火) 16:20-17:20 木内喜孝(東北大学 教授)		16 (6) (10)
55	健康科学セミナー第2回「適応障害について」 2017年11月21日(火) 16:20-17:20 伊藤千裕(東北大学 教授)		12 (3) (9)
56	健康科学セミナー第3回「糖新生臓器としての腎臓の役割」 2017年12月12日(火) 16:20-17:20 小川晋(東北大学 准教授)		13 (2) (11)
57	健康科学セミナー第4回「頭蓋顎顔面の形態異常と歯科矯正治療」 2018年1月16日(火) 16:20-17:20 北浩樹(東北大学 助教)		10 (2) (8)
58	健康科学セミナー第5回「心臓と血管の老化」 2018年2月20日(火) 16:20-17:20 佐藤公雄(東北大学 准教授)		12 (10) (2)
59	平成29年度東北大学新任教員研修 2017年4月11日(火) 13:30-16:50 里見進(東北大学 総長)、花輪公雄(同 理事(教育・学生支援・教育国際交流担当))、 伊藤貞嘉(同 理事(研究担当))、吉武清實(同 高度教養教育・学生支援機構 特任教授)、 羽田貴史(同 教授)		307

2017年度 参加者数 延べ2,742名

③ PD セミナー開催数・参加者数（2010～2017 年度）



4.5 PD セミナー参加者アンケート結果

高等教育のリテラシー形成関連 (コード:L)

「しまった!!」とならないために —ICT 時代の教育で押さえておきたい法— (2017.6.29)

三石 大 (東北大学教育情報基盤センター 准教授)
金谷 吉成 (東北大学法学研究科 講師)

回収率 =100.0 (11/11)

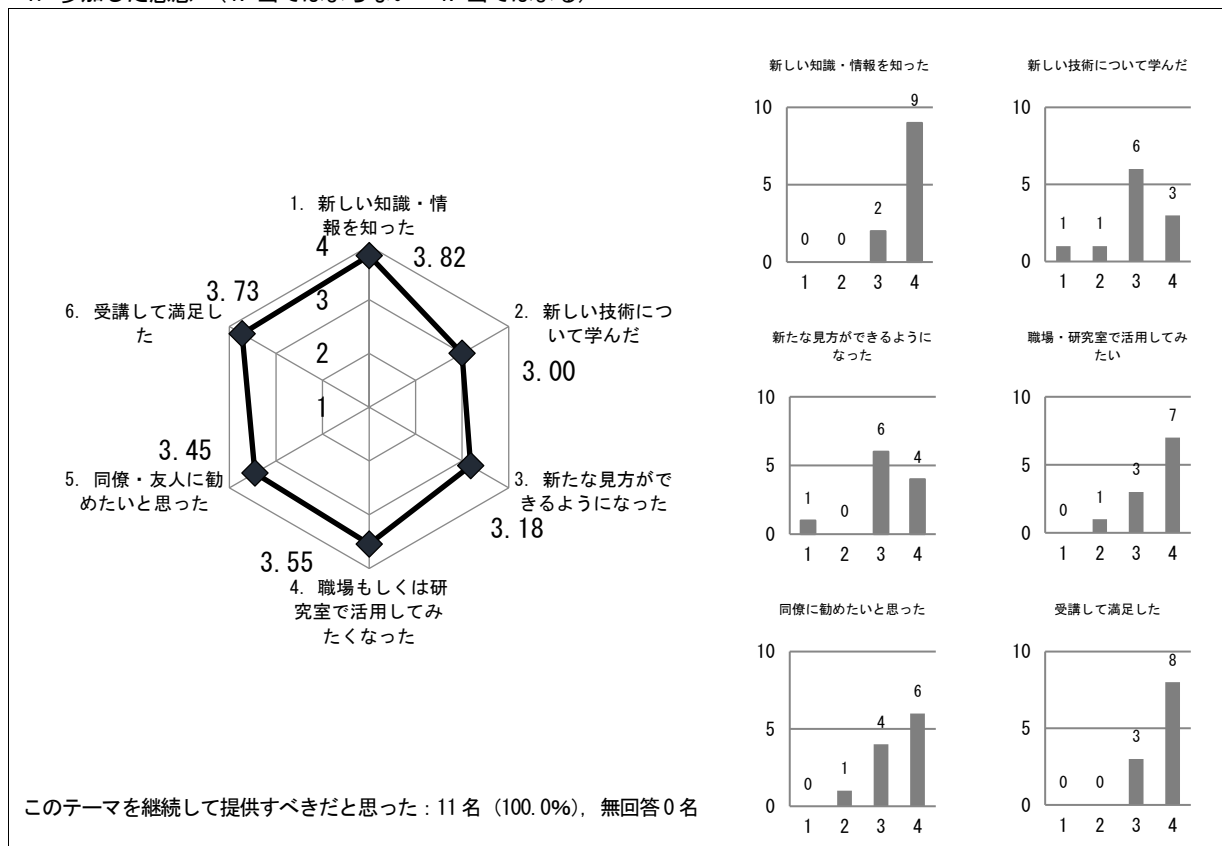
回答者属性(N=11)

【職階】教授(2)/准教授(0)/講師 (0)/助教・助手(3)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・一般職員等>(4)/その他(0)/無回答(2)

【性別】男性(4)/女性(5)/無回答(2)

【学校種】東北大学(3)/東北大学外(6)/無回答(2)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・「なんとなくこうかな?でも良く分からない」と思っていた事についてのお話で解説も丁寧にして頂いたのでイメージが持てた。
- ・①教育利用について ②グレーな部分が多いということ ③法律を知ること、「できること」がわかってくるということ。
- ・授業内容の定着のための教材を複製利用できること。
- ・今回学んだことを正しく活用すること。
- ・教材を共有する際に注意すべき点、補足がよかった。
- ・著作権の範囲について、具体例を交えて知ることができたのが良かった。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・具体事例になっていくと難しいなあと感じました。
- ・解釈の仕方

4. セミナーについての意見・感想

- ・今回もありがとうございました。ずっと気になっていたテーマだったので開けて良かったです。
- ・クイズ形式で楽しく受講できました!
- ・自分の理解度について確認することができました。ありがとうございました!
- ・クイズ方式でクリッカーを用いた方法はおもしろく、自分の考えと解答の違いを比較でき、自分の理解が不足していた点や、誤解を明確にすることができました。

回収率 =92.0% (23/25)

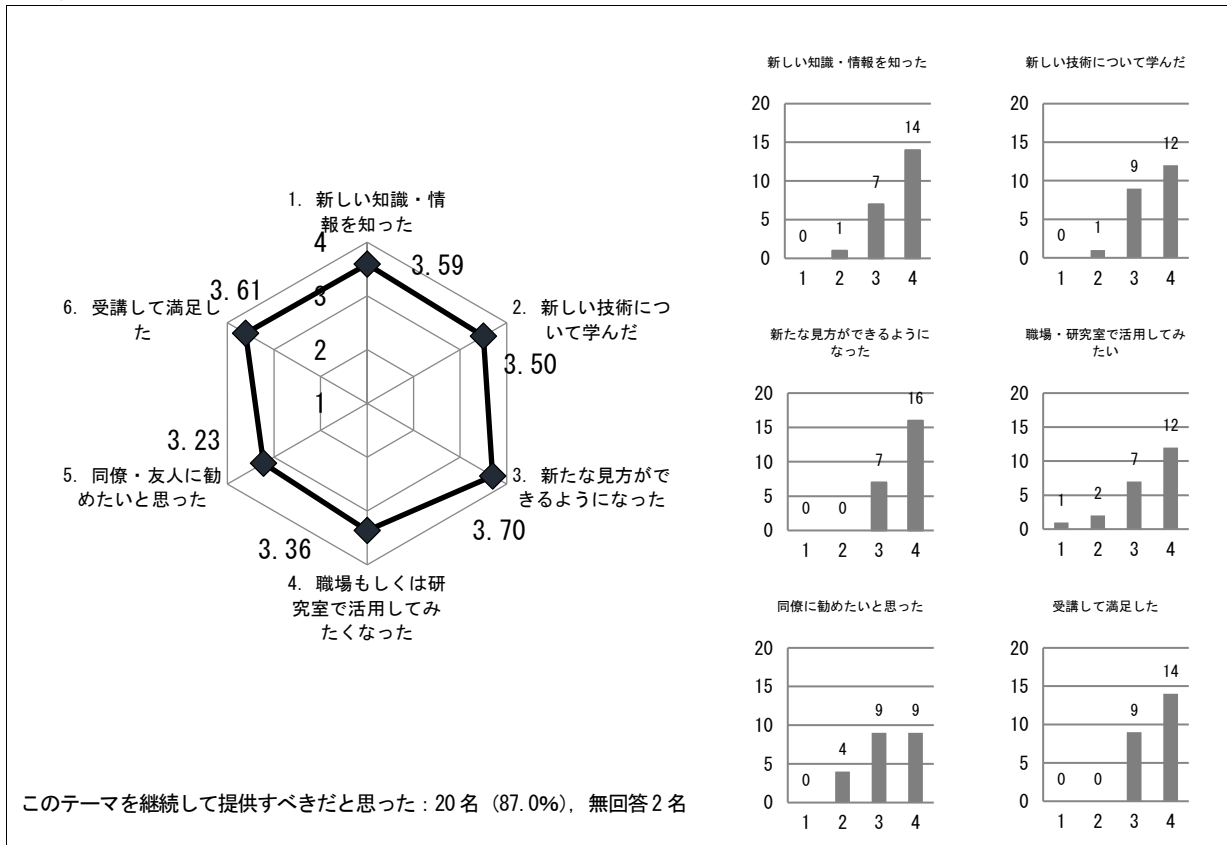
回答者属性(N=23)

【職階】教授(4)/准教授(2)/講師 (3)/助教・助手(10)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(3)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・一般職員等>(0)/その他(1)/無回答(0)

【性別】男性(15)/女性(8)/無回答(0)

【学校種】東北大学(14)/東北大学外(9)/無回答(0)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・領域ごとの目標設定の仕方
- ・(合計配点・配分率)の考え方が役立つと思った。
- ・ルーブリックのご紹介
- ・授業デザインの設計の順番
- ・シラバスの作成にあたり、目標設定や成績について細かく設定する方法を知った。
- ・授業のシラバスのルーブリックの作り方が、具体的にわかってよかった。45hour という設定を生かす方法がわかってよかった。
- ・今年度着任したところで、本年度のシラバスは前任者が作成されたもの、次年度に向け、大変、参考になった。
- ・実際の授業設計の仕方
- ・シラバスの役割をあらためて理解が深めていきました。(中国での大学においてシラバスあまりなかった)、そして、学生のフィードバックの重要性も今回のセミナーを通して初めて気付いて、今後の授業上に役立ちそうと思います。
- ・シラバス設計の具体的な指針
- ・シラバスの作成方法
- ・ルーブリックと目標の区別
- ・シラバスのフォーマットの意味を、法律をふまえて知れたのが今後に役立つと思った。
- ・シラバス作製手順に関して、その意味。
- ・自主学习について、計算のしかた。
- ・目標→評価方法→内容の立て方と、時間外学習との分配について。
- ・①システムティックなシラバスの作り方 ②点数と時間配分の適正化
- ・授業デザイン3要素を考える順序、目標に結びついた評価方法の設計方法。
- ・授業時間外学修の考え方
- ・ワークショップはとてもよかった。
- ・目標→評価→内容という設計の立場、ルーブリックの考え方
- ・ルーブリックのご紹介活用

3. わかりにくいと思ったこと

- ・成績評価方法の様々な具体例があれば、もっと理解しやすかった。
- ・途中からの参加だったので、追いでいけず、残念。
- ・授業外の時間の配分は設定することが難しかった、学生の立場に立って考えなければならないので、学生の能力による勉強時間が長くなったり短くなったりするので、先生としてあくまで自分の授業内の時間配分をうまく設定できると思います。
- ・授業設計にかかわる法律や背景知識についてわからないことが多かった。
- ・時間の割合を計ることが意外と難しかったです（主に教室外の学生たちの勉強時間を予測することが難しいからです）
- ・30回のシラバスを作っていたので、15回で実習するのに少しとまどいました。
- ・成績評価法のそれぞれの特徴に関して。
- ・時間外学習への時間配分について
- ・事前準備のための東北大学のシラバスがないように思えたので、公開または電子ファイルがあればよいと思った。

4. セミナーに関しての意見・感想

- ・(アンケート第1問の1~5) 近い、親しい教員が皆、10科目以上(私も15科目)年に持っていることを考えると、この作業はたいへんで、オススメしにくいと思いました。(逃げと言われそうです)
- ・時間と場所がHPの記述と違うので、間違えてしまった。変更した情報はすぎにHP上で反映させて欲しい。
- ・少し難しかったです。自分がやっている講義の素らバスよりも、未確定のやりたい講義についてのシラバスの方がよいかもしれません。
- ・計算機が置いてあってもいいかも。

大学生のクリティカルシンキングの育成 (2017.9.23)

楠見 孝 (京都大学 教授)

回収率 =90.5% (57/63)

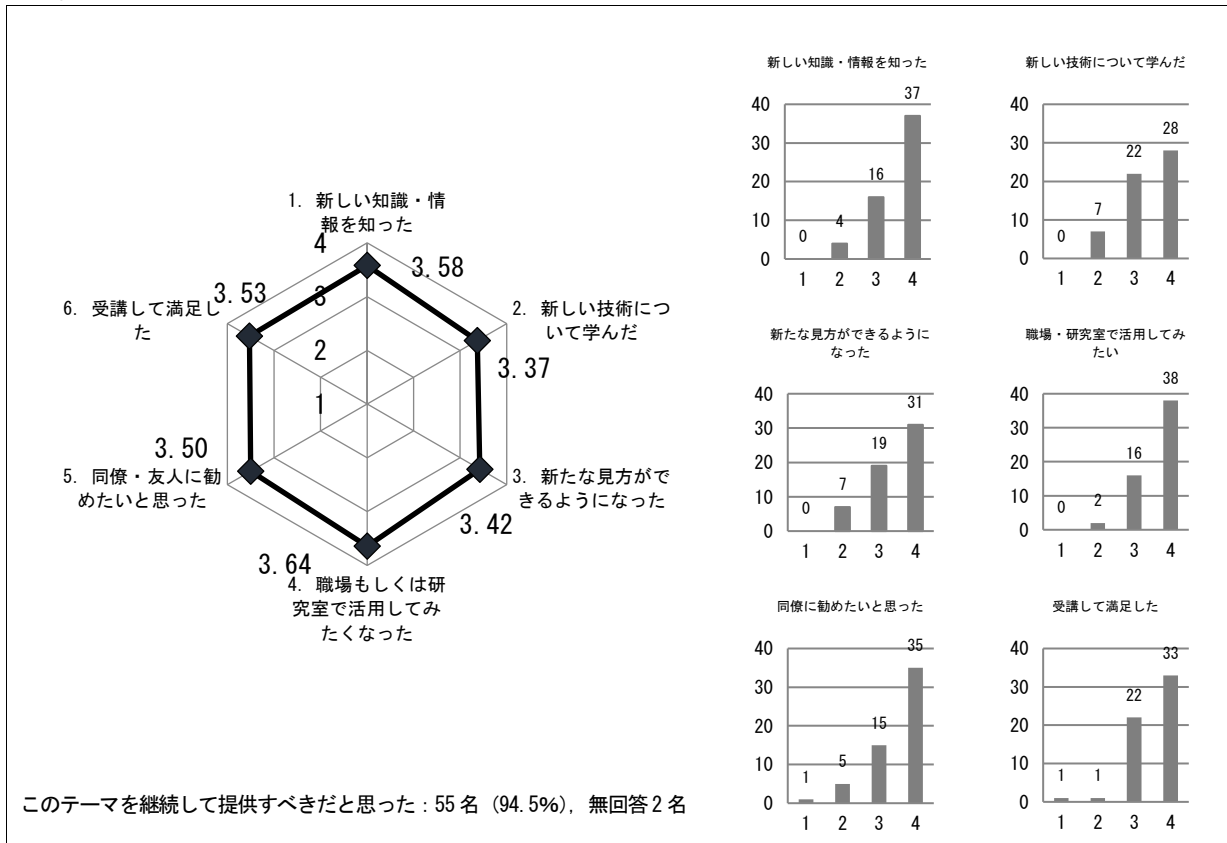
回答者属性(N=57)

【職階】教授(8)/准教授(16)/講師(3)/助教・助手(12)/管理職教員<学長~学部長>(1)/博士課程(6)/職員<部長・課長以上>(1)/職員<係長・主任・一般職員等>(6)/その他(2)/無回答(2)

【性別】男性(30)/女性(25)/無回答(2)

【学校種】東北大学(26)/東北大学外(29)/無回答(2)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・具体的な授業例が聞けて大変参考になりました。
- ・楠見先生の授業の実践例の紹介内容。
- ・専門教育におけるそれと転移可能性のカリキュラム上のバランス。
- ・内容自体とても参考になりました。
- ・授業の中に部分的にクリティカルシンキングの内容を入れこめそうなので、検討しようと思います。

- ・具体的な理論，実践方法を教授していただくことで，私自身が実践する際にも非常に役立つ知識を得ることができました。
- ・①クリティカルシンキングを把握するためのフレームワーク。②今までも育成方法として示された内容にやっていたが，それらを1つの枠組みの中で整理できて良かった。
- ・授業実践例等，具体的例をご提示いただき，大変参考になりました。
- ・システム1と2の関係から考えてみることで，市民性との関係の重要性，混合アプローチ。
- ・フィードバックの実践方法，クリティカルシンキング能力の評価方法。
- ・具体的な授業方法。
- ・クリティカルシンキングの定義，授業実践例。
- ・具体的授業計画例。
- ・次年度の初年次教育で，実践（学生へのスキルを教える。討論）していきたいと思います。
- ・授業の実践例の紹介。
- ・クリティカルシンキングは自分に対する批判的思考のプロセスで，自己のふりかえりが主眼にあるという考え方。日記法でクリティカルシンキングで得たふりかえりを自身の行動変容につなげること。
- ・クリティカルシンキングの定義の明確化。内省的思考がメインにあるとは知らなかった。
- ・授業の実践例はとても参考になり，活用させて頂こうと思った。
- ・実践例。
- ・クリティカルシンキングの測定が標準化テストによってできる。
- ・クリティカルシンキング教育の具体的な実践や評価について，理解することができた。初年次から計画的にクリティカルシンキングを理論的におさえておいて，授業に組み込んでいくことが必要だと感じた。
- ・どのようクリティカルシンキングを教えるかということを理論的に基づいて説明していただき，分かりやすかったです。
- ・クリティカルシンキングの授業15回をどのように組み立てるのかということ，毎回の授業の具体的な進め方。
- ・自分自身で，クリティカルシンキングという考え方をおさえておく，知識スキルを身につけるという側面だけでなく，自分自身の内省あるいは市民性ということとむすびについていることを改めて，考えることができた。
- ・定義→実践のとらえ方
- ・評価法を実際のためにためてみたいと思った。
- ・ジェネリックスキルについて，クリティカルシンキングの有用性。
- ・クリティカルシンキングの有効性。
- ・クリティカルシンキングの全体像の理解が深まった。
- ・クリティカルシンキングの育成について，自分自身と学生指導。
- ・なぜクリティカルシンキングが必要であるのかを詳細に解説されたことで，知識としてだけでなく，体系的に理解が深まった。二重システム理論についてIRを行う際に分析し，報告をする自分自身が意識しなければならぬと感じた。
- ・クリティカルそのものの分析，力の身につけ方，はかり方すべてに役立ちました。
- ・クリティカルシンキングに対する概念的な理解が深まった。大学職員のSDプログラムへの適用（特に中堅以上の年代）についても，必要性があると感じた。
- ・クリティカルシンキングの理論的背景
- ・授業の構成
- ・①クリティカルシンキングと様々なリテラシーの関係②リテラシーの獲得と育成の注意点。
- ・クリティカルシンキングの構成要素の整理ができたこと。
- ・understood the process of critical thinking and usage in better way.
- ・クリティカルシンキング研究論文を読む時のワークシートを参考にしたいと思いました（スライド43），予習ワークシート。
- ・クリティカルシンキング（批判的思考）の概要を理解できたことで，それに基づく学生指導が実践できそう。
- ・クリティカルシンキング自体の重要さはもともと強く認識していたが，その構成要素を分解して見せていただいたことで，自分に欠けている部分など，あらためて考えることが出来ると思う。
- ・授業の構成に関わる情報が役に立っていると思います。後はスライドのテキストを読み直さなければなりません，このようにスライドと講義の内容がこれほど一致している以上，テキストを事前に配布して，後は皆で討論した方が効果的ではないかと思えます。
- ・授業の展開方法
- ・先生がご自身の授業について開示していただいたことが，私の授業や研究に活かそうと，大変収穫のあるセミナーでした。
- ・”大学生の”クリティカルシンキング育成というテーマでしたが，私たち教員自身が，これを身につけることが重要だと分かったこと。
- ・クリティカルシンキングの評価方法について。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・ふだん理系にどっぷり浸っているで，前半についてはポイントがつかみにくかった。まだ十分に消化できていない印象。
- ・内容が深くためになることだったので，もう少しゆっくり聞きたかった。
- ・クリティカルシンキングの成績としての評価方法。クリティカルシンキングの重要性をどのように学生に伝えるか。
- ・クリティカルシンキングの意義を学生が教員に理解してもらう方法。
- ・データの数値の根拠。
- ・その授業例の評価（P53,54）からは，少なくともそれは効果があったと結論できないと感じた。
- ・スキルの定義が難しい，（特に学生にわかりやすく伝えること）
- ・紹介された本の情報がよくわからなかった。
- ・クリティカルシンキングの標準化について。
- ・もう少しスライドを減らして，焦点を絞って内容をあつくされると来て良かったと思えると思います。スライド内に全て情報が載っているので，読むだけで十分に感じてしまいました。
- ・P44の批判的思考得点は何で（P43の評価のこと？）どうカウントした（計った）ものか？（Meltzoff1997）にあるのか？
- ・①P17：コミュニケーション能力とクリティカルシンキングの重なりが何を意味しているのか？②P41，deep learning for ALではないか？

- ・具体例が少ないように思われた。
- ・混合アプローチ
- ・専門用語の定義。
- ・アクティブラーニングをやればクリティカルシンキング力がつくとは思わないので、うまくアクティブラーニングと組織することが必要ではないかと思った。ディベートすれば/他者の意見を聞けばクリティカルシンキング力が身につくとは思わないので、関係ないですが、高校でのアクティブラーニング導入とかなにか心配です。
- ・シティズンシップ教育とクリティカルシンキングの関係性、リカレント教育なども視点に入れた諸外国などでの「良き市民」の育成事例なども知りたかった。→米国のコミュニティカレッジなどでの活用例など。
- ・授業での実践方法。
- ・大学1年生(高校終わったら)クリティカルシンキングどうやって育成する？
- ・Lecture contents were bit technical with many jargons used frequently in slide.
- ・カタカナが多い。普段使わない専門用語が多く、頭にスッと入ってこない。声が小さく聞き取りにくかったです。(すみません)
- ・私(自然科学専門)にとっては、専門用語(カタカナ)が多くて、少し混乱した。
- ・後半部分、時間的な制限かスピードが上がったので、少し追いつけないところがあった。
- ・評価は難しい、ルーブリックを使っても、困難なところがあるのでは？と感じました。
- ・クリティカルシンキングの修得を促す授業について、これをテーマとした単独の授業以外に、この分野の専門家でない私たち授業者が、自身の科目で部分的に取り入れる方法の例があれば、より理解が深まると思う。
- ・クリティカルシンキングを教える際の既存の授業との関係性。

4. セミナーに関する意見・感想

- ・継続的/(長期的)な効果についても知りたかった。(追跡調査などあれば)
- ・クリティカルシンキングについて、継続的にセミナー開催していただきたい。まずはさらに、クリティカルシンキングについて、自分自身も学ぶ必要があると感じた。(一部分は日頃の研究活動の中で無意識に行っているのだろうが・・・)
- ・授業者の訓練は、やはり課題だと感じている(そのための参加しているのですが)。クリティカルシンキングのスキルを育てることを、態度を育てるのは、また、別のアプローチが必要だと感じています。どこまで自分の責任でその問題にこだわり考え続けられるかという事象、現象(社会)へのコミットメント、ある意味倫理の課題だと思うのですが。
- ・午前、午後通して大変益になりました。ありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・講義の途中で、1分間だけでしたが、隣りの人と話しあう時間を取って頂いたことが大変有り難かったです。これがなければ、もしかしたら講義の内容に集中することが難しかったかもしれません。有り難うございました。
- ・大変有意義な話だったとは思われたが、議論を行う時間が欲しかったと思う。
- ・いつもありがとうございます。
- ・とてもよい。
- ・ディスカッションの時間が短かったので、申し少し、長めにその時間を取っていただきたいかった。
- ・本で読むより、理解が深まりました。
- ・育成の事例を教えてくださいたいと思います。
- ・非常に分かりやすい話でした、ありがとうございました。
- ・おもしろかったです。

回収率 =91.7% (33/36)

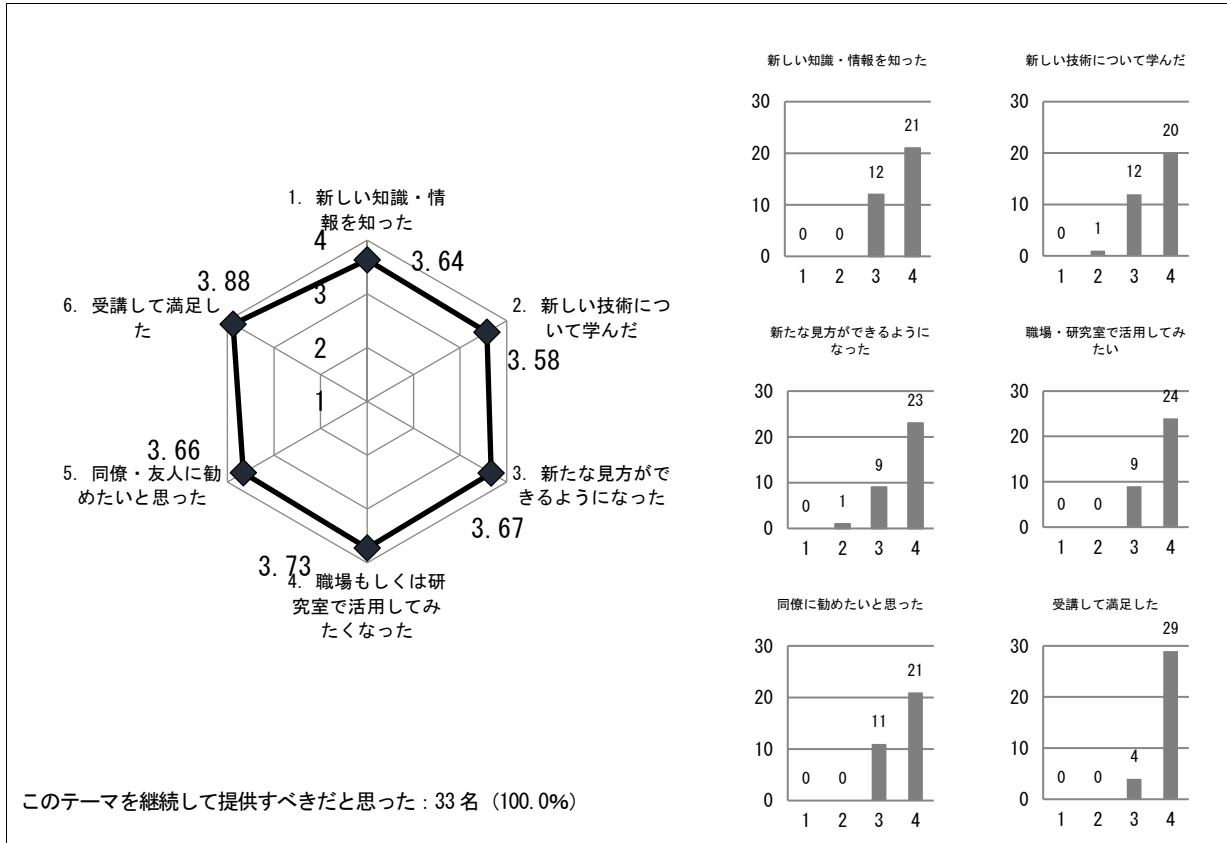
回答者属性(N=33)

【職階】教授(2)/准教授(4)/講師(4)/助教・助手(12)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(3)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・一般職員等>(2)/その他(3)/無回答(3)

【性別】男性(16)/女性(14)/無回答(3)

【学校種】東北大学(21)/東北大学外(9)/無回答(3)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・まとめ方の方法, 3「そう」などの構造化などが参考になった。
- ・「そういえば」の自己関連づけが大切ということ, 人は言われたないと既有知識と関連づけられないということ。
- ・全部役立ちますが, 特に勉強になったなあと感じたのは、「伝わらない理由」, 「3そう原則」, および「意欲を高める, 維持させる」の部分です。
- ・既有知識との関連づけ
- ・①動画などの取り組み方を考える, 3「そう」を上手に使いたい。 ②パラ言語をもっと使う。学生との距離感をちぢめる。
- ・気分に対する考え方。
- ・講義の組み立て, 受講者の理解促進方法。
- ・既有知識に働きかけること。
- ・実際(実践)に促した内容で, 構造化 etc. すぐ真似させて頂けそうなことを多く聞いて大変勉強になりました。
- ・全体的にわかりやすかったです。
- ・まとめをスライドのエンドロール+BGMで内容と音楽の長さを一致させて行っている手法, 授業ペーパーの活用法の具体的なやり方。
- ・理解の認識プロセスを念頭に置いて授業づくりを行っていきたい。
- ・精緻化するために情報を付け足す必要があるということ で分かった。
- ・①既有知識が理解に重要である点。 ②頭の準備状態を整える点。
- ・①マジカルナンバー3, 授業組立の提示。 ②意欲を引き出す。
- ・知識の伝え方, 前提の既知情報は重要。
- ・①授業のバタンや伝える方法(実践, 画像, 連想) ②学生評価的内容についての対策 ③終わった時に繰り返す。
- ・なんとなくおもった思っていた授業の工夫を具体的, 学問的に教わったこと。
- ・3” そう” は便利だと思いました。
- ・①関連付け ②学習無力感を減らす ③ポジティブ認知 ④パラ言語
- ・理解の認知プロセスに基づいて, 様々な工夫を授業で実施していることが, とても役立ちそうだと思いました。
- ・セミナー自体が素晴らしい授業の一例にされていて, 受講だけでは勉強になりました。
- ・学生の感情を揺さぶるという視点。

- Really nice & balanced lecture, actual example were nice to see and understand.
- 各回の授業の話と学期を通じた15回分の話をつなぐことができたので、イメージしやすく、すぐ自分の授業に反映させられるように思う。
- 先生のお話はとてもわかりやすい。
- 理解の認知プロセスに関して、理解を支援する方法など、具体的な方法をご教示いただきました、ありがとうございました。
- 授業の中で様々な仕掛けを用意し、学生の意欲を引き出し、理解を支援する方法をこのセミナーの中で実際に取り入れて説明していただいたのが大変役に立ちました。
- 知識のギャップ、既有知識の考え方。特に学生の能力を高く考えがちである（自分が学生るときよりも）
- メンタルモデルをどう作るか、学生の意欲の維持。

3. わかりにくいと思ったこと

- 動画の活用方法やどこから動画を持ってくるのか？
- 学生の既知情報を活性化するための媒体/情報の収集が難しそうです。
- アクティブラーニングの具体的な実践法についてもっと知りたいです。
- 学生とのコミュニケーション方法
- 抽象と具体化の連続のイメージがわからなかった。
- 「構造化」は私も個人的に強く意識していますが、それがパターン化しすぎると、マンネリ化につながる可能性もあると思いますが、毎回の授業にどう変化を加えているのか、という点。
- 数字を扱う授業において、動画の取り入れはどうしたらよいか？
- 主題性効果説明の時の心理学事例
- 既有知識のレベル、予習をさせるにはどうしたらよいのだろうか？/既有知識を増やすには、
- Few example were bit difficult, but I believe it's language relevant issue.

4. セミナーについての意見・感想

- とてもよかったです。
- 英語に興味をもたせるにはどうすればよいでしょう・・・
- 大変勉強になりました。また参加したいのです。
- 邑本先生のセミナーに2回目の参加させていただきました、前回は含め新しい事も、再確認もすることができました。どうもありがとうございました。
- 非常に参考になりました。ぜひ続けてほしいです。
- わかりにくいことはありませんでしたが、講義内容をもとにした、他の先生方の様々なバリエーションについて、学んでみたいと思いました。
- ①今回のテーマは非常に良いと思います。②今回も質問に出ていた、動画を授業に使用するに当たってのコンプライアンス問題、技術的な問題、良い授業例などのセミナーを是非企画してください。
- 今日の先生のお話自体が「メタ授業」としてのモデルになっていたらしゃり、大変勉強になりました。授業はある意味、微分・積分の集大成のイメージですので、メリハリ（=かたむき）も大事にした授業づくりをしていきたいと思っています。
- 非常に興味深い内容であきることなく聞くことができました。
- とてもわかりやすい、理解しやすい、とても勉強になりました。今後の授業のやり方へ非常に役に立つと思います。

回収率 =68.8% (33/48)

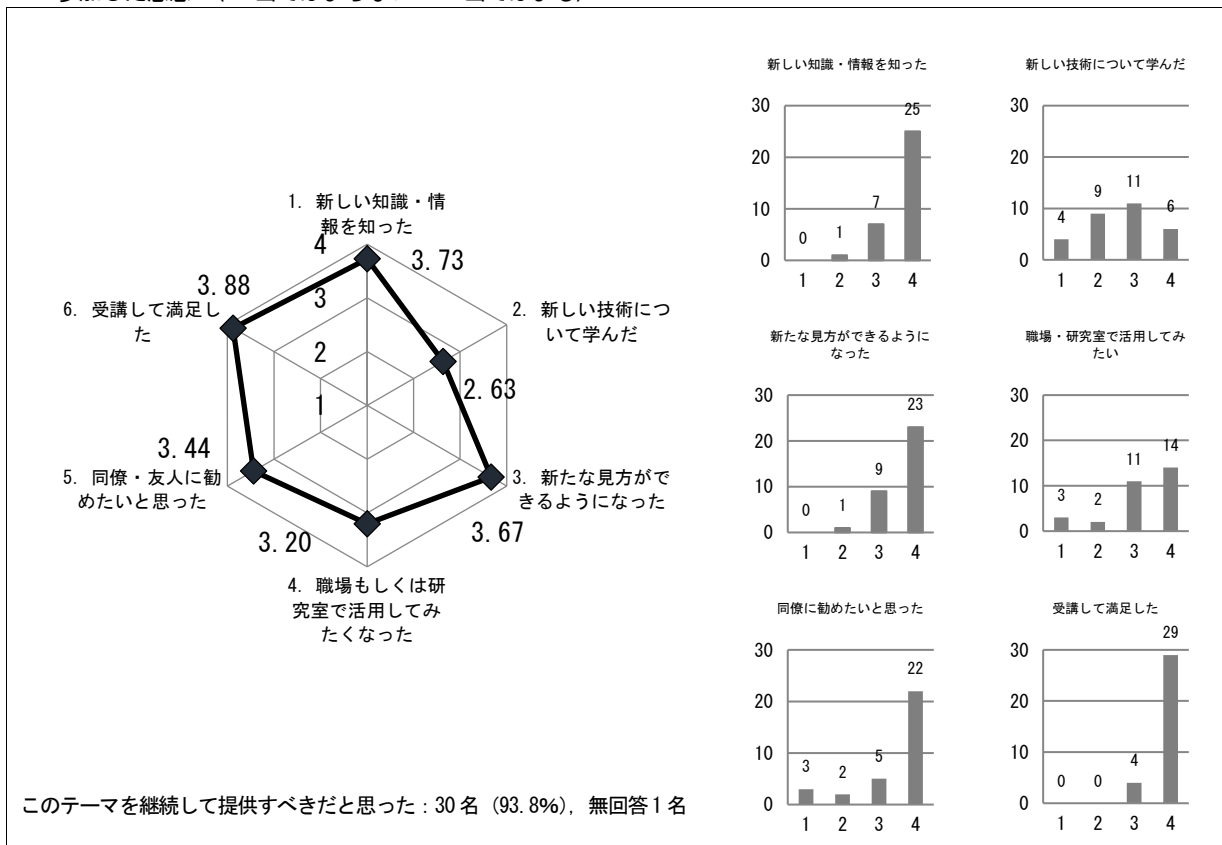
回答者属性(N=33)

【職階】教授(4)/准教授(11)/講師(2)/助教・助手(2)/管理職教員<学長～学部長>(1)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(2)/職員<係長・主任・一般職員等>(8)/その他(0)/無回答(3)

【性別】男性(23)/女性(8)/無回答(2)

【学校種】東北大学(10)/東北大学外(18)/無回答(5)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・政策の見方
- ・歴史的整理が大変役に立った。
- ・知らない所で様々なことが動いていたのを知ったこと、大学の置かれている状況が、これまでよりクリアになった。
- ・高等教育政策を多面的に見る姿勢を学んだ。紹介された本などをきちんと良くみようと思った。
- ・単なる事例調査ではなく、理論(内容)研究の重要性
- ・日本の高等教育政策史
- ・①批判的思考が身につく、仕事に活かせると感じた。 ②これまでの経緯が良く分かった。
- ・①教育行政についての歴史(悪話) ②今後の方向性に関するサジェスション
- ・政策について継続的なレビュー(専門的でフラットな)が必要
- ・研究をする上での姿勢。
- ・経団連の求める学生像と日本の高等教育の現状のギャップは納得しました(ショックでもあり…)
- ・政策はあまり気にせず、学生の学びを最大化できることをしっかりやるのが重要だと思った。
- ・政策科学の重要性
- ・歴史的な流れに沿って、文書等の資料で補助しながら論をつみあげられていて、分かりやすかったです。その資料の使い方は参考になりました。
- ・高等教育行政を主導する官庁についての話(文科、内閣府…)
- ・批判精神
- ・①大学の自立(律)性を考えていくこと、(補助金目当ての施策ではなく、質保証、学生のための施策を考えていくこと) ②政策科学(高等教育政策)の重要性、批判的思考の重要性
- ・日本の歴史
- ・現在の高等教育政策における課題と論点を時系列的に詳細な話をさせていただくことが興味深かった。
- ・今の大学教育政策の問題点、その歴史的経緯がとても良く分かった。新自由主義的な考え方がせっけんしている政治、行政界の実情のお話しがそうなのかと納得した。小選挙区制の問題もとても同感した。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・「大学の在り方」、「授業の在り方」についての担当者の説明（もう少し時間が必要か）
- ・基本的な知識が足りない状態だったため、説明についていけないところが多かった。
- ・高等教育政策の必要性。
- ・①経団連の求める学生像に対して、一教員として何ができるのか… ②卒業研究を開始するレベルに到達できない学生に対して、高等教育の問題は？学問に興味がなくともコミュニケーション能力は高かったり…
- ・実際に学内政策（申請書、評価書）を作っていないと、たぶん、わかりにくいところもあったかなあとは思いますが、僕にはわかりやすかった。
- ・政府資料の文言の読み方（独特の文法です）
- ・官庁、内閣の動きに対する大学内部の反応
- ・時間をもっととっていただきたいかった。
- ・問題点はとてもわかったが、どうしていくとよいか、その多様な方向性をいろいろ示してもらえるとよかった。

4. セミナーについての意見・感想

- ・講演者へ、私は、経済活動が縮小する方向の社会も悪くないような感覚を持っています。バブルがはじけて後、アベノミクスまでの間の生活にある程度の落ちつきを感じていたという単純な経験に根ざしているのかもしれませんが。
- ・それほど過激ではなかったですし、治療薬はなくとも、なんらかのクスリか改善提案は欲しい。ダメだっていうのはかんたん。
- ・講演者のお考えがとてもよく伝わる、興味深い内容だった。
- ・東北大学の学生には俯瞰力を求めています。でも、大学人に俯瞰力が無いとするならば、学生が育つだろうか。
- ・講演者へ、これまでいつも大変貴重なお話しありがとうございました。毎回、楽しく拝聴させていただきました。理論だけでなく、実態を含まれたお話しに感銘を受けました。また、お話しをお聞きできることができればと願っております。
- ・大学にいる人間として考えるべき論点が多く、大学人として社会との関わりをエビデンスに基づいて検証するの必要を学びました。
- ・引き続き講演者のご講演の続編を聞きたい。

世界の高等教育改革と危機に立つ教養教育 (2017.12.25)

青木 利夫（広島大学 教授）、平手 友彦（広島大学 教授）、綾井 桜子（十文字学園大学 准教授）、鈴木 大裕（NPO 法人 SOMA 副代表理事、コロンビア大学大学院）

回収率 =36.6% (15/41)

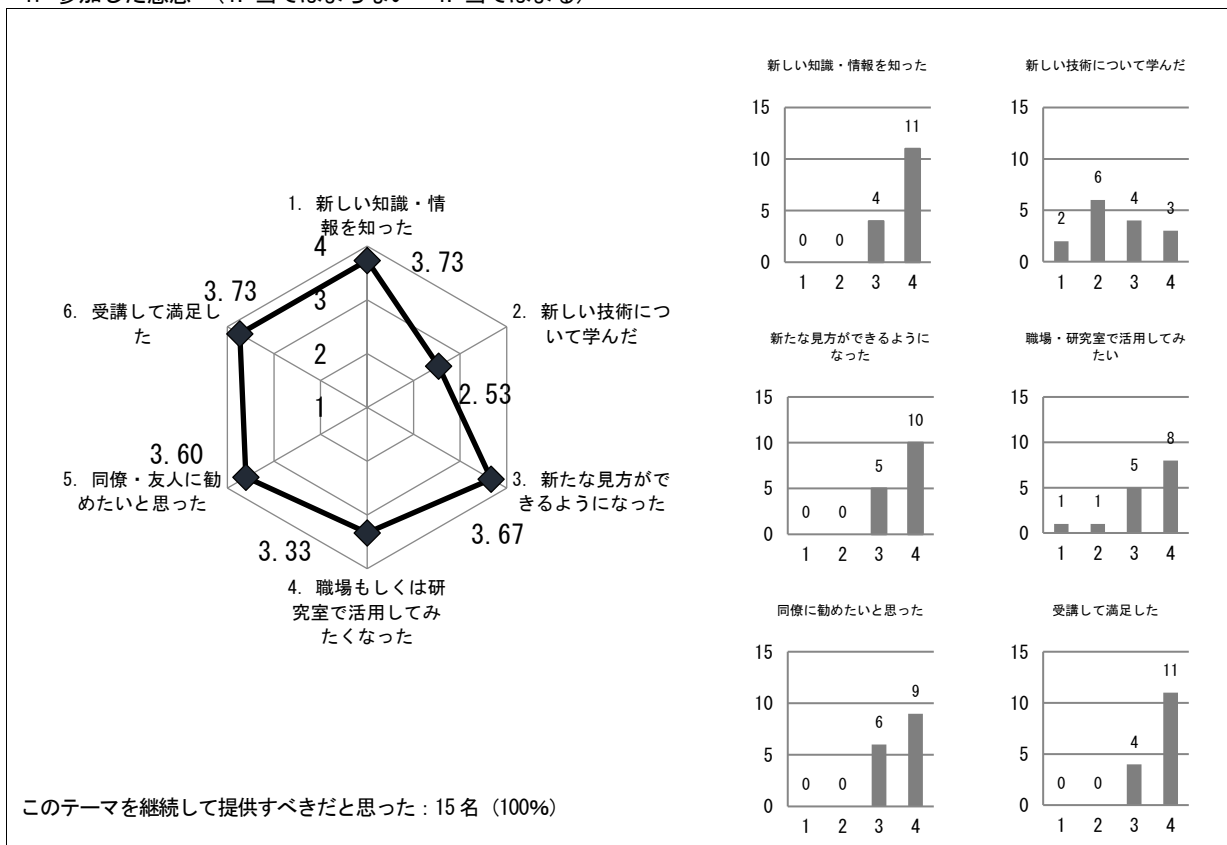
回答者属性(N=15)

【職階】教授(4)/准教授(3)/講師(0)/助教・助手(0)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(3)/職員<係長・主任・一般職員等>(0)/その他(4)/無回答(1)

【性別】男性(12)/女性(2)/無回答(1)

【学校種】東北大学(2)/東北大学外(9)/無回答(4)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・教養教育 j の重要性を改めて認識した。教養と専門の二極対立の構図じゃなく、教養の重要性をどのように広めるかを考え、実践しなければならぬと思いました。教養は人生で専門が技術でしょうか。
- ・①広島大での取組み状況 ②アメリカの教育が抱えている問題の底流となっている思想。
- ・鈴木大裕氏の講演
- ・役立ちそう、この問いの前で立ち止まる感性。
- ・①平手先生のしたたかさ、笑い…情報発信、勇気の大切さ！ ②綾井先生、鈴木先生の世の中は、経済的価値だけじゃない、数で測れることだけではないことを知る大切さ！ ③批判力を身につける大切さと伝えていくこと。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・フランスの教育史は、興味深く、学ぶことは大切だと思いますが、専門学会の講義ではないので、専門家以外にもわかるようにお話いただければと感じました。それが、教養の重要性を広くうたえることにつながるかと思いました。
- ・参加者それぞれどういう現場にあって、どういう問題関心から今日参加していたのかということ。

4. セミナーについての意見・感想

- ・ありがとうございました。
- ・新自由主導の教育の問題点がとてもよく分かりました。

21世紀に求められる「革新的な高等教育」の創出に向けて (2018.3.27)

Andy Leger (Queen's University 准教授)、Angelito Calma (University of Melbourne 上級講師)

回収率 =70.0% (7/10)

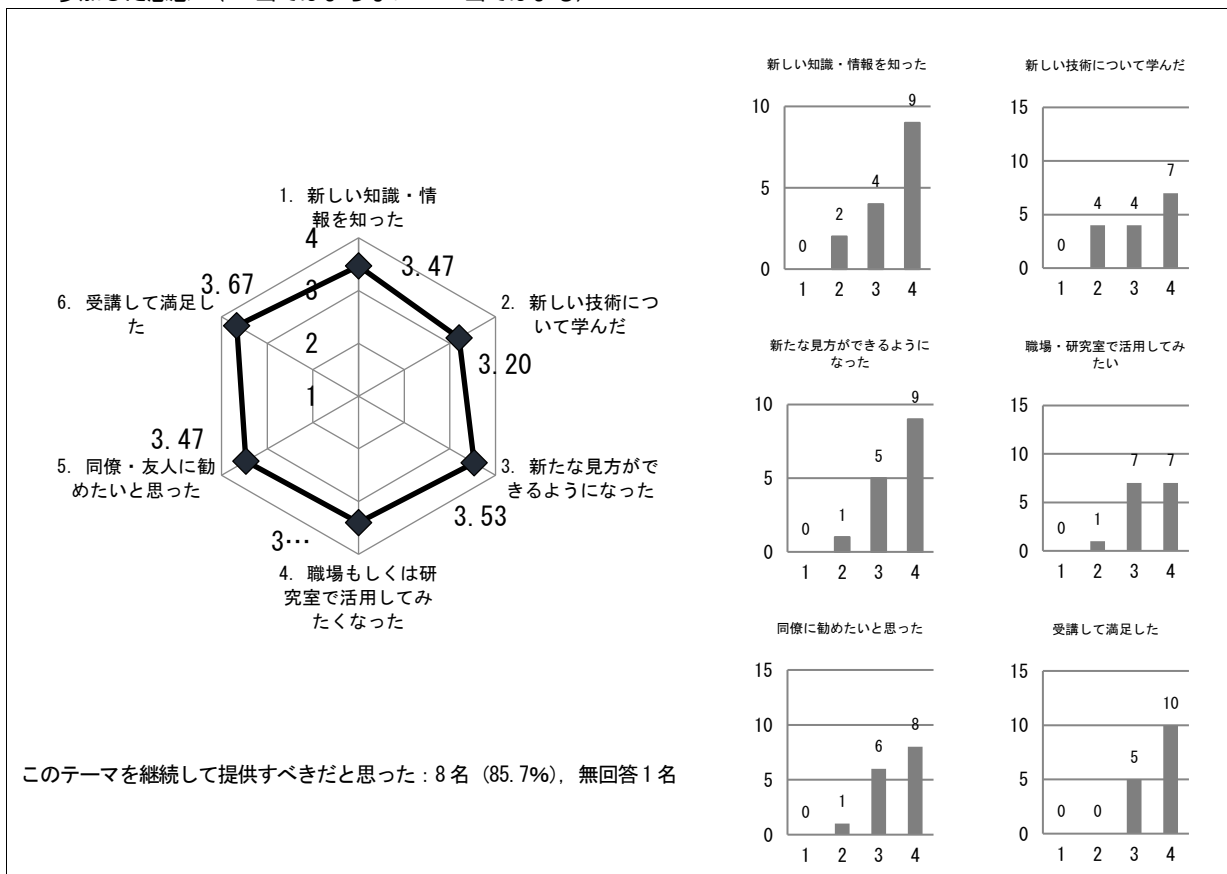
回答者属性(N=7)

【職階】教授(0)/准教授(2)/講師 (1)/助教・助手(0)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(1)/職員<部長・課長以上>(1)/職員<係長・主任・一般職員等>(15)/その他(0)/無回答(2)

【性別】男性(3)/女性(2)/無回答(2)

【学校種】東北大学(4)/東北大学外(1)/無回答(2)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・Active learning: No study no increase for both professors and students. Only 10% of 126 students.
- ・Good content, clear talks, good complementarity.
- ・teaching の実例についてもうかがいたかった。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・今日は英語のお勉強でした。

4. セミナーについての意見・感想

- ・自分の研究活動と本講演はすぐには直接にはつながらないので、特に役立つことも、分かりにくいこともなかった。

専門教育での指導力形成関連 (コード:S)

科学教育を科学的に変革する: 学生が学習する授業は人気教授の名講義に勝る (2017.8.10)

スティーヴン・ポラック (コロラド大学ボルダー校 教授)

回収率 = 75.0% (15/20)

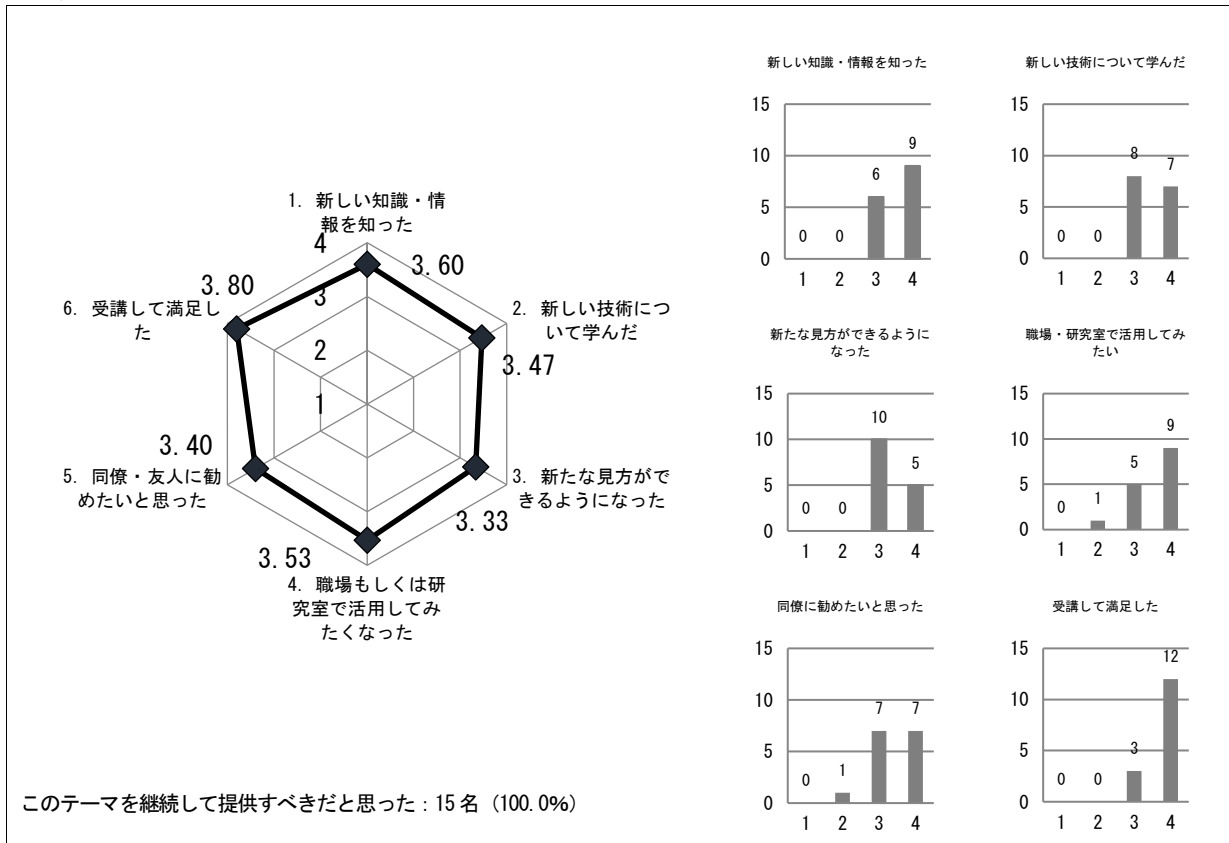
回答者属性(N=15)

【職階】 教授(4) / 准教授(2) / 講師(0) / 助教・助手(5) / 管理職教員 < 学長 ~ 学部長 > (0) / 博士課程(2) / 職員 < 部長・課長以上 > (0) / 職員 < 係長・主任・一般職員等 > (0) / その他(0) / 無回答(2)

【性別】 男性(11) / 女性(2) / 無回答(2)

【学校種】 東北大学(12) / 東北大学外(1) / 無回答(2)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない ~ 4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・日頃、ばくぜんと考えていた事、思っていたことが、理路整然と語られていた感じで、考えの整理に役立った。
- ・講義での clicker の使用
- ・①アメリカの物理教育について、定量的に知ることができ、非常に参考になった。②物理教育に focus したプログラムはあまりないので、とても関心を持った。
- ・①何を学ぶか明確化すること ②教育が評価されるべきこと ③Active learning が効果のこと
- ・working together with other professors
- ・今回のお話をうかがった、担当する 1 つの授業ではアクティブラーニングの考え方はうまく生かしているように感じましたが、もう一方の授業でもどう生かせるか考えたいと思いました。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・どのように具体的に学部全体として取り組めるようにするのか。
- ・STEM 成果について

4. セミナーについての意見・感想

- ・Faculty はプロフェッショナルだから、教育に時間を割く、力を入れるのは当たり前のことだったが、実際にはそんな人ばかりではないので、金銭的インセンティブを設けるべきだと思った。授業後の学生アンケートの結果が、必ずしも授業の良し悪しとは相関がないというのは全く同意だが、では、どのようにすればよい授業を測れ、それに対する正しい評価ができるのか考える必要があると思った。趣旨説明の話が長かった。
- ・非常に面白い内容でした、講師が非常に良かった。
- ・とてもわかりやすく、来学期の授業のヒントになりました。

大学フランス語教授法強化講座：「いま、外国語をどう教えるか？— フランス語を例に—」（2017.9.25）

クロード・ジェルマン（ケベック大学 名誉教授）、ロマン・ジョルダン（京都外国語大学 講師）、杉山 香織（西南学院大学 准教授）ベルトラン・ソゼド（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師）

回収率 =28.6% (6/21)

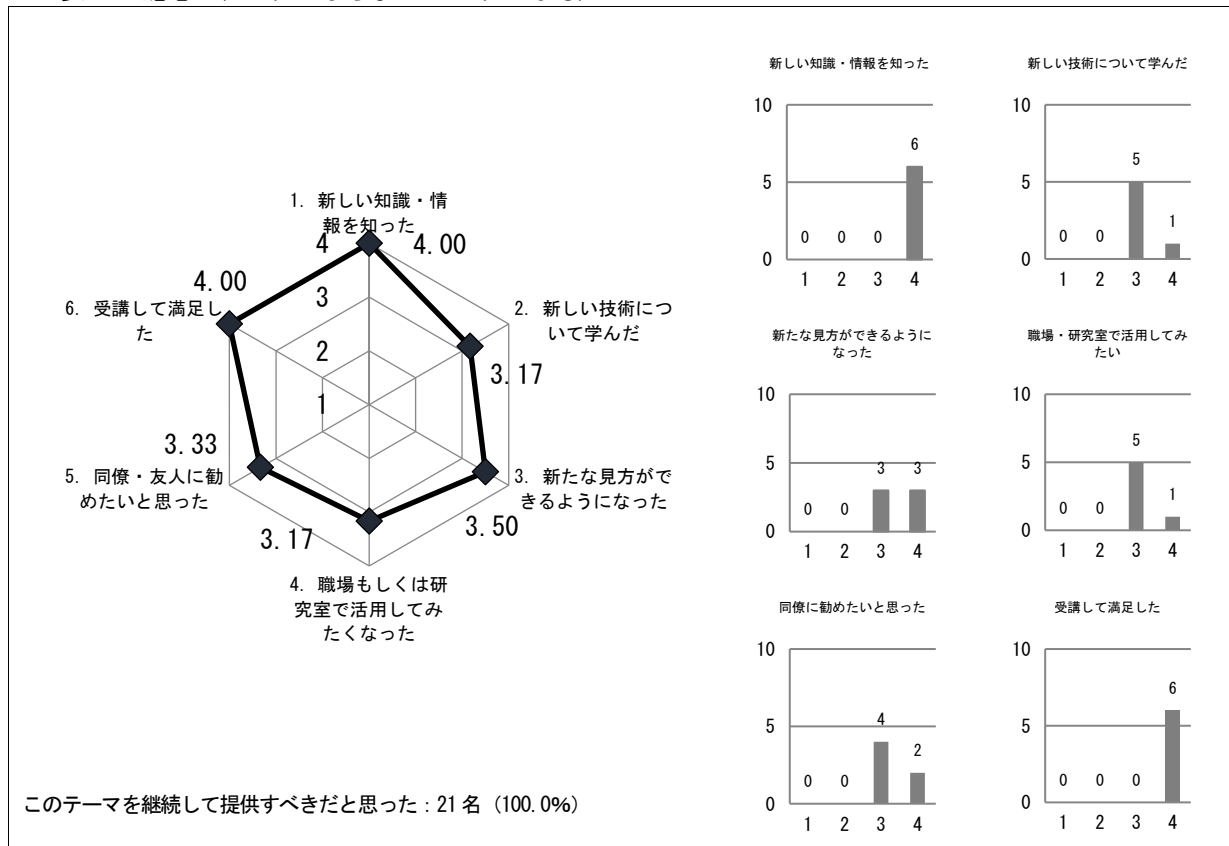
回答者属性(N=6)

【職階】教授(1)/准教授(0)/講師 (0)/助教・助手(0)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(3)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・一般職員等>(1)/その他(1)/無回答(0)

【性別】男性(2)/女性(4)/無回答(0)

【学校種】東北大学(5)/東北大学外(0)/無回答(1)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・ジェルマン先生とジョルダン先生の内文法/外文法概念、モデルが大事という話が勉強になった。口語/書き言葉の区別に必ずしもこだわらなくてもよい、また、生かす場面では意味さえ通じればよいのではなく、phraseを重視する、ということは非常に大切だと感じる。
- ・文法の種類（内・外文法）とPédagogie de la littératie
- ・オーラルから読み、書きにした方が使えるようになるということ。
- ・ANLという分野、教授法、発音教育の重要性。
- ・条件がそろった中でのANL

3. わかりにくいと思ったこと

- ・通訳やスケジュール/タイムテーブル配慮で、大変わかりやすかったです。Discussionで質問しようと思ったのですが、時間の関係でできなかったこと：Jourdan先生の話で、phraseで話してもらって心がけは本当に大切だと思うのですが、現代、一般的には（外国語を学んで旅行に行きたい、国際交流をしたい、などのモチベーションだと特に）「単語で伝わればよい」という認識がある中、どのように綺麗な文を活かすモチベーションを学生さんから引き出すのか？

4. セミナーについての意見・感想

- ・最先端の教授法を知ることが出来て、非常に有意義な時間でした。

回収率 =61.1% (11/18)

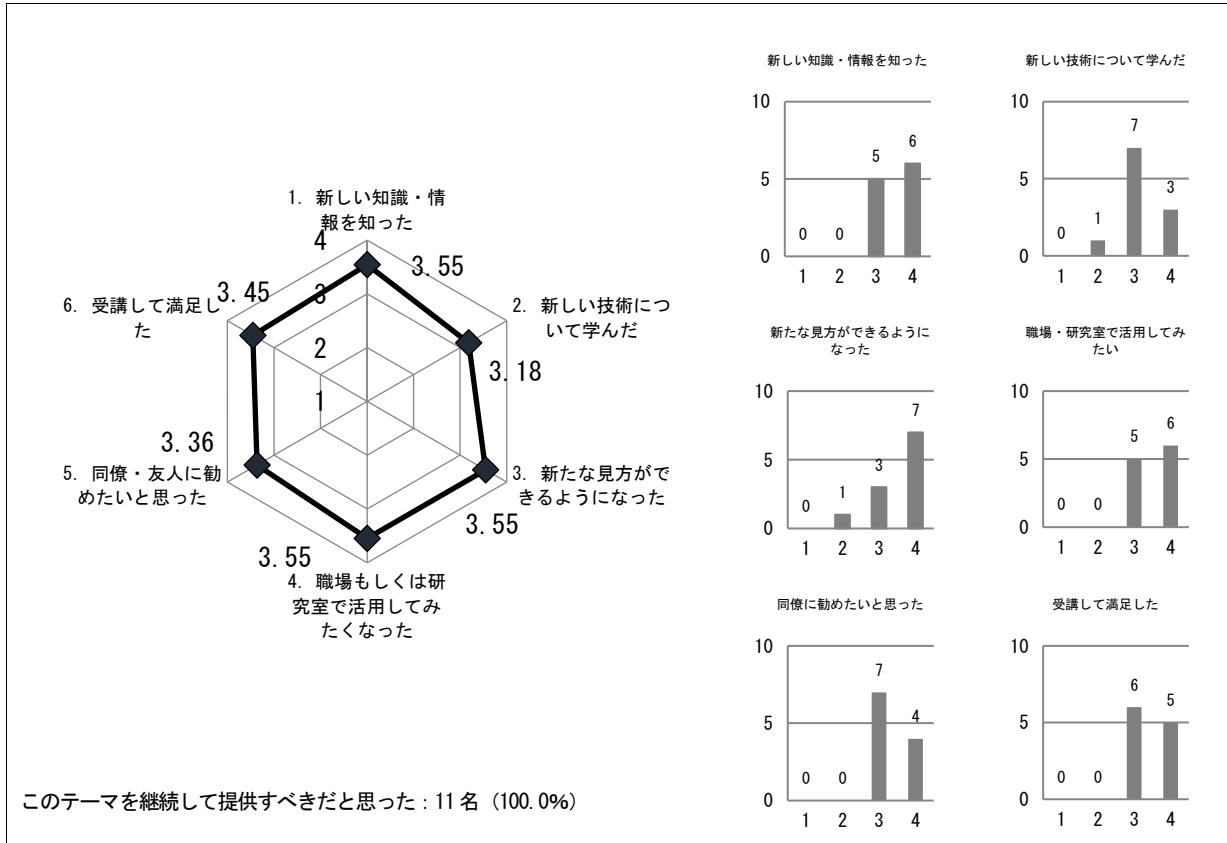
回答者属性(N=11)

【職階】教授(1)/准教授(2)/講師 (4)/助教・助手(0)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(2)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・一般職員等>(0)/その他(2)/無回答(0)

【性別】男性(5)/女性(5)/無回答(1)

【学校種】東北大学(4)/東北大学外(6)/無回答(1)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・CLILは多様であり、自由な発想で実践できるということ。
- ・選択科目など、生徒が興味を持った内容で実施すれば語学学習にとっても効果的だということ。
- ・45-50分だと授業時間は少ないと思いました。
- ・全般
- ・もっと自分の授業で取り入れてみたいと思う。
- ・4Cs&scaffolding
- ・CLILが考えていたよりも、自由なものであることがわかり、発想と創造をしていくことがハードルが高くないかもしれないと考えることができた。
- ・授業運営について、具体的なヒントを得られた。
- ・CLILの考え方。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・まだCLILについてフワフワしてます。
- ・思考のレベルの確保、言語習得とのかねあい。
- ・Target languageの使用率、CLILは”flexible”でもあり得ること。

4. セミナーに関しての意見・感想

- ・①笹島先生の発音が聞きやすかったです、発声も見習いたいと感じました。 ②バリー先生のように特技があるのはいいですね。
- ・具体的かつ効果的な実践例と、こやる失敗するという例など、現場でいかにやるものを知れると良かった。
- ・東北の地で続けていってほしいです、関東圏に出向くのが幸いです。
- ・ありがとうございます。
- ・申し込みについて、場所のリンクをつけてほしい。
- ・勉強になりありがとうございました。
- ・時間が短いと思いました。せつかくのテーマもほんのさわりで終わってはもったいないです。

回収率 =75.0% (18/24)

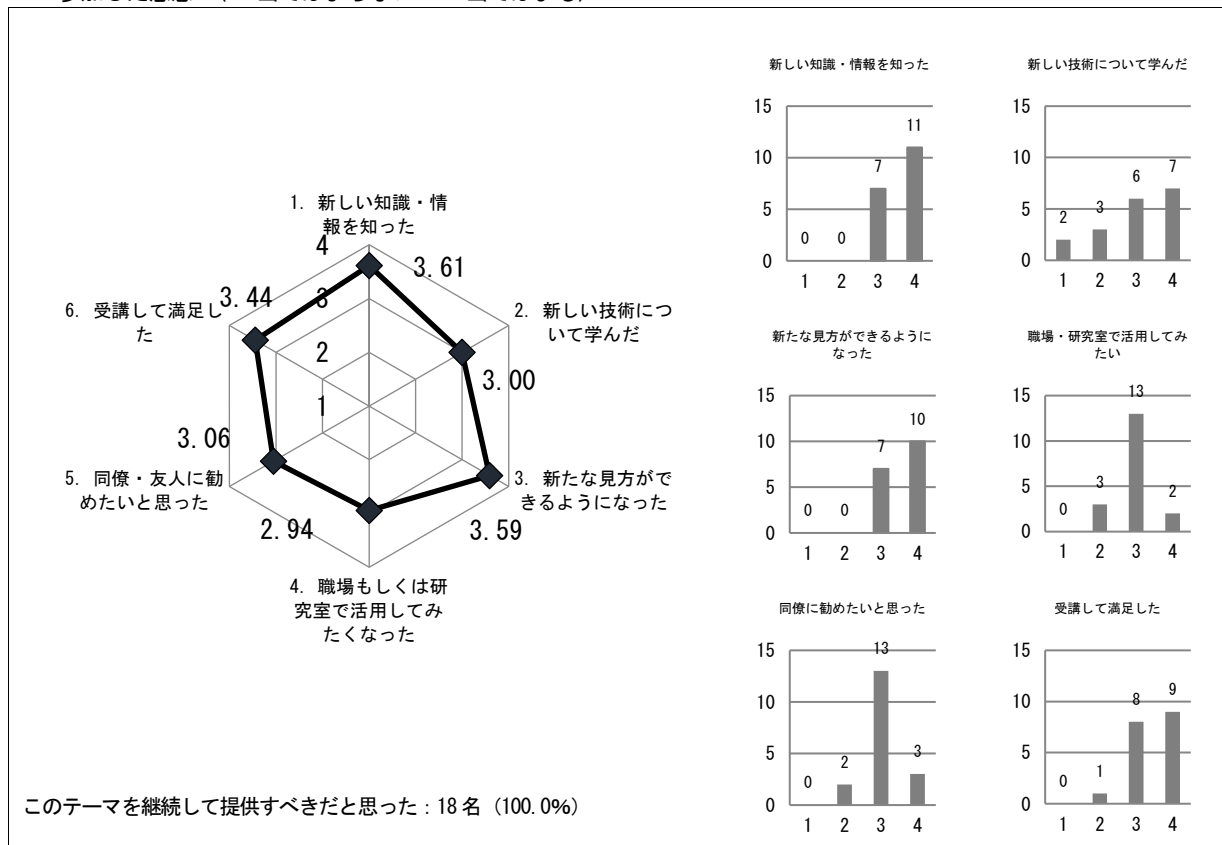
回答者属性(N=18)

【職階】教授(7)/准教授(1)/講師 (0)/助教・助手(1)/管理職教員<学長～
学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(3)/職員<係長・主任・
一般職員等>(0)/その他(6)/無回答(0)

【性別】男性(16)/女性(1)/無回答(1)

【学校種】東北大学(2)/東北大学外(11)/無回答(5)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・水町氏の実践
- ・①教育の成果の KPI があると良いということ (質疑あり) ②スキルと概念の結びつきに関する課題について/主張について。
- ・九州大学
- ・分離融合教育での、文系学生に対する数学授業の方法についてすべてを理解できなくとも、数学の意義がわかれば良しとすること。
- ・新たな取り組み
- ・高校、大学、企業、すべて変化する必要がある。「使える数学」を理解して、使えるために。
- ・フリップ授業の省力化。
- ・数学、統計教育に頑張っておられることが分かった。
- ・学力の低い学生に対する教育方法。最近の大学での教育、大学院での研究者教育の変化を知ることができた。
- ・水町先生の学生への教え方、上藤先生の統計学のそもそも論、竹村先生のデータサイエンス学部発足のお話、谷口先生のカリキュラム見直しお話など、たいへん興味深く拝聴致しました。
- ・報告 3 (竹村先生)、報告 4 (谷口先生)
- ・内容的に大変、時代の流れにマッチした企画内容だった。
- ・連携についての内容が役立ちそうでした。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・九州大学の方向性。
- ・情報と統計の関係
- ・議論だけを追求する理工学の教育は大切でも人間が AI にとってかわられないことも大切。

4. セミナーに関しての意見・感想

- ・変化の速度がはやいので、このようなセミナーを毎年行ない時代を catch up しつづけていただきたい。
- ・大変有意義であった。

回収率 =88.2% (15/17)

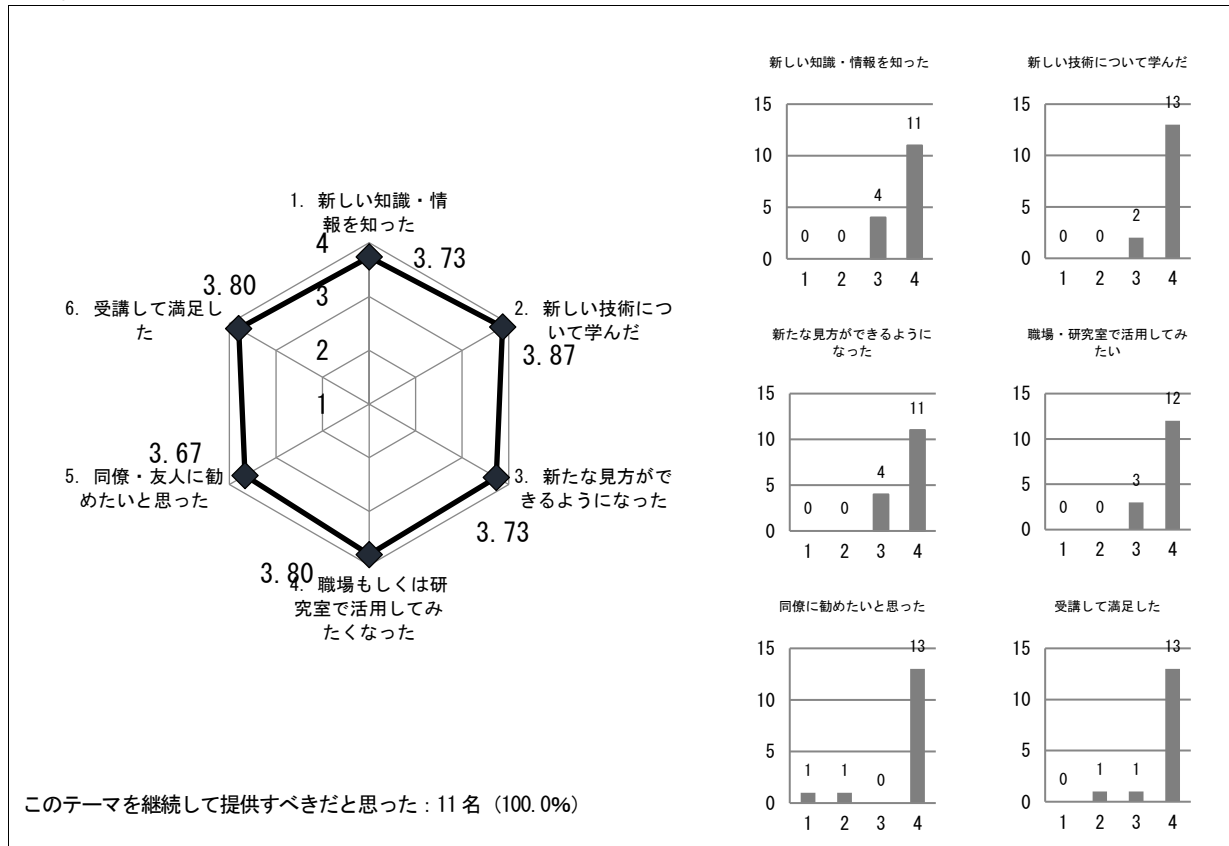
回答者属性(N=15)

【職階】教授(2)/准教授(3)/講師 (1)/助教・助手(4)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(3)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・一般職員等>(1)/その他(1)/無回答(0)

【性別】男性(6)/女性(9)/無回答(0)

【学校種】東北大学(10)/東北大学外(5)/無回答(0)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- Active learning についての理解は深めました。
- 英語授業のやり方とテクニックを身につけた。
- 授業の取り組み方に関しては役に立った。
- Bloom's Taxonomy - will help design my course.
- Active learning とは何かがよく分かりました。
- 授業で「コミュニティ」を作る方法・工夫、シラバスに追加でかけること。
- 合間合間に考えさせる質問がはさまれていること、自分の教え方を問い直すきっかけになると思いました。
- Active learning & student-centered method in teaching.
- 全体的に英語での授業だけではなく、すべての授業に活用できそうだった。
- 興味を引くためのテクニック。
- It's a good program. And it would be great if it can include the effective strategies to manage the class.
- 文化的背景を考慮することは、日本人のみのクラスでも頭に入れておくべきだと思いました。
- シラバス用語を学べた。
- It was very good that I learned the systematic classification of what can be done in university classes, including the one concerned with the Deep Learning. The contents included a lot of things I didn't know. The seminar was really nice also in that I had opportunities of speaking English, with interesting people.

3. わかりにくいと思ったこと

- Some terms in "syllabus" in English were unfamiliar to me.
- 英語で話していたこと。
- いくつかありますが、調べればわかることなので大丈夫です。
- 資料を使うべきところと、使ってはいけないタイミングをわかりやすく伝えてほしかった。
- シラバスの言葉、カルチャーの活用テクニック。

4. セミナーについての意見・感想

- ・ぜひもっと広くこのような講義が知られるようにしてください。
- ・英語表現を学ぶというよりは、授業の取り組み方に関する講義であり、フライヤーの記述と内容が異なる点が残念でした。
- ・Very Good!
- ・星陵など、他のキャンパスでも行ってほしい。
- ・breakの飲み物とスナックよかったです。
- ・授業方法と英語の両方を一度に学べて良かったです。
- ・私の受講者としての英語能力が低すぎた。
- ・Thank you so much!!

コーチング技能を活用した院生指導 (2017.12.12)

出江 紳一 (東北大学 医工学研究科 教授)、倉重 知也 (株式会社イグニタス代表取締役)

回収率 =96.6% (28/29)

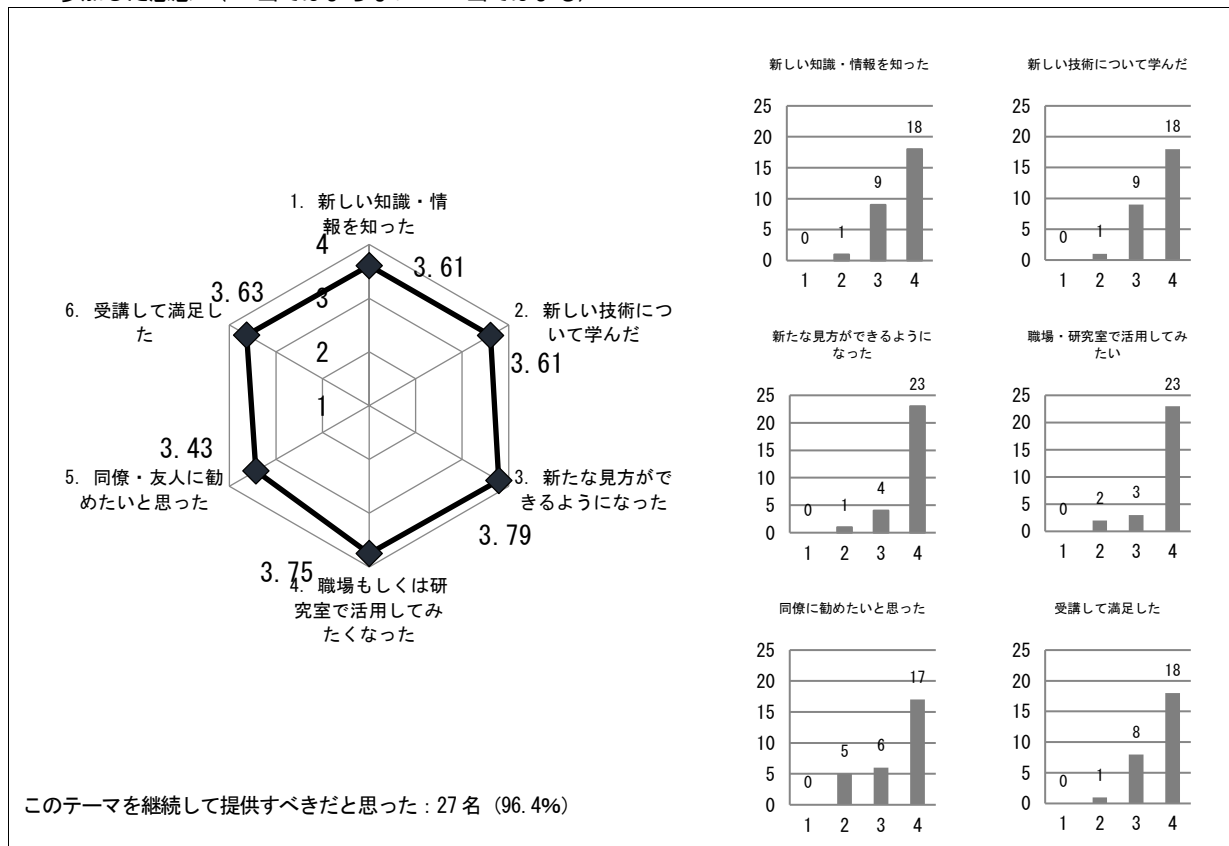
回答者属性(N=28)

【職階】教授(3)/准教授(1)/講師 (2)/助教・助手(14)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(3)/職員<部長・課長以上>(1)/職員<係長・主任・一般職員等>(1)/その他(3)/無回答(0)

【性別】男性(17)/女性(11)/無回答(0)

【学校種】東北大学(21)/東北大学外(7)/無回答(0)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・相手の尊重、関心。
- ・コーチングの全体像、概論。
- ・実技
- ・コーチングはずっと興味があったので、改めて受講できて、再確認できたので、実践してみたい。
- ・自分を見つめて、人の話を聞くこと。
- ・物事に対しての自分のスタンスを考えるきっかけを持ったこと。
- ・話の聴き方。
- ・①自分のコミュニケーションを振り返るポイントを知ることができた。 ②言い回しの例があったこと。 ③実際に体感できるアクティビティがあったこと。
- ・自分の苦手な部分を振り返ることができた。この点を改善するヒントが見つかった点は今後役に立ちそう。
- ・①ボールを使った説明は、非常に分かりやすかった。 ②自分のクセを意識しながら話す。
- ・相手に関心を持つこと。クセに気付くということ。
- ・Nice workshop with structure activities.
- ・自分のコミュニケーションのクセを意識する。
- ・コミュニケーションの仕方、ビジョンは話した本人に浸透するという話は感心させられた。

- ・コーチングをコミュニケーションの技法と捉え、日常生活に使えること。
- ・キャッチボールのアナロジーを意識すること、目標をコーチと相手が共有していること。
- ・ワークショップのディスカッションでの練習。
- ・これから自分もし指導者になれたら、生徒にどのような指導をできるのかについて、本日の受講を通じて非常に役立ったと思います。
- ・倉重先生のワークショップの内容は全部役立ちそうだと思います。自分のクセを反省し、明日から活かしていこうと思いました。
- ・コーチングの基本的な要素、それを実践する上で、意識すべきコミュニケーションの要素。
- ・自分の癖を知って他者と関わること。
- ・コーチングのワークショップがとても面白かった。
- ・自分の話し方、聴き方のクセに気づくことができた。
- ・「人に教える術」を学ぶことはすなわち「自分を振り返ること」だと感じた。
- ・コーチングという名前は知っているが、実践方法を体感できたこと。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・院生指導にフォーカスとして具体的な手法、特性など。
- ・参考文献を知りたいと思った。
- ・感情をコントロールして、練習してた通りにこたえられるようになるまでは、どれくらいかかったのか？
- ・目標を共有するためのコツ。
- ・他の技法と比較した説明が欲しかった。
- ・エビデンスと授業の部分は駆け足だったので、少しわかりにくかったです。
- ・ケーススタディが出来ない。
- ・最初の30分の講演は
- ・「院生指導」ということだったが、実際にはもっと別のシチュエーションが想定されていたように思う。内容とタイトルのズレが解消されるともっと理解が深まるのではないかな。

4. セミナーについての意見・感想

- ・昨年に続き、このテーマを受講しました、また新しいことに気付けたのが収穫でした。
- ・ペアを組んでのワークショップは、非常に説得力があり、また自分のクセに気付くことができた。
- ・長い時間（1日ばかり）でもよいのかなと思います。
- ・コーチングのセミナーが3回目とは知りませんでした（MLがいつもきているにも関わらず）。興味がなかったのかも知れません。興味が出てきたので、次のステップを期待したいです。

回収率 =85.0% (17/20)

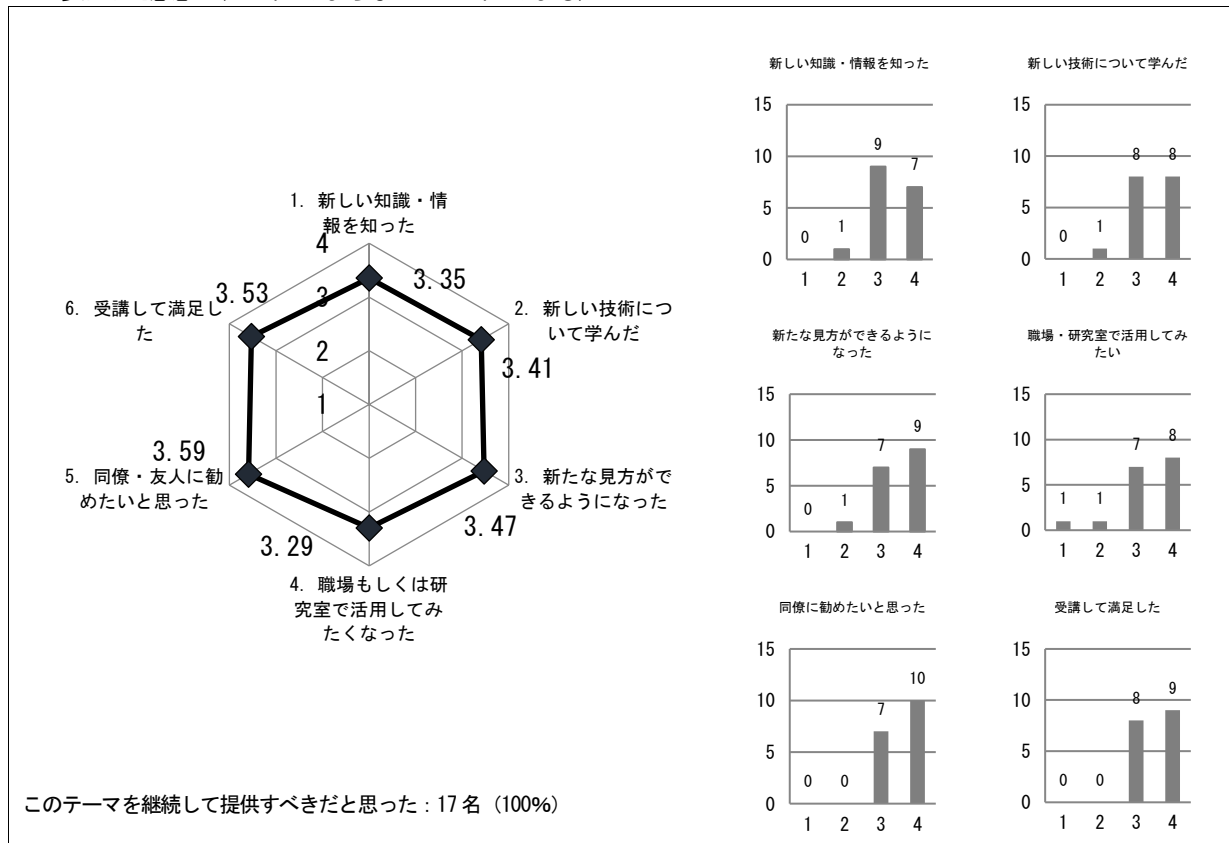
回答者属性(N=17)

【職階】教授(3)/准教授(2)/講師(0)/助教・助手(3)/管理職教員<学長・
学部長>(0)/博士課程(2)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・
一般職員等>(1)/その他(5)/無回答(1)

【性別】男性(8)/女性(9)/無回答(0)

【学校種】東北大学(13)/東北大学外(1)/無回答(3)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・VTR
- ・発音 (L/R) は改めて学べました。
- ・RとLの違い、VとBの違いは、話す、聞く、いずれの場合でも難しく、(ほぼ)使い分けができず、苦勞していましたが、少し使い分けヒントを得た気がします。
- ・リンキングを気にかけること。
- ・Rhythmが大事だということ。
- ・ディクテーション
- ・リズムの大切さ
- ・以前、勉強したことを思い出しました。
- ・子音-母音で単語がつながるパターンをある程度覚えておく必要があると思った。
- ・linking & reduction
- ・linking, lとrの発音仕方, bとvの違い。
- ・RとL, BとVの発音。
- ・ABCから始めたい方がいいということ。Reduced soundsやlinkingの練習をさせた方がいいこと。(昔そういう練習をさせられたのでそこは聞ける)

3. わかりにくいと思ったこと

- ・横からの断面図で、調音点の表示があってもいいかも。
- ・短くなるリンキングは難しい。
- ・身につけるためにどのようにトレーニングすべきか。
- ・リズム, シラブル, ビートの違い。
- ・the voiced and unvoiced 「th」 part
- ・授業での生かし方。
- ・リズムについて、音節を数えるのはいいけれど、全部の音節が等しい長さだと誤解すると英語のリズムとは全く異なるものになってしまうのでは。

4. セミナーについての意見・感想

- ・このセミナーを見つけて良かったです。
- ・セミナー自体を、standard English を意識しない発音で行ってほしかった。
- ・教員、授業を意識した内容にしてほしい。

大学ドイツ語教授法強化講座：ドイツ語教育とアクティブラーニング—
—どのような教材をどのように用いるか— (2018.1.27)

杉浦 謙介 (東北大学国際文化研究科 教授)、摂津 隆信 (山形大学 准教授)、高橋 美穂 (東北大学高度教養教育・学生支援機構 講師)

回収率 =77.8% (7/9)

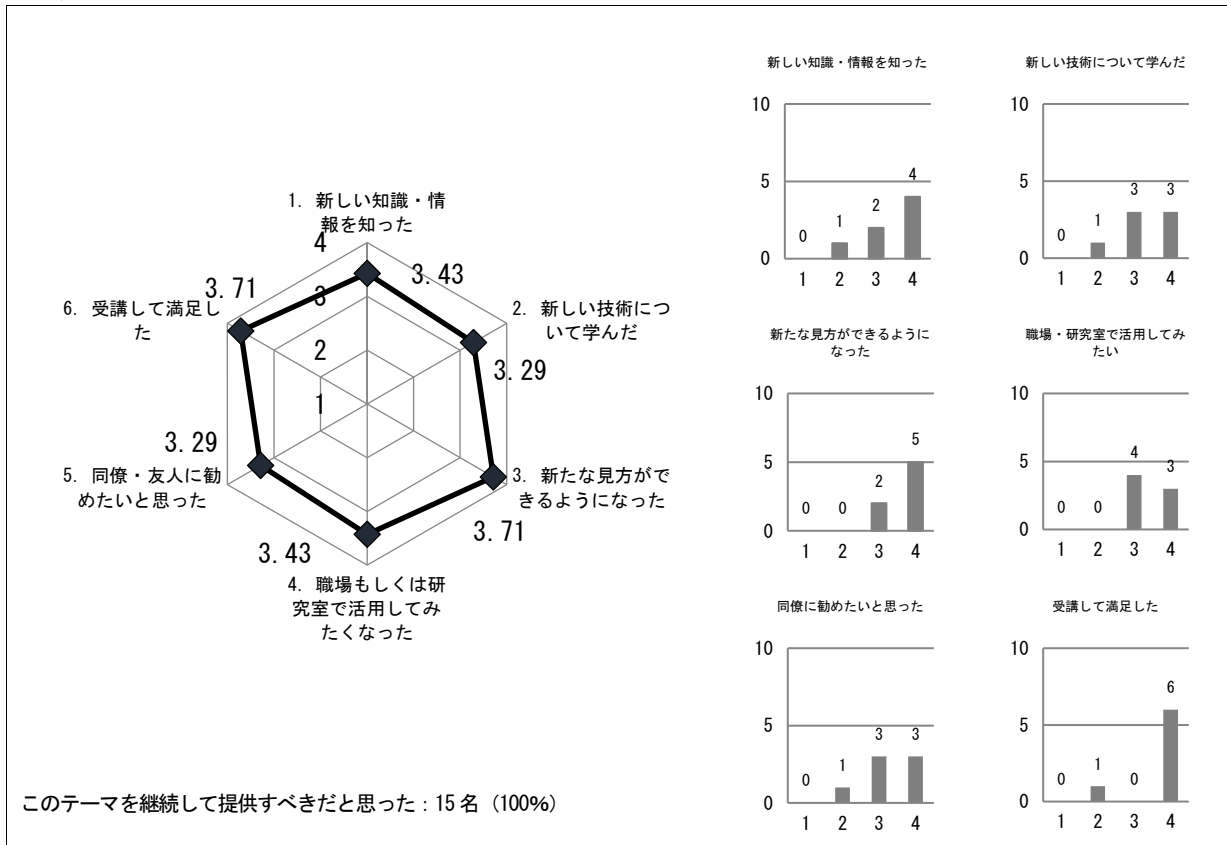
回答者属性(N=7)

【職階】教授(2)/准教授(1)/講師 (0)/助教・助手(1)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・一般職員等>(0)/その他(3)/無回答(0)

【性別】男性(3)/女性(4)/無回答(0)

【学校種】東北大学(2)/東北大学外(3)/無回答(2)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・グループワークの進め方、とても参考になりました。
- ・母国語習得でのケースとして、異なる能力を養成するものとしての外国語学習、という考え方。
- ・授業実践についての具体的な発表、そして、具体的な説明を聞いたこと→次の本づくりに生かせる。
- ・教材それぞれのメリット・デメリットについて、見方が変わった。
- ・授業におけるアクティブラーニングの手法の可能性について。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・発表内容とは直接関係ないのですが、毎年担当している学生の中にコミュニケーションに困難を抱える学生 (発達障害) がいます。グループワークなどを行う場合、そのような学生をどのように扱うべきかいつも迷っています。
- ・担当クラスの状況が異なるので、説明を聞いただけではイメージしにくい部分があった。あらかじめ、発表者の側で統一する？あるいは、発表資料で明示する？

回収率 92.7% (51/55)

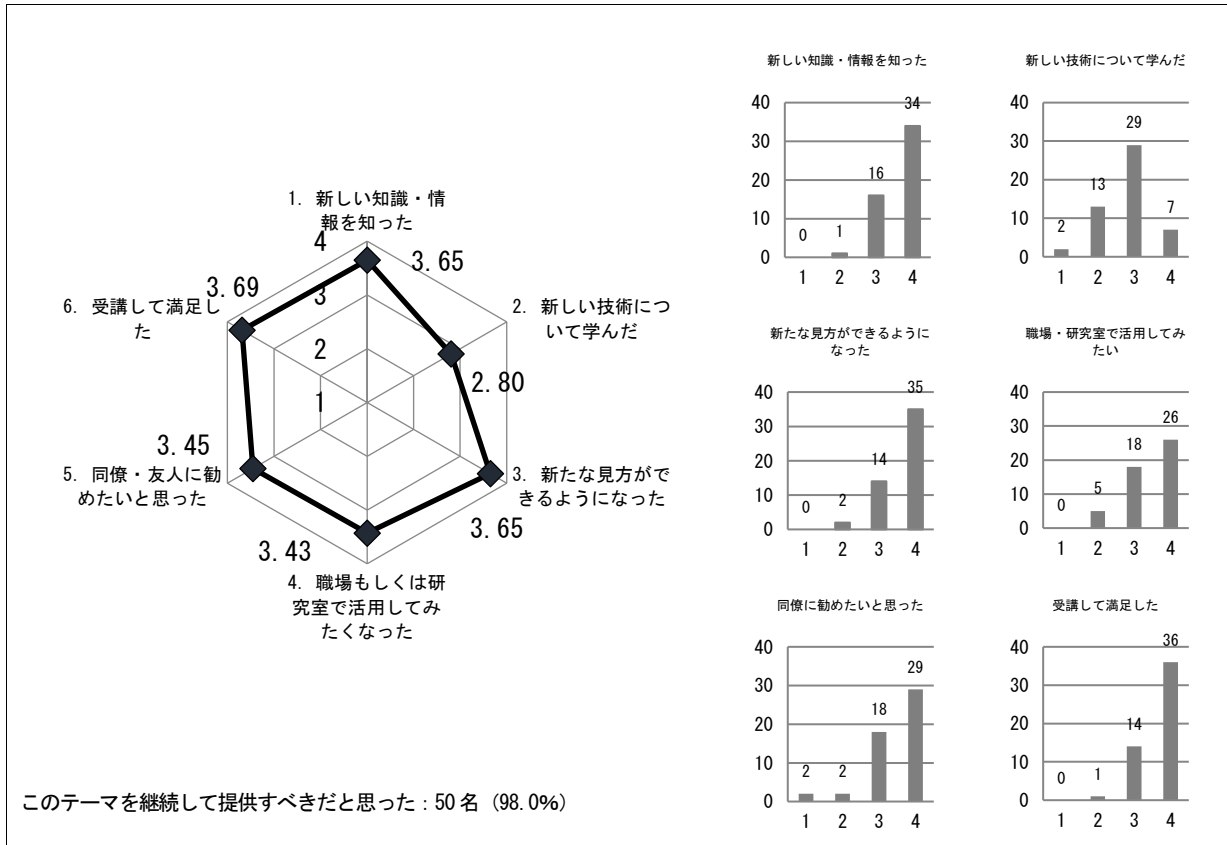
回答者属性(N=51)

【職階】教授(4)/准教授(11)/講師(4)/助教・助手(11)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(6)/職員<部長・課長以上>(1)/職員<係長・主任・一般職員等>(11)/その他(2)/無回答(1)

【性別】男性(23)/女性(27)/無回答(1)

【学校種】東北大学(23)/東北大学外(27)/無回答(1)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- 先生がおっしゃるように大学教育改革に取り組んできて、学生にあまりにも求めすぎている感じを強く感じておりました。デコボコがあつていいということはどうフィードバックできるのか、学生自身が「それでも大丈夫」だと思える浄化ができればと考えております。
- 教養教育の意義は感じておりましたが、理論的枠組みを、整理できたように感じ、大変為になりました。
- 大学1年次の重要性を知ったことで、今後の授業の進め方等参考にしたい。
- ①学生の学ぶ意欲を高い初年次教育の重要性。②パーソナリティに関わる能力を如何にして伸ばしていくか検討すること。
- 遺伝の影響をどう考える。
- 汎用的能力にないする視点。
- 学生の多様性への寛容と協同への認識の重要性。
- ①学生の個人を見て、発達度を判断する重要性。②汎用的能力も重要だが、個々の学生発達を見ていく教員の力も重要である。GPAだけに捉われないことも重要。
- 初年次教育の学生にとっての意義。
- 学習成果などと、どのように測定しようとしているのかという現状が理解できた点。来年度、基礎ゼミを担当するので、初年次教育の重要性を再確認できたこと。
- 学生発達における個人差、凹凸がある中で、個々の学生が持ち味を生かして、発達していくのかを考えるとこと大切だと考えます。大学4年間では開花しない学生もいるので、卒業教育も大切だと考えています。
- 学習の成果をどう測定・評価できるのか/すべきかの視点
- 大学に求められていることと、現実について。
- 学習成果アンケートの作成。
- 大学でのマネジメント強化の圧力の中でどう学生の成長を促すかという色々な視点を学びました。個性も当然大事。
- 心理的・行動的形質に寄与する遺伝と環境の影響、学習成果の規定要因。
- 新奇性追求能力は環境要因が重要ということは「教育」を通じて育成できる可能性がある。
- 大学において、育成すべき学生像も大切であるが、学生がどうになりたいのかも大切と思った。

- ・大学教育と学生のミスマッチによる学びへの意識低下という視点。
- ・「汎用的能力重視の背後に、個人能力還元主義」という観点、すくなくいろいろ考えさせていただきました。そして、個人差という視点の気迫さから、「教育万能主義」という観点も今後自分自身の授業設計に気を付けたい考えるポイントとして、深く省察したいところです。
- ・3年次のGPAと最も関係性があるのが、1年次のGPAであるとのこと。
- ・「心理的、行動的形質に寄与する遺伝と環境の影響」「学生発達における個人差」「初年度教育の大学教育と学生のミスマッチ」
- ・大学生の発達という視点を大学教育がもつということの必要性。
- ・1年次の授業への態度が、後の成績に反映しているという研究結果は、初年度教育や自信の業務プログラムで提示することで学生の動機付けへつながるように感じた。パーフェクトな個人の追求ではなく、自らの能力の自覚をし、チームとしてどう協働できるかという視点。
- ・学生のニーズを把握しつつ、ズレを認識し、好機会と合わせて提供する必要があるということ。
- ・Learned about development process for students as they enter higher education. The ways to enhance development outcome for students.
- ・最後に指摘されたように、講義に後半は一番興味深くて、現状に関わっていると思います。それがより精密に議論されたら皆に役にたてると考えています。
- ・個人的に問題意識を持っていた内容が大学教育研究の専門家から客観的に語られたことで、自分の立ち位置が客観化された。
- ・学習成果の可視化による問題点は、新たな視点を与えられたと思いました。その他にも自分の研究に役立つような話を多く聞きました。
- ・学生側と大学側のミスマッチ、それを意識すること。
- ・学部1年生の成績が3年生に影響すること。
- ・①大学1年生と3年生の比較結果：外国語力が下がる。②GPAを評価する際に、どのような標準かを把握し、単なる成績だけではなく、汎用能力の評価も大事です。
- ・汎用的能力の考え方にに関して。
- ・学生の要望と大学教育のミスマッチ→カリキュラム構成など検討していく必要があるのではないかと感じました。
- ・学生が多様、個人差があることを常に意識する必要があること。関連して、学生に応じて到達目標を考える必要があること。
- ・大学教育と学生にはミスマッチがあり、それをいかに解消するか考えることが重要だと分かったこと。
- ・IR部署にいるため、学習成果の測定が何をもちたらし、可視化をどのようにするか、試行している最中なので、理論的な視点を聞くことが出来た。
- ・非常におもしろかった。そもそも大学はコミュニケーション/リーダーシップ能力などを伸ばす場所なのかという根本的な疑問にいきついた。先生の最後のコメントは福祉的な理念とも合致して（みんなちがっていい）とてもよかった。
- ・①学習成果と学生理解、学生発達の関連性 ②学生調査を通じ、何故大学が学生理解を進めなければならないかという視点。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・文献表？Otterの4タイプ。
- ・学習成果の可視化は、難しい。
- ・具体的な対応策。
- ・ただの職員では知らない言葉もあったこと。
- ・「学習成果」という言葉の中の内容は？項目は？
- ・「3発達の視点から見た」のテーマについては、入口と出口という部分をどうとらえているのか理解しにくかった。
- ・①成果（GPA・成長感）には1年次の状況が大きく影響ということは、1年次にダメだとのびないということだが、それは（大学での社会性）社会的ルールの遵守という点でということか？②相補的な総体づくりを目的として関係性に着目するような環境（教育機関は）整えるべきということか？
- ・「学習成果の可視化により、全ての能力をupさせなければという圧力が生じる」ことが果たして悪いことなのか不明でした。コミュニケーションスキル、自己管理能力等の力を身につけさせる事は今でも各大学で熱心に取り組んでいる内容では。
- ・Few literary result were too detailed, and couldn't grasp the whole picture or intended result.
- ・また、間接的学習成果を可視化するための方法について別の、もう一つの講義かねてGDを展開していただけたら幸いです。
- ・学生発達の問題についてはよくわかったが、それをふまえて実際どのように教育していけばよいのかの具体が思い浮かばなかったです。
- ・複数の観点がカバーされていたが、それらの間のつながり（特に前半部分）が少しわかりにくく感じる。
- ・個人差を活用した高等教育の具体的なアイデア。
- ・スライド50の企業が選考時に重視するものと、スライド20の大学生の成果の「学年による能力の変化」にズレがあるのでは？迎合する必要はないとは思うけれど、成長した部分が起業のニーズに合っていないのだろうか？
- ・学習成果の測定方法。
- ・学生のニーズと汎用的能力の両立の実現性、入口と出口がどのようにつながるか、またはつなげていくのか。
- ・グラフの見方（数値等）。説明がちよっとあると理解しやすいかもしれないと感じた。
- ・より詳しい話や参加者同士のディスカッション・ワークショップなど、この後の展開があるとより理解の助けになると思う。
- ・学生発達における個人差をどのように学習成果と結びつけるのか、もう少し詳細な説明が欲しかった。
- ・学修成果の把握について、能力がのびたかどうか、本当に大学教員の成果なのかどうか不明と思った。単に18～22歳の時間的経過のせいかもしれないと思った。

4. セミナーに関しての意見・感想

- ・今回のセミナーにあった、可視化しづらい能力、こういった能力を完全にはもちろん難しいが、何かしら測定（アセスメント）できる可能性について、考えるワークショップなどがあるといいと思います。
- ・とてもわかりやすく、資料も見やすく、為になりました。
- ・大変参考になりました、ありがとうございました。
- ・色々考えさせられました。
- ・憶意面、非認知スキルの評価を到達目標を100に対して行うことは私もちょっと違うなと感じています。学生にAIロボットと

対話して成長できるかも…そうあってほしくないですが…。いずれにせよ、人間の本質に対する理解を学生が深めるために自分自身の理解を深める必要を感じています。いつも勉強させていただき、ありがとうございます。

- 90分間、ずーと一方向的にお話を聞く構成は身体的に、つらかった。途中で、参加者もなにか活動できる構成で進行できれば、より良くなるのではないかと感じた。参加者からの質問が長時間の私生活を述べる機会にならないように、タイムキーピングが進行に必要と感じた。
- 開会挨拶のお話、いったい何をお話されたかったのか？可視化にこだわりすぎる問題（杉本先生）、その通りだと感じた。
- 大学教員としての責任の範囲について聞いてみたかった。個々の学生指導で、パーソナリティ的な面の指導にどこまで口を出してよいのか、いつも悩むところです。
- 90分以上ずっと聞き続けるのは、集中力がとぎれてしまう可能性があるため、1時間ぐらいで、ワークショップや質疑討論を1回はさむといいと思います。
- 東北大学など学生の実際に必要と考える能力をどう測定し、変化を見ているか？などという研究結果などもお聞きしたかったです。その結果をどう学生に還元しているのかなども。可視化される結果に日々の業務が左右されていることを改めて感じることができました。
- 個人能力の多様性を認める事は本学でも取り組んでいるのですが、出口・社会では万能型と求められる。大きなジレンマは永遠の課題かと感じました。また色々勉強させていただきたいです。ありがとうございました。
- トピックごとに質問時間が設けられているとよかったです。
- わかりやすかったです、ありがとうございました。
- ①学生生活と大学教育の関係性をもっと知りたいです。 ②オープンキャンパスのやり方をもっと知りたいです。 ③資料の印刷をカラーでお願いしたいです（内容がもっと分かりやすい）
- 汎用的能力をどのように教えているのか、具体例がわかるとなおいいのかなあと感じました。
- 岡田先生のプレゼンは、落ち着いて聞くことが出来ました。プレゼン方法を見ならいと感じております。

発達障害学生の実態の理解と支援の取り組み (2017.11.22)

篠田 直子 (信州大学 助教)、都筑 学 (中央大学 教授)

回収率 =74.5% (35/47)

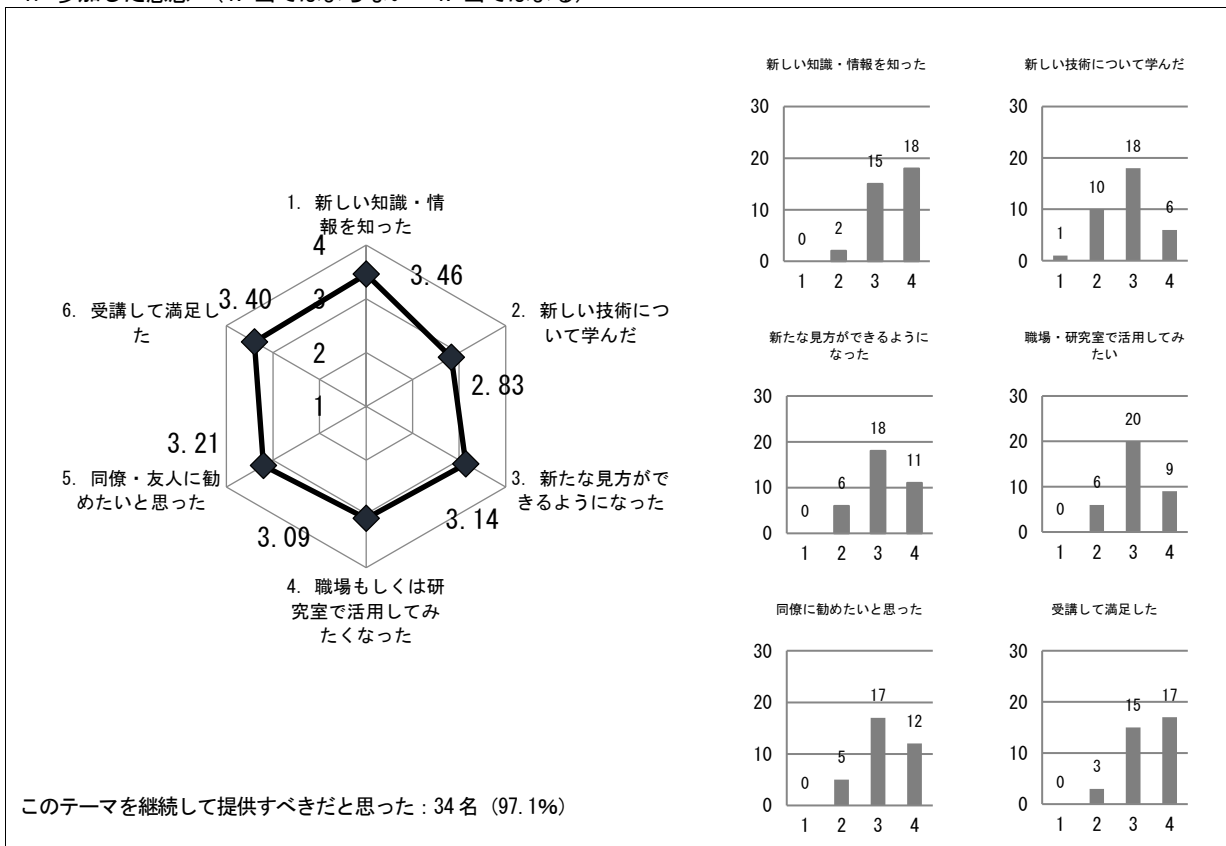
回答者属性(N=35)

【職階】教授(2)/准教授(0)/講師 (1)/助教・助手(12)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(1)/職員<部長・課長以上>(3)/職員<係長・主任・一般職員等>(8)/その他(8)/無回答(0)

【性別】男性(13)/女性(22)/無回答(0)

【学校種】東北大学(16)/東北大学外(14)/無回答(5)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- 発達障害のある学生への支援が、ユニバーサルデザインとなって、他の学生にもよい効果があるということ。
- 一人一人に対する対応が重要性について気づかされました。優しさを持って思いやりの中で向き合っていくと思います。
- 今は昔より障害としてわかるようになり、周りでも対応などを探している中で場の状況や新しい情報を知れた。これからの接し

方が変えられそうです。

- ・合理的配慮について。私は病院で教育支援担当として働いています。毎日新人の中に働きづらさ、周囲の疲弊、現場から複数声が聞かれます。今回は大学一学生のお話でしたが、私達の職場に置き換えて、新人の支援ができたと思います。
- ・発達障害を持つ学生への支援/対応について具体的助言を得ることができて良かったです。具体的な話をもっと聞きたかったです。
- ・発達障害を持つ学生の特性を、その対応の仕方。
- ・発達障害の多様性について理解できた、教育にもユニバーサルデザインが必要だということ、一次障害と二次障害の存在について。
- ・講師の先生方の大学での実際のとりくみについて知りことができたこと（組織や具体的な支援について）
- ・①複数キャンパスがある場合の支援体制の有り方。 ②キャンパスワーカーという新たな支援方法。
- ・対教員の取組み
- ・教育の現場での発達障害者への考え方について、全体的に概要を理解することができた。
- ・①具体的な対応例で、取り入れていきたいと思えることが多々あった。 ②どこも同じなのだと思うことができ、気持ちが落ちついた。
- ・合理的配慮の提供プロセスとても参考になった。色弱→学生のチョーク、東北の八戸の小学校の先生方で、ピンクのチョークを利用。
- ・すぐ役立つような Tips はないが、勉強になった。
- ・大学での学習支援と就職との関係。
- ・学生の事例と具体的な対応の紹介（篠田先生）
- ・CSW の役割のお話で、支援対象の学生を見つけて働きかけて下さる、というのが印象的でした。自ら相談できない学生には大変有効な対応と思います。東北大学でも同様の支援があるとよいと思いました。
- ・各大学で取り組まれている内容、工夫。
- ・発達障害に対する組織としての取組み。
- ・対応の有り方によって困難である学生が発生したり、そうではなかったりすること。積極的な支援で一人でも困難を抱える学生が減らせると良いと思う。
- ・学生相談に限らず、日常で必要な知識であり、こういう機会は非常にありがたい。
- ・相談室の問題学生との関わり方について新しく学びました。
- ・合理性、妥当性の基準を議論（協議）する際、どこが責任主体となり、進めるかという点が全国的に見てもまだ試行段階なのだ、ということが分かった点。
- ・1人の教職員として配慮すべき点、術について。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・他大学の取り組みが、具体的に示され、大変参考になったのに、否定的な質疑で、その後の話がやりにくくなったこと。
- ・知りたいと思っていた情報と半々くらいで、難しい内容だったところでした。特にはありません。
- ・発達障害の学生の教育については理解できたが、その学生達が就活する際にどのような指導、アドバイスをしているか、もう少し知りたかった。
- ・支援の制度やシステムも重要だが、個別の具体的なアドバイスや対応策についてももっと知りたかった。
- ・今月中旬、日 EU・EPA 活用セミナーで、日本も、すべて、日 EU・EPA の 2019 に同意すると、ヨーロッパ基準に人的サービスよく対応するようになり、ヨーロッパ基準でやらざるを得なくなり、間に合うのか？厳しいと思った。
- ・本人から申出がない場合の支援がどうすべきか。
- ・どのように発達障害の学生を見つけ、どのようにアプローチするのかを具体例で知りたかった。
- ・私立大学での学生支援の組織のつくり方（都筑先生）（私立は教員/学生がちいさいので、組織のつくり方が違うまではわかった。）
- ・合理的配慮の提供について、学大学における判断が難しいと感じた。
- ・特別な配慮の範囲が自分には不明確です。私は実習を担当していますが、学生によっては実習に参加できない学生がいます。配慮の範囲が参加を必要とする実習をカバーするか教員間の意見が一致しません。相談室の方々にご意見を頂きたいです。
- ・協議の手順、手続き、体制、決定する責任主体がどこかについてももう少しお聞きしたかった。
- ・支援が上手くなかった事例についても伺えると良かったと思う。教員側が協力的ではない場合はどうするか、就職（支援）との関係について、知りたかった。

4. セミナーに関しての意見・感想

- ・発達障害の学生との関わりは、教員として悩むことが多く、正直、きれいごとでは済まないと感じています。本人が困っているのは大前提ですが、研究室の運営上、どこまでの支援が必要で、また、こちらが支援していると考えること、学生が受けとる感じ方に相違があるようで、何が正しいのか、悩んでいます。もちろん、発達障害をかかえる「学生支援」が中心なのだろうと思いますが、発達障害をかかえる学生の「周りの学生」や「教員」への支援はなく、困っているのは、どちらも同じではないかと感じます。今回お話いただいた2人の先生のお話は、その間に入っていただき、スムーズにいかせるための取り組みであると感じました。そもそも東北大学の取り組みがわかっておりません。ぜひ、東北大学の取り組みについて、具体的に知るセミナーをお願いしたいです。また、教員がどのような対応をしているのか、意見交換できる場が必要であると考えます。
- ・本日は大変貴重な学びの場となりました。ありがとうございました。とてもあたたかい講演をありがとうございました。
- ・子供の発達障害などもあったらまた受けてみたいです。
- ・教職員の採用時に（年度初めなど）全員が受講するようにすればよいと思う。また学生に対しても入学時に全員が発達障害について、受講するようにすればよいと思う。
- ・参加者からの情報も参考になった。考えの幅を広げるきっかけになった。
- ・宮城沿岸部、15%色弱で、英語の授業で大事なことを赤チョークで書いて、大事なことをノートにかけない生徒がいることを指導主事に指導受けた。八戸の小学校の先生方が、ピンクのチョーク（蛍光チョーク）開発して、ホタテのカラといっしょで、見やすくなっています。
- ・現場の事例がより共有できると良い。
- ・大学のシステムについて良くわかりましたが、具体的に個々の対応法などについて、お聞きしたく思いました。

- ・いつもありがとうございます。合理的配慮と学生の質保証に難しいが取り組みとして重要なことはわかった。私のいる大学でも試行錯誤が続いている。
- ・質疑応答が質問者個人の思いを吐き出す場になっていることが多かった。せつかくの時間ももったいない。コーディネートしていただけるとより実りのあるものになると思う。
- ・大学の、人事労働系および学生担当職員向けにも広げてほしい。
- ・質問の時間を長くしていただくとよろしいかと思ひます。具体的な事例にあふれていて勉強になりました。

マネジメント力形成関連 (コード:M)

若手職員のための大学職員論(8) —大学職員による自発的 SD 実践のイマを知る：中堅職員 Meetup からの示唆— (2017.7.1)

寺尾 健志 (京都文教大学)、三島 卓也 (金沢大学)

回収率 =85.7% (12/14)

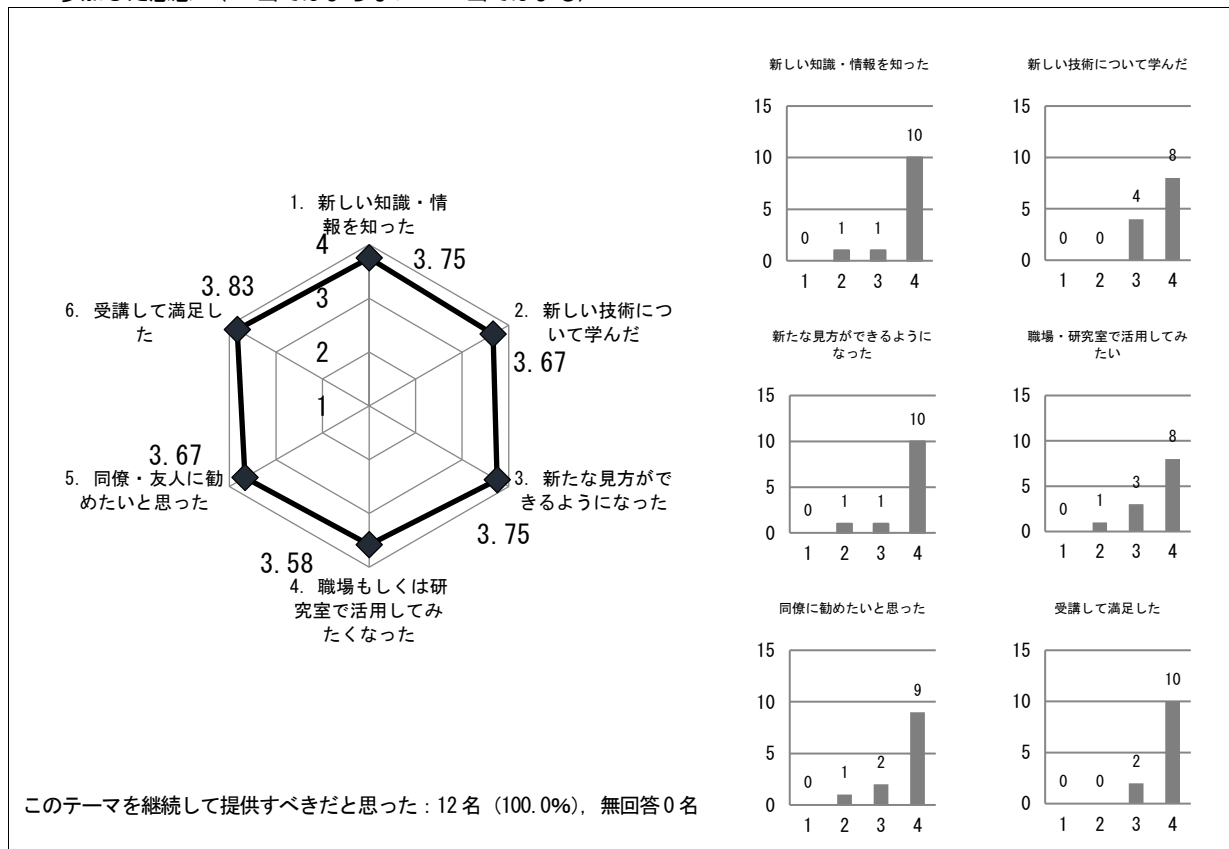
回答者属性(N=12)

【職階】教授(0)/准教授(0)/講師 (0)/助教・助手(0)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・一般職員等>(8)/その他(0)/無回答(0)

【性別】男性(8)/女性(4)/無回答(0)

【学校種】東北大学(1)/東北大学外(11)/無回答(0)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・学生主体としてやっていくなかで、学生にアンケートをとって満足度調査をする。
- ・ファシリテーション
- ・①学生をまきこんだ大学運営 ②企画の作り方、パッケージ (評価) 方法について。
- ・他大学の現状を知れて良かった。
- ・他大学との情報共有、問題解決の手法。
- ・「思いと狙い」まで開けたことがとても大きかった！
- ・①話し合いから他部署の状況の理解 (予算など) ②話し合う機会の重要性
- ・プログラムの構成が参考になった、職場でも活用したい。
- ・ファシリテーションツール・リモートの有効性。
- ・meet up という活動をはじめて知りました。

3. わかりにくいと思ったこと

4. セミナーに関する意見・感想

- ・他人とコミュニケーションをとることの大切さを認識させられた。
- ・いつもありがとうございます。

- ・企画力の実践を行うワークショップをメインにした若手職員のための大学職員論を行ってほしい。
- ・ありがとうございました。
- ・大変有意義なワークショップでした，他の職員にも今後声がけします。
- ・土曜に開催する場合，午前中からの開催でお願いしたいです。平日業務時間外でも参加できるようになったので，平日の仕事おわりに気軽に参加できるかたちもあっていいのかと思いました。

SDP シリーズ第 1 回「大学の質保証のための IR・評価マネジメント」
(2017.7.14)

森 雅生 (東京工業大学 教授)、大森 不二雄 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構教授)、杉本 和弘 (同教授)

回収率 =78.6% (33/42)

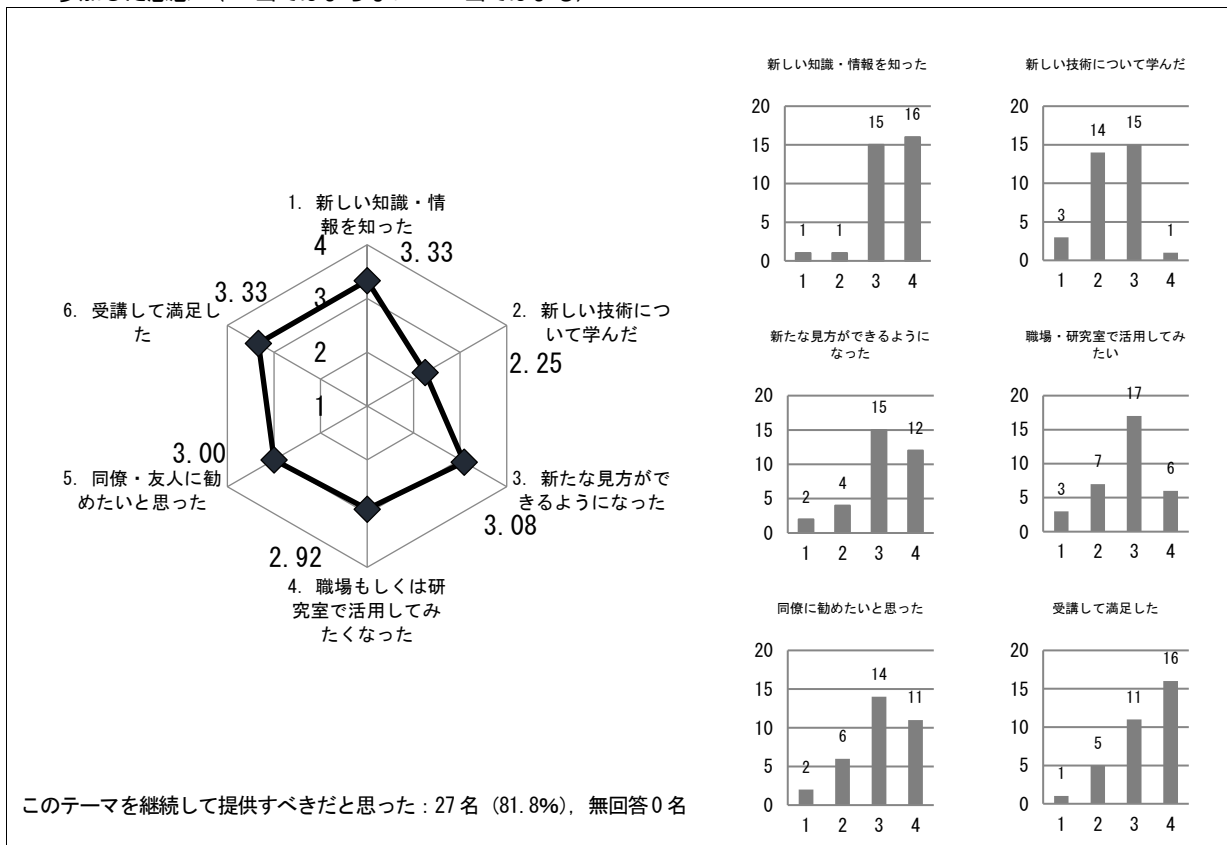
回答者属性(N=33)

【職階】教授(5)/准教授(6)/講師 (0)/助教・助手(1)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(7)/職員<係長・主任・一般職員等>(9)/その他(0)/無回答(5)

【性別】男性(21)/女性(7)/無回答(5)

【学校種】東北大学(2)/東北大学外(24)/無回答(7)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・教員として，疑問に思っていたことが，大森先生の話と羽田先生の話で，解決のヒントを得ました。ありがとうございました。
- ・合理的選択理論が成立していること。
- ・大学の組織の有り方とエビデンス，IRの関係についていろいろわかった。
- ・①インセンティブをデザインする意義を確認することが出来たが，やはり大学としての組織的な取組みは非常に難しいことがわかった。②羽田先生の最後のコメント (総括)
- ・大学の活用が学生の学修成果につながるべきという大森先生のお話。
- ・内部質保証は認証評価対応ではなく，学生の教育のためであるという原点を再確認できた事により，自らの職務の中でも手続論や技術論におちいっていなかったかと振り返る事が出来た。
- ・「研究はできるが勉強はできない」の先生が多い。教育の質の本質についてよく考えることが大切だということ。
- ・大森先生のお話が特に良かったです。
- ・東工大の実例
- ・自己点検・評価と内部質保証の捉え方
- ・閉会あいさつのまとめ

3. わかりにくいと思ったこと

- ・IRを教育改善にどのように活用したのかという具体的な事例があるとよかった。
- ・内部質保証の評価方法，具体的なもの，IRの組織的な位置づけ，ディスカッションで少し分かりました。←講師のせいではなく，自分の勉強が足りないためです。
- ・実際の現場に落とすには，内容がマッチングしなかった。

- ・LAD
- ・内容が盛りだくさんでした。
- ・IRのマネジメントによる質保証の部分の話が聞きたいと思いました。
- ・オーストラリアの事例を伺えた点は良かったのですが、日本でどのように活用すべきかが少しわかりにくかった。(その後の質問で解消されました)
- ・基礎的用語の説明をもう少し触れて欲しかった
- ・オーストラリアの例、大森先生の論旨

4. セミナーに関する意見・感想

- ・他人とコミュニケーションをとることの大切さを認識させられた。
- ・ご自身の仕事の宣伝に感じる話がありました。話が長くて分かりにくい。
- ・もう一度お願いします。
- ・羽田先生の総括がとてもおもしろかったです。
- ・①大森教授の具体的解説が非常に興味深く、分かり易い、更に聴きたい。②今後とも各大学での取組み、具体的事例を知りたい。③IRは学生にどのような影響を及ぼすかを担保するものでなければ、目的を見失ってしまうものであり、自己満足に終わってしまう。
- ・今日はマクロの話も多くて、とてもおもしろかったです。実際の業務の上で「教育の効果測定」がどういうふうに行われるべきかをもっと知りたいと思いました。(最後の羽田先生のようなお話)

公立大学のガバナンスと教学改革 (2017.8.4)

清水 一彦 (山梨県立大学 学長)

回収率 =93.3% (28/30)

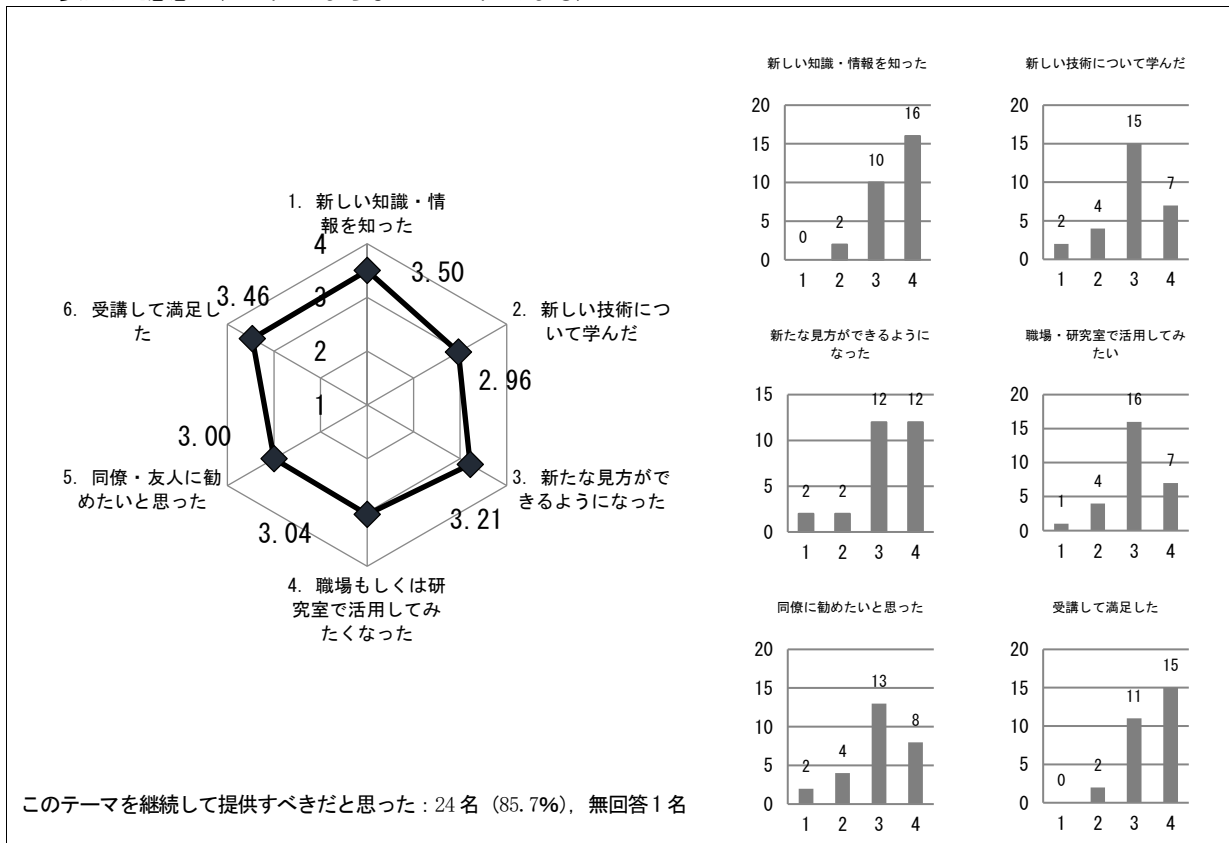
回答者属性(N=28)

【職階】教授(8)/准教授(4)/講師(0)/助教・助手(1)/管理職教員<学長～学部長>(1)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(6)/職員<係長・主任・一般職員等>(8)/その他(0)/無回答(0)

【性別】男性(23)/女性(5)/無回答(0)

【学校種】東北大学(5)/東北大学外(21)/無回答(2)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・職員の教育への参画を促す取組み
- ・高等教育システムに長けた執行部役員が教学ガバナンス改革に入ると、改革の意義が理解されやすく改革も進みやすいことがわかりました。
- ・単位制など、さまざまな制度が歴史的な経緯でできてきたことがわかり、考える基礎知識が得られた。
- ・今年から実施する学士力見える化、測定化の状況、今後楽しみにしています。
- ・授業評やルーブリックの事例について本学でも取り入れて行きたいと思った。

- ・組織変革, カリキュラムマネジメントなど, 専門性の高い話を聞くことができた。
- ・下位2割も, 組織の安定性維持に貢献している, 中位の6割を尊重する評価システム。
- ・新しい授業評価方法
- ・公立大学経営改革
- ・質保証のためのカリキュラム改善の手法が学べた
- ・山梨県立大学の種々な改革のやり方がわかった。
- ・高等教育システムの日米比較。
- ・ガバナンスの3つの要素
- ・教学改革の事例を提示して頂いたこと。
- ・カリキュラムの厳選

3. わかりにくいと思ったこと

- ・前半2/3 (一時間) の講義は別テーマでやった方がいいかと思いました。
- ・①学士力に見える化・測定化は授業評価をとりいれてどう計算するのか。②ここでいう学士力は個人の学士力ではなく, カリキュラムとしての学士力なのか。
- ・教科数が多いと経営面に負担がかかるのは理解できましたが, 多様性の面からは多くあっても良いではないか? 教育のスリム化・効率化→研究シフト, 公立大のミッションに合致?
- ・教育の内部質保証以降, 時間配分が少なくなった為かと思いました。

4. セミナーについての意見・感想

- ・「私立大学のガバナンス」と通して拝聴すると, 集中力が続かなくて申し訳ございませんでした。

私立大学のガバナンスと教学改革 (2017.8.4)

大森 昭生 (共愛学園前橋国際大学 学長)

回収率 =94.6% (35/37)

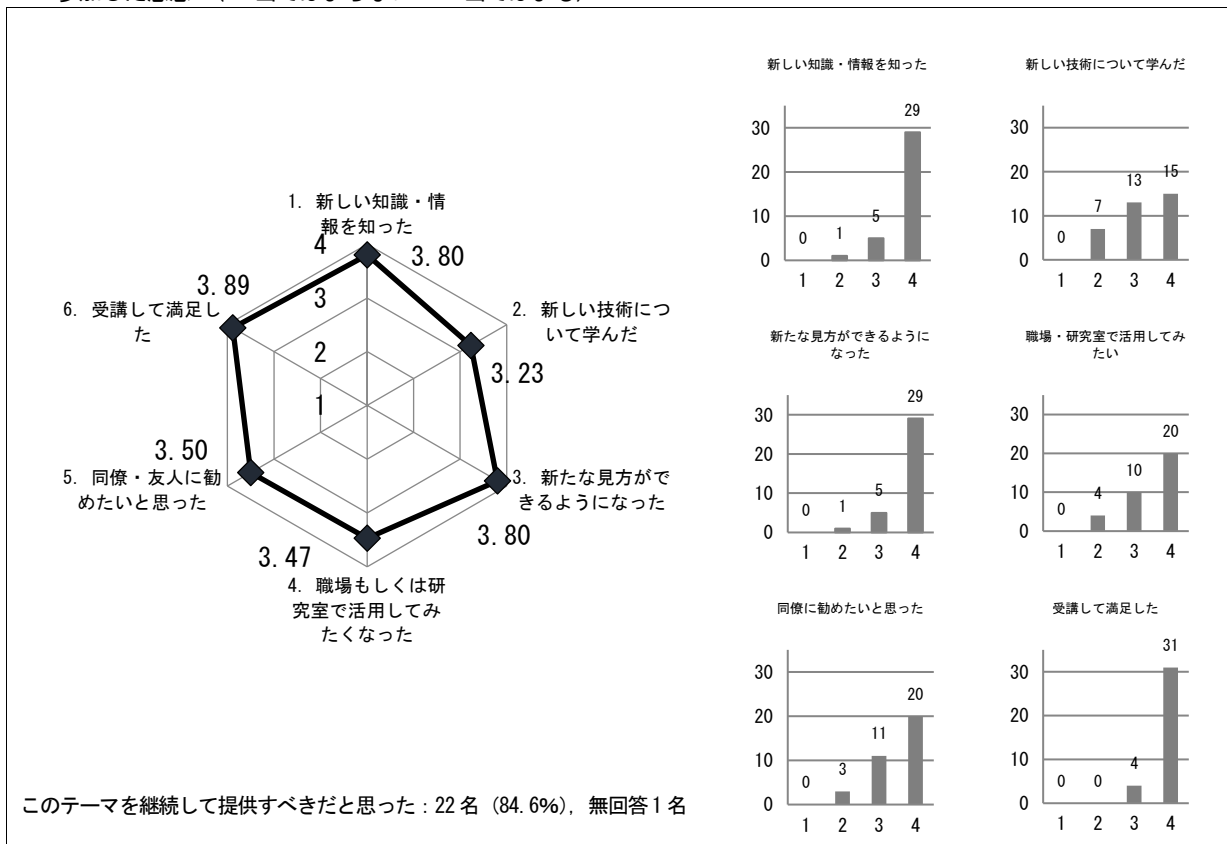
回答者属性(N=35)

【職階】教授(9)/准教授(4)/講師(0)/助教・助手(1)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(5)/職員<係長・主任・一般職員等>(12)/その他(3)/無回答(1)

【性別】男性(27)/女性(7)/無回答(1)

【学校種】東北大学(6)/東北大学外(25)/無回答(4)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・とび立たないグローバル人材, ご自身の大学の特徴をとらえたまた印象に残る (効果的な) 一言だと思いました。
- ・あれもこれもでなく, 「地域の中で役立つ大学」とミッションを決めて, そのもとで改革していること。
- ・職員も教育担当する主体性を持つことが, 学生の成長に繋がるということ。

- ・全員参加型のガバナンス，学力の維持，小規模大学ならではの意思決定。
- ・学長を中心とした組織の整理・統合の必要性
- ・具体的なしくみづくり，人の働き方についてノウハウが学べた，非常にわかりやすい内容で助かった。
- ・地域との連携の大切さを学ぶ，取組みがストレートにできるところがすばらしい。
- ・教職協働の在り方，自分の大学という意識をもつようにもっていくこと。
- ・地域との連携
- ・組織をフラット化して，職員を活躍させる仕組み，声の大きな人の寡占にならない仕組み。学長の使い方を学長が理解している。
- ・新しい取組みを生み出すための考え方，組織づくりについて学んだ。
- ・会議運営，大学改革のめざす先は学生。
- ・職員の意識改革と，経営への参加。
- ・教職一同の会議体
- ・注目されている様々な事例，実相について理解できた。
- ・大学生への具体的取り組み。
- ・①大学運営について「自分ごと」として考えること，またその仕掛けづくり。②学長のリーダーシップは全体で作り上げるもの
- ・経営難・定員割れからのV字回復のリアリティ，学内外のリソースの活用の徹底度合い。
- ・スタッフ全員が協力すること，地域と協力することが，何よりも，大切と思った。「食べていくためにだけ，仕事をしている」という職員もおり，そうした者を無視するのも手だが，それが大多数の場合，困るなとも思った。
- ・地方にはグローバルな視点と実力を持った人材確保が必要という考え方＝教委もふまえてほしい。
- ・シェアドガバナンスの教職協働の好事例。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・よい先生だけ集まっている印象を受けた。
- ・文科省申請業務などスペシャリスト（専門）の知識がないとできないのでは。
- ・スタッフ会議や他の会議の位置づけ，デマケーション。
- ・theory とのむすび付き←羽田先生の話は分かりやすかった。

4. セミナーについての意見・感想

- ・参加者との質問応答の時間が十分あったことが良かったかと思いました。また羽田先生のコメントも示唆に富んで，考えさせられました。
- ・1時間の話しではなく，2～3大学の話を聞いて，比較をしたかった。
- ・地方が抱える経済的・文化的格差の克服には，ダイバーシティをふまえたイノベーションを加速する必要がある。そのためには，このような優れた知見に行政（含教委）が積極的に触れていく必要がある。将来の人材育成を担う教委は文科省の考えだけでなく，是非このような知見に触れてほしいと強く感じました。

回収率 =100% (26/26)

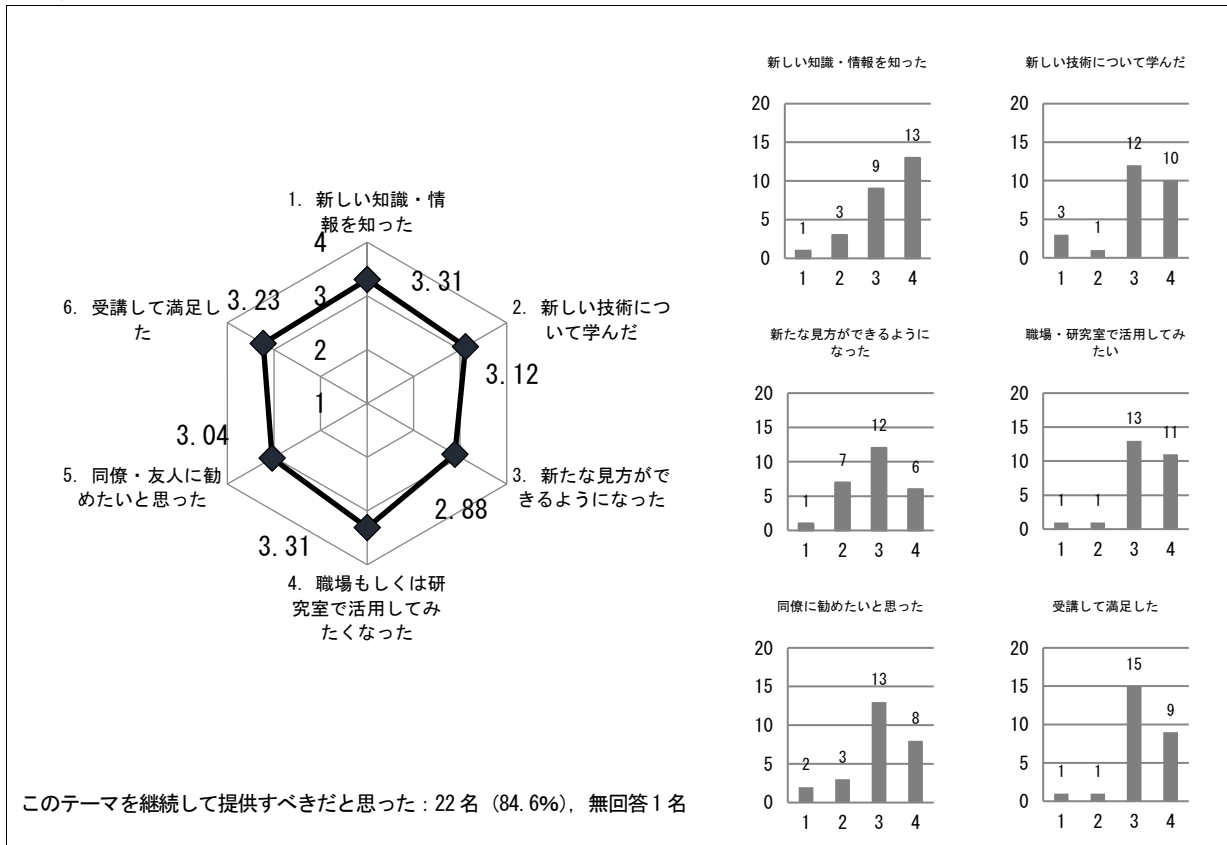
回答者属性(N=26)

【職階】教授(2)/准教授(5)/講師 (2)/助教・助手(5)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(2)/職員<係長・主任・一般職員等>(8)/その他(1)/無回答(1)

【性別】男性(19)/女性(6)/無回答(1)

【学校種】東北大学(5)/東北大学外(18)/無回答(3)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・①グループのアンケートフォームの使い方を教えてもらった ②ピボットテーブルも何となく使える気になった。
- ・今まで依頼ばかりしていたので、役立ちました。ありがとうございました。
- ・ピボットの活用方法
- ・解釈のグーグルフォームを活用する方法は役に立った
- ・データ集計後のパワーポイント作成イメージがつきやすくなりました。
- ・まだできなかったが、ピボットテーブルの方法をきちんと学びたい。
- ・グーグルによるアンケート、参加者にアンケートをとってそれを分析することはとても有益であるとする。
- ・オンラインサーベイを活用してするのが初めてだった。また、他の専門職の方といろいろ作業を行うことが勉強になった。
- ・google form は使ったことあるので、その串本先生の分。
- ・グーグルフォーム、ピボットテーブル
- ・統制変数の検証
- ・エクセルのピボットテーブル
- ・google form
- ・ネットサーベイ
- ・企画から分析までひと通りイメージが持てたこと
- ・ピボットテーブルによるクロス集計
- ・ピボットテーブル
- ・実際に手を動かしてやるのは大変有益と思いました。
- ・①調査の大枠 ②クロス集計

3. わかりにくいと思ったこと

- ・①満足した～しないの5件尺度が量か質か ②量データと質データの分析の仕方違い
- ・時間が足りない、授業者のレベルが違いすぎてどれも有益な学びがない
- ・スピードが早くて時間が足りなかった、分析結果をどのように解釈するかを講義して欲しい、少人数LAD参加者でもっとじっくりとして欲しい。

- ・ピボットテーブルの具体的方法
- ・時間短くて、作業を進めるのが難しかった。
- ・分析・・・
- ・収集と分析を一緒に行ったので、時間が不足
- ・時間が少ないと感じたので。全日や数日の研修も有益と感じました。

4. セミナーについての意見・感想

- ・①半月かけても短い感じですね。こういう IR の技術の話は、もっと長くやってもらっても受けたいと思います。 ②IR の調査設計の考え方、統計の考え方、質問紙の作り方、アンケートの-googleフォームの使い方、パワポの使い方、考察の仕方、ピボットテーブル・グラフの作り方など、いろんな要素を分けて、教えてもらいたいと思います。
- ・IR の目的は、データによる問題のあぶり出しと、政策提言にあると思います。サーベイだけでなく、学内データ（成績、入試等）を利用してのデータ分析と政策提言の方法を学ぶ必要があるかと。
- ・パソコンの動作がもう少し良ければ良かったです。
- ・ありがとうございました。自分のゆっくりな頭の回転がおそく、ついていくのにやっとでした。
- ・七夕期間中の開催はやめてほしい、アクセスが混雑して
- ・内容をもう少し削って時間に余裕があるとより良いと感じた。
- ・事例紹介をより多くしていただければ幸いです。
- ・各大学の取組みのプレゼン
- ・1 日のプログラムでも良いように思いました。分析に関する講義をもっと深くお聞きしたいと思いました。貴重な学習の機会をありがとうございました。
- ・個人情報についてのセミナーを開催してほしい。

大学組織を創造的・革新的にするための科学的知見の探究 ～組織論とリーダーシップ論から大学ガバナンスを再考する～ (2017.9.8) 青島 矢一 (一橋大学 教授)、高橋 潔 (立命館大学 教授)

回収率 =84.0% (21/25)

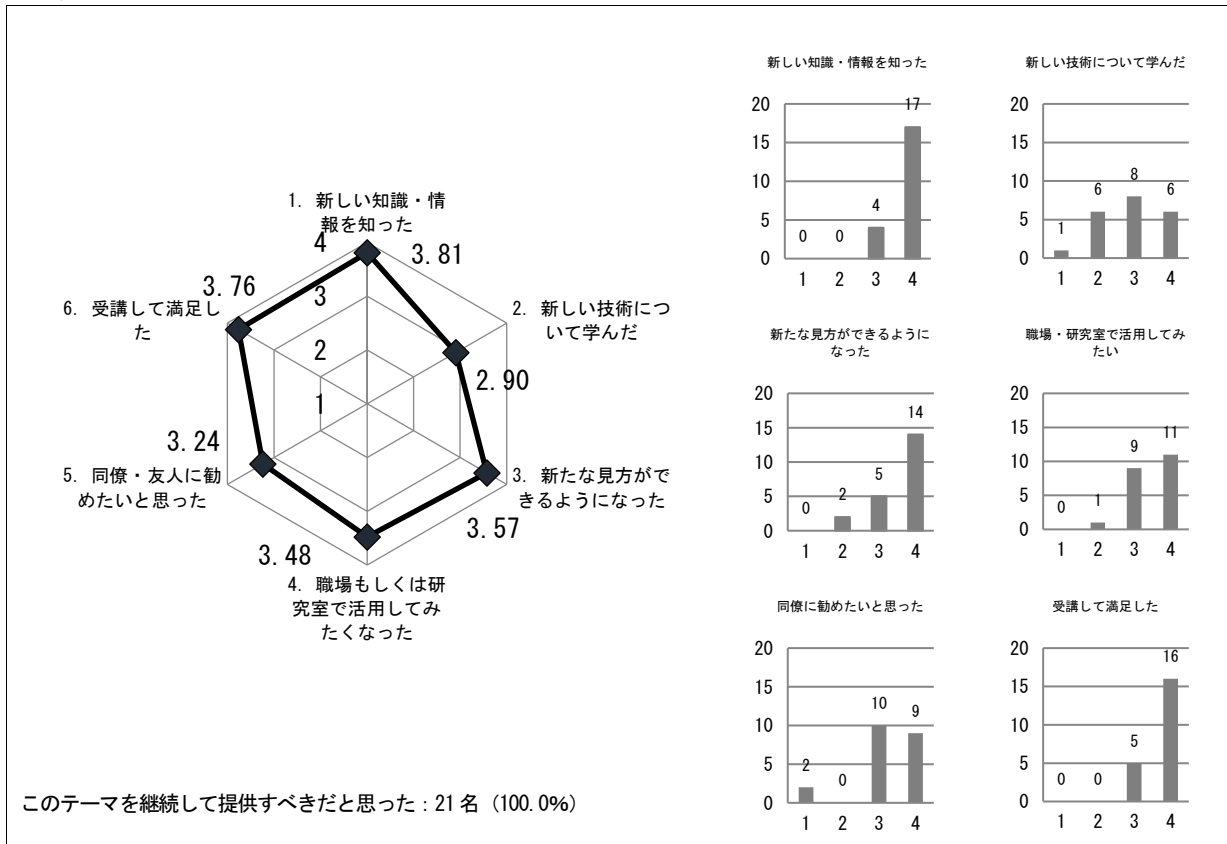
回答者属性(N=21)

【職階】教授(8)/准教授(5)/講師 (0)/助教・助手(3)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・一般職員等>(4)/その他(0)/無回答(1)

【性別】男性(16)/女性(4)/無回答(1)

【学校種】東北大学(10)/東北大学外(10)/無回答(1)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・大学でのリーダーシップに関する知見。
- ・①大学改革の困難の要因は何かが明確になったこと→行動化するのは大変難しそう。 ②ビジョンの大切さはわかるが、それを共有することの困難さも実感した。

- ・リーダーシップ、ビジョンについてはっきりと教えていただいたこと。
- ・誰のための大学なのか？顧客は、学生、国家、社会、人類、と大変面白い話でした。マネージャーは、長所をみて、長所を生かすのだと思いました。
- ・ガバナンスとイノベーションの対立性や大学での困難と、これらを区別して扱っていくこと
- ・アカデミックな知見と現実的な関心がうまく組み合わせていたこと。
- ・①経営とイノベーションの矛盾 ②マネージャーとリーダーの違い。
- ・①青島氏：「真っ当な経営」と「イノベーション」の両立の難しさ、バランスの重要性。 ②高橋氏：マネジメントとリーダーの役割の違い、大学経営のトップに求められるリーダーシップについての1つの見方。
- ・①真っ当な大学経営（運営）とイノベーションをどう進めていくか。②サッカーの監督の話はわかりやすかった。
- ・イノベーションとマネジメント、リーダーシップの関係の新しい認識のもとで。
- ・優れたリーダー・マネージャーに関すること。
- ・リーダーシップとイノベーションの関係
- ・①大学の抱える問題が良く整理されて提示されたこと ②ビジョンの大切さ ③プレゼンテーションの技術の高さ

3. わかりにくいと思ったこと

- ・研究室運営ができるが、なぜ（部局）大学運営ができないのか？
- ・フロアと講師のやりとりがより多いとよかった。
- ・大学経営の具体的な方法。
- ・企業経営と大学経営の共通点と相違点。大学経営にとって重要で、なおかつ企業経営とは異なる事項。
- ・企業経営と大学運営との関係。どうすればよいのか？専門的な研究課題についての予算はクラウドファンディングで得られるだろうか？
- ・横文字が多く、言葉の意味が良くわかりませんでした。

4. セミナーに関する意見・感想

- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・羽田先生の最後のコメントにエンパワーされました。
- ・いろいろ考えさせられました、有意義なセミナーとなりました。ありがとうございました。

回収率 =75.0% (15/20)

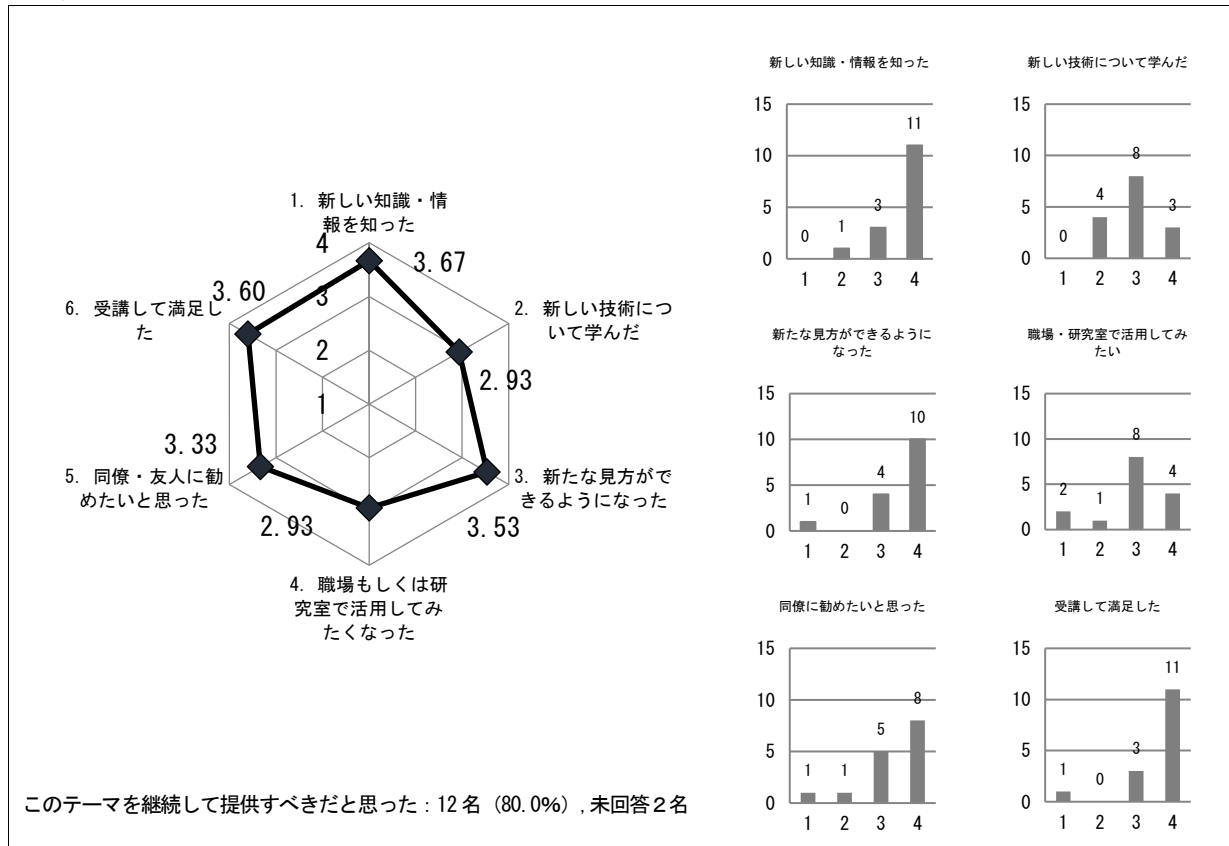
回答者属性(N=15)

【職階】教授(2)/准教授(2)/講師 (0)/助教・助手(1)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(2)/職員<係長・主任・一般職員等>(2)/その他(5)/無回答(1)

【性別】男性(11)/女性(3)/無回答(1)

【学校種】東北大学(5)/東北大学外(7)/無回答(3)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・研究評価の現状。
- ・政策や評価を歴史的な文脈から理解できた。
- ・リスクマネジメントとしての研究倫理。
- ・研究予算のトレンドが文科省経由のものが他府省の予算に回っているという指摘。従来の文科省依存だけではなく、他の財源にアクセスする必要性を感じた。ハーパーの本探してました。2013のNatureによる再現性の記事勉強します。Innovationと基礎研究の話勉強します。
- ・特になし。
- ・研究IRの担当者として、林先生のスライド38枚目「プレビュー結果の活用」。
- ・理解できそう、理解できていると思った政策の動向についても、不勉強・不理解な点が多くあること。
- ・①研究と社会の関係 ②評価を多様なものにする。
- ・研究倫理の考え方。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・研究評価・結果をどう活用するのか？
- ・実際の評価実践の部分がもう少し詳細に知りたかった。
- ・オープンアクセスジャーナルとのつきあいは是である非であるか。考え方を伺いたかったが、最後、話が駆け足で残念でした。
- ・実地レベルでどうやって。部局内、大学内の評価をおこない、どういうふうを活用していくのか、具体的な話や実例を示してのケースメソッドとかでないといけないと思う。
- ・研究評価の考え方。

4. セミナーについての意見・感想

- ・実際におこなった特定の大学の特定の改革について、担当者とそれを評価した側とが集まって「どういう工夫をしたのか」「どういう点を評価したのか」「どういうデメリットがあったか」といったことを話しあうケーススタディの方が有用だと思う、抽象的な話だけでは意味がない。

- ・スライドのハンドアウトはカラーが望ましい。
- ・いずれの講義も面白かったです。東北大学の自由な雰囲気ならではのクオリティの高いセミナーだったと思います。記事にさせていたたくのが楽しみです。

回収率 =88.9% (24/27)

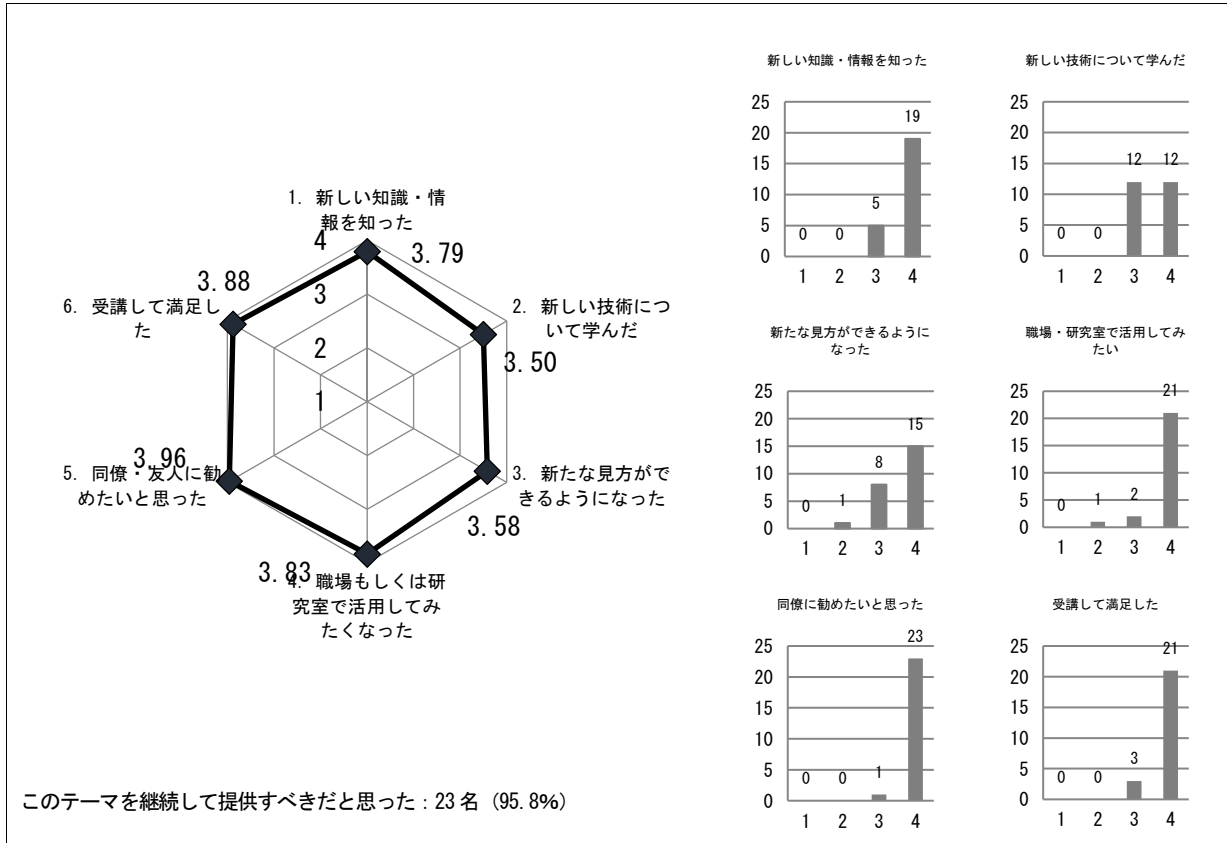
回答者属性(N=24)

【職階】教授(5)/准教授(4)/講師 (0)/助教・助手(3)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(3)/職員<係長・主任・一般職員等>(5)/その他(4)/無回答(0)

【性別】男性(19)/女性(5)/無回答(0)

【学校種】東北大学(6)/東北大学外(16)/無回答(2)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・これからの時代に求められるのはサーバントリーダーシップを発揮できるリーダーであること。フォロワー寄り、奉仕し、共に前に進むという考え方を身につけることが大切であること。
- ・「サーバント型リーダー」のコンセプト、リーダーシップを発揮するための個人的な挑戦課題が特に。
- ・明日から現場で使える技術を学びました。
- ・サーバント型リーダー
- ・前職で感覚で行っていたことの根拠が明確になりました。
- ・「権威とリーダーシップの違い」や「内発的動機づけと外発的動機づけ」のようなトピックについて、心理学的な理論や具体的な理論例を交互に紹介しながら説明いただいたのはわかりやすく、理解が深まった。
- ・サーバント型リーダー実践したい。
- ・①サーバント型リーダーについて知ったこと。 ②自分自身のリーダーシップについてふりかえることができたこと。 ③オーソリティとリーダーシップの違いについてもはっきりし、フォロワーがリーダーとして認めるリーダーシップをめざしたいと思った。
- ・モチベーションや、リーダーシップのメカニズムを学んだので、日々の業務に当てはめて分析することができると思う。
- ・リーダーとフォロワーの役割
- ・自身の現状把握と今年1年間のマネジメントの振り返りができたこと。職場の職務満足度の上げ方、サーバントリーダーシップについて。
- ・リーダーシップの考え方(サーバントリーダ)は授業運営(教員サーバントリーダであるべき?)にも活かせると思った。
- ・リーダーシップに対する考え方は今後仕事をしていく上で参考にしていきたい。
- ・MPS, 出典が紹介されていたので、更に調べてみたいと思います。
- ・組織文化のタイプのチェック・分析。

- ・組織的パフォーマンスを高めるための意義、自組織の組織文化を客観的な指標用いて見たことで、今後の改革に対する課題を再発見することができた。
- ・(本学の) 職員組織に対して、「組織の活性化」「モチベーション」のワークショップを取り入れたい。「リーダーシップ」を管理職研修に取り入れたい。レクチャー、ワーク全体が役に立つ。
- ・①「組織にする」というでは「多重人格」になることを意識して、同僚、部下に接したいと思った。②時代に応じてリーダーシップがかわる。サーバント型リーダー。
- ・モチベーションを高める方法。
- ・「サーバント型リーダー」「能動的なフォロワー」の件りは、感覚的に分かっていた時代の変化を言葉にして示してもらった。
- ・リーダーシップについて理解を深めることができた。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・「交流と結束」と集団の凝集性の違いがわかりにくかった。PM理論の方が理解しやすいと思った。
- ・今回のご説明と他の説、手法の比較
- ・立場に明確な上下がない中でどのようにリーダーシップを発揮していくべきかが難しいと思いました。
- ・「競争」「ゲーム」性は大学事務組織には取り入れるのはなかなか難しそうと感じた。
- ・大学(教員)のマネジメントに特化した内容。

4. セミナーに関する意見・感想

- ・素晴らしい講義を無料で提供していただき本当に感謝しています。
- ・具体例を交えていただき、とてもわかりやすかったです。ありがとうございました。
- ・「ほめる」ということが大切だとよくいわれますが、アメリカでの経験から言うと、「ほめる」というよりは「正当な評価をフィードバックしている」という印象をアメリカでの職場のポジティブフィードバックに対してはもっています。日本では価値判断の基準はなく、やたら「ほめる」ということが強調されている感じがし、かえって改善点を指摘するのが難しくなっているような気がします。
- ・テーマ、進め方の両方とも優れていた。
- ・大変貴重な講演でした。
- ・とてもためになりました。もっと学内の人も参加すべき(FDなどに使って)だと思いました。
- ・ぜひ、本学でもやって欲しい、FD/SD研修として。

回収率 =82.6% (38/46)

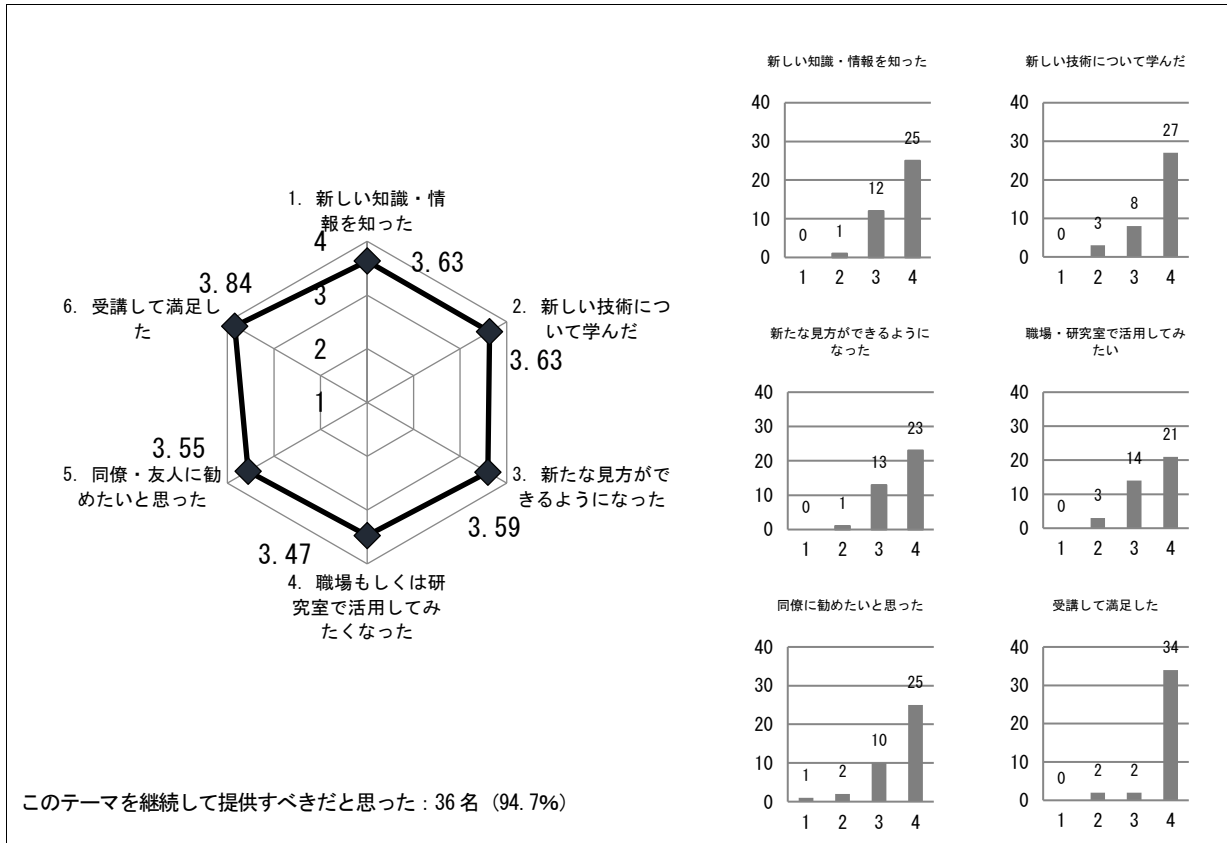
回答者属性(N=38)

【職階】教授(7)/准教授(7)/講師 (0)/助教・助手(2)/管理職教員<学長～学部学長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(5)/職員<係長・主任・一般職員等>(13)/その他(2)/無回答(2)

【性別】男性(31)/女性(6)/無回答(1)

【学校種】東北大学(2)/東北大学外(32)/無回答(4)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・山形大の IR/IE について
- ・オープンデータ
- ・ほとんどすべてではあるが、本学で適用できるかが課題です。
- ・BI レポート
- ・数多くある学内のデータを必要な時に活用できるよう、規定等で環境を整えている必要があるため、今後行っていきたいと思う。
- ・教育プログラム単位での3ポリシーという考え方はおもしろいと思いました。学修成果の可視化の方法について具体的に学ぶことができました。
- ・IR、IE のコンセプト、考え方。基盤力テストのデザイン、使用方法の具体例。組織の人材のバックグラウンド。
- ・①プログラム・レビューの具体的な手法。 ②キーコンピテンシー調査。 ③IE の目的と位置付け。
- ・IR は支援、(なんでもできると思っているトップ層が多い)
- ・学内のステークホルダーとのコミュニケーションがとれている。どのようにそのような(エコ)システムを作ることができるのか? 執行部トップの決意や学内の文化的なものを垣間見ることができたのがよかった。
- ・プログラム・レビューに関すること。
- ・Big5 の活用、プログラム・レビュー。
- ・プログラム・レビューの詳細については非常に勉強になり、ぜひ実践していきたいと感じました。
- ・EMIR : データ収集と管理規定、規定化のプロセス、課題等もお聞きしたかったです。
- ・自大学の足りない点について多く理解することができた。何から手を付けてよいか悩ましいですが、1つ1つやりたいと思います。
- ・プログラム・レビューに向けた下準備、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーのところ。
- ・全体的な枠組みのデザインがさすがだと思います。(学生の追跡DB, 学力テスト, 人間力テスト, 3ポリシー改革)
- ・直接指標を用いることが、より学生の学びを可視化できるということ: 3つのポリシーを実質化する必要性→難しいけど、しなければIRも機能しない。
- ・IR/IE を位置付けることができたが、それもどのように実践していくのが課題となっているため、プログラム・レビューの取組事例は非常に参考になった。
- ・学問基盤力テストの対専門教育版をつくれたらおもしろいと思った。

- ・IEの背景, Power BIを用いたデータの可視化手法。
- ・教育は組織でやる。
- ・Big Fiveを用いたFD

3. わかりにくいと思ったこと

- ・項目反応理論の活用
- ・公開データ活用のパートでのBIとはなにか?どのように使用するのかがよくわからなかった。
- ・学生がスマホを全員持っているのは国立大学だからですよ。
- ・直接指標と間接使用, 考え方は, 理解できたが, 各指標に関する詳しい説明が欲しかった。
- ・アメリカのことがたびたび話題になっていたが, 実際にどこまでできるのか, 今回の事例がどこまでせまったかも知りたいと思った。
- ・多様性を認めるIRや学修成果把握の可能性はあるのかどうか。

4. セミナーについての意見・感想

- ・ありがとうございました。
- ・教学IRを実践するには, 教員に理解や知識のある人材が必要だと思っています。本学のような零細大学の組織には, 山大的ような専門家をおくというトップの方針はありません。なやましいところです。
- ・駐車場をなんとか
- ・質疑の内容が充実していて, 良かったです。
- ・医薬歯看コアカリキュラムに関わる内部質保証に向けた(特化した)セミナー希望(どうしても, 人文系になってしまいますよね・・・)
- ・概念的な部分ではなく, IR実務を行っている担当者向けのワークショップがあると良い。
- ・山下さんのように論理的に一貫したような形でIRとか学修成果把握をしている大学の取組みをどんどん紹介して欲しいです。

世界における高等教育の質保証の到達点と課題 (2017.12.23)

深堀 聡子 (国立教育政策研究所 高等教育研究部長)

回収率 =84.0% (42/50)

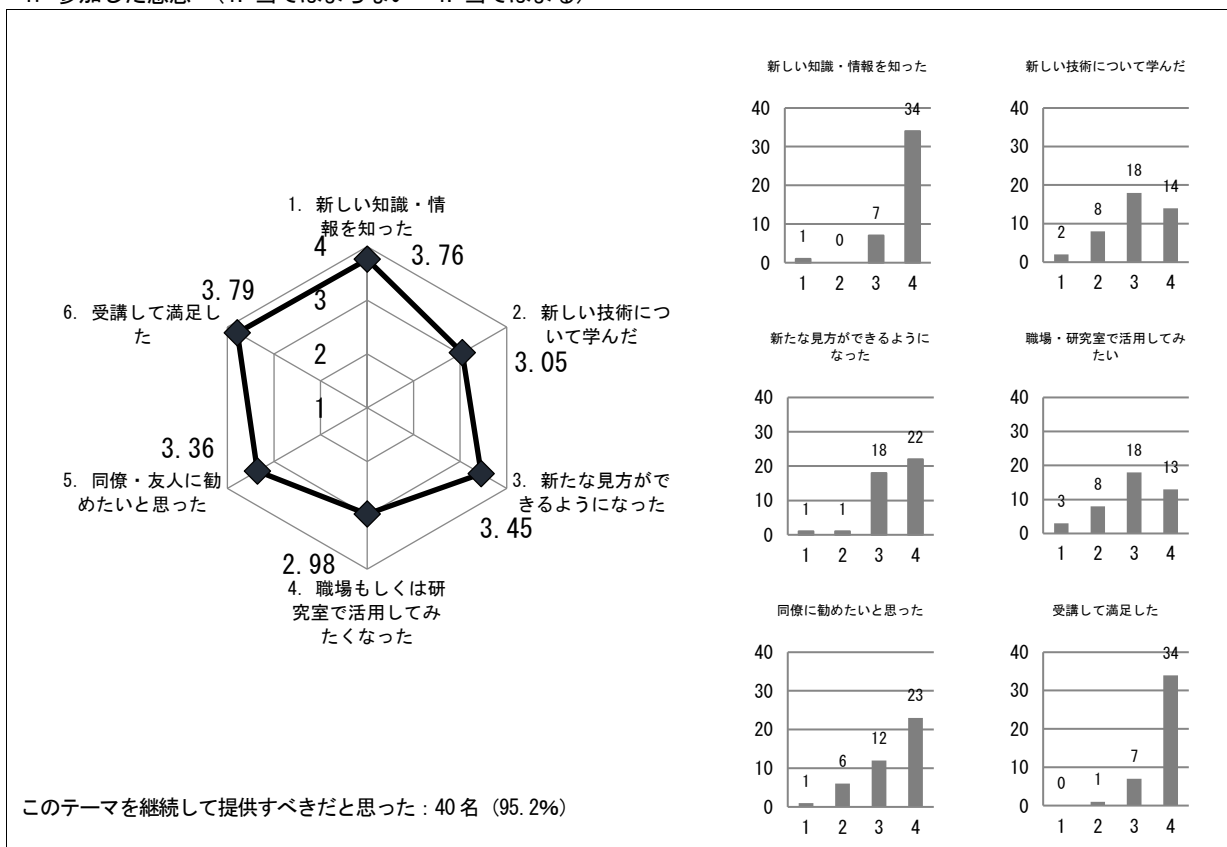
回答者属性(N=42)

【職階】教授(13)/准教授(5)/講師(1)/助教・助手(4)/管理職教員<学長~学部長>(1)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(3)/職員<係長・主任・一般職員等>(11)/その他(3)/無回答(1)

【性別】男性(35)/女性(6)/無回答(1)

【学校種】東北大学(5)/東北大学外(36)/無回答(1)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・アメリカとヨーロッパの事例とHistoryを学ぶことができた。

- ・質保証の今後について
- ・「学修成果」を再考することの示唆を得た。
- ・チューニング教育改善サイクル。
- ・歴史的背景について、改めて考えさせられました。
- ・質保証の「対象」を意識的に取り組むことの重要性。
- ・①IRの手法と定義 ②教育とIRの活用 と合わせて考えることができた。
- ・学修成果（結果）から逆向きに考えて、カリキュラムや学位のプログラムを作成すること。
- ・内部質保証の教え方の背景、アセスメントツールの開発。
- ・考え方として現状を理解した。
- ・視点
- ・高等教育の国際的視点での質保証の背景が、理解できてとても勉強になりました。
- ・内部質保証に関する背景、特に欧、米、日本の考え方の違いを知ることができたことは良かったです。
- ・学修成果アセスメントから教育改善へのプロセスの中で、課題設定の重要性について日常の業務の中で課題意識をもっていたが、その方向性が誤りでないことがわかった。
- ・改訂ブルームのタキノミーを用いた学修成果のマッピングにというアイデアは、本学園の高大接続の取組でやってみようと思っており、たいへん参考になりました。
- ・さまざまな知見が展開される中でも、現在進行中の展開で「最先端」を動的に理解する意味で貴重な機会であった。
- ・共通性と多様性の両立の重要性。ヨーロッパのそこに至る歴史。
- ・学位プログラムの概念。
- ・学位プロフィールの考え方は知らなかったのですが、学位のみでなく、研究室単位でもそのような取り組みは使えるかもしれないと思った。
- ・学修アセスメントから教育改善という点での、授業科目、学位プログラムの逆行き設計について。
- ・「質保証」についての定義、実際の取り組み（国内外）、制度等について良く分かりました。
- ・「内部質保証が重視される」と第3期の認証評価で定められているが、なぜ必要なのか、考え方や事例を通じて知ることができた。
- ・①学校間移動が質保証の背景にあること。 ②共通性と多様性の両立を考えつづけていくことの大切さ。
- ・①エキスパート・ジャッジメントを鍛える＝プログラム・コーディネーターの力量が問われるということ。 ②欧州で取り組みが始まって20年経っても理念と現実に開きがあるというのは分かる話だと思った。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・カタカナ語がかならずしも日本語の意味をあてていないので、分かりづらい点もあった。大学レベル（大、小）によって状況は異なるであろう。
- ・カリキュラムに関する内部質保証を誰が担当する、もしくはどのようなチームを構成するのが効果的なのか。（教員だけでは無理に近いと思っています）
- ・学部・学科の教育と共通教育の役割分担が、高等教育の質保証の観点から見えてくると更に有難かったなと思います。
- ・お話がやや聞きにくかった。（日頃外国語で話される機会が多い方かもしれません）
- ・日本で共通性と多様性の両立をどのように実現していくか。（講師に求めているのではなく、私自身が課題と感じたことです。）
- ・質保証。
- ・内部質保証の今のところの成果（社会的評価等）はどのようなものがあるのかももう少し聞きたかった。
- ・なぜ標準化テストが必要なのか、結局分からなかった。文系の生き残り戦略という切口で話された方が、ずっとわかりやすかったと思う。
- ・ステークホルダーが社会の成功者に偏ってしまう点をかえられないかと感じた。

4. セミナーについての意見・感想

- ・有意義でした。
- ・高等教育の質保証に関する知識があまりない状態で参加しましたが、非常に分かりやすく、また、職場ですぐに活用できそうな多くの知識や刺激をいただきました。
- ・貴重なお話しありがとうございました。
- ・自大学では内部質保証の概念が弱く、教育の方法論に関する議論ばかりで、違和感を禁じえないのだが、このようなお話をLIVEで伺うと、自分の疑問は間違っていないのだと認識できる。
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・すばらしいご講演でした。複雑な事柄をクリアに説明されて、私なりの理解が整理されました。まさにクリスマスプレゼントだと思いました。ありがとうございます。
- ・学生さんの能力低下をつくづく感じています。内外に目を向けながら、今回の質保証を理解し、取組みができるよう、今回のテーマを継続的に学ぶ場があればと感じます。
- ・質問時間が十分にとられてよかったです。
- ・全体的に、何を言いたいかわからなかった。
- ・深堀先生の知識量、すご過ぎます。
- ・分野別参照基準に関する、具体的な検討として、社会に発信していくようなことを考えるようなセミナーがあればと思った。

回収率 =66.7% (28/42)

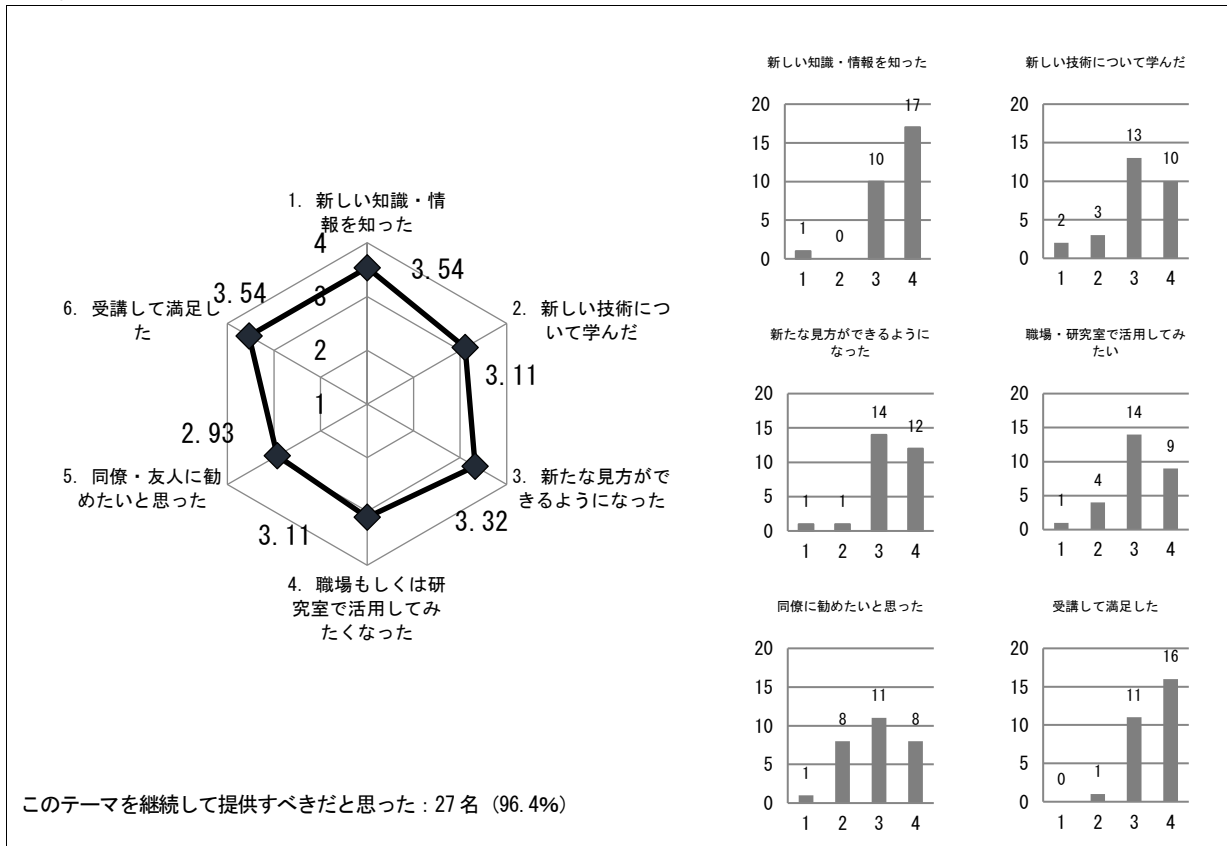
回答者属性(N=28)

【職階】教授(5)/准教授(3)/講師 (0)/助教・助手(2)/管理職教員<学長～学部長>(1)/博士課程(1)/職員<部長・課長以上>(6)/職員<係長・主任・一般職員等>(5)/その他(2)/無回答(3)

【性別】男性(20)/女性(6)/無回答(2)

【学校種】東北大学(5)/東北大学外(19)/無回答(4)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・村上先生による全般的な講演とイノベーション創発塾修了生による具体的な事例から様々な展開, 特に学生自身が主体的に取り組む可能性を理解した。
- ・LAの動向や技法, 利用できるツールなど。
- ・プログラムや教育カリキュラムの価値や効果判断としてLAが有用であると思いました。
- ・LAの基本情報を得られた。
- ・役立つ
- ・Learning Analyticsの今後の活用の可能性について, 気づきがあった。
- ・LAとIRの違いなどの基本的なことから具体的な事例まで聞くことができ, 大変勉強になった。
- ・①通学課程の退学要因分析→通信も参考にできないかと感じた。 ②最後の質疑応答で「エビデンスのきれいな先生」とか「PLOGのコンピテンシーを上げるために教育やっているわけではない」に個人的に同意しました。 ③へだたりのある通信教育でも「盛り上がっている」「あまり集中できていない」などがわかるといいなと思いました。
- ・研究のために勉強しようと思ひ参加したので, 研究方法が役に立ちそうだった。
- ・一日の数値分析
- ・図書館の利用状況に関するデータは非常に参考になった。LAに関する知識を深く考えたことがなかったので, IRと同様本学への視座としたい。
- ・LAの手法, 関連文献
- ・OKAO分析, LAについての情報, 図書館について。
- ・学習様態の4分類, ベクトル化例, お顔ビジョン
- ・①IRとLAについて, 現状 ②図書館データ分析の観念
- ・LAはまだ発展途上だが, モバイルなどですでにデータを得ることができるので活用はできる。
- ・大学等の事例。
- ・①動態認識の精度 ②図書館自身での分析
- ・①LAやIRの観点を「学生の成長」もしくは「自律・自立した人間を育てる」に変更する活動が必要と再認識した。 ②PBLのレベルをもっと上げないと, 学生時代にムダなことばかりやる流れになっていると再認識した。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・得られた分析結果から具体的に実施したことなど。
- ・LAが導入地点に立っているため、多くの実践とその報告を期待します。
- ・実践例をもう少し詳しく聞きたかった。
- ・2つの講演のつながりが明快でなかった。
- ・高等教育機関の営みの中でのLAの位置づけをどのように考えればいいか。
- ・理解度の測定方法について。
- ・実際の分析手法については自分で深めていかないと、と思いました。
- ・技術部分をもう少し知りたかったです。

4. セミナーについての意見・感想

- ・学生自身による研究、発表は東北大学らしい方法ではないかと、今回のセミナーを通して感じた。
- ・聞いた後にグループワーク～自分の大学の課題を話して、グループの人にアドバイスをもらうなど～を取り入れると、深まるかもしれないと思いました。(組織パフォーマンス 12/22の時少しやりましたが) ～と書いていたら松河先生が16:15～やってくださいました。5分でしたが、良かったです。
- ・教員と職員が一体となって、大学教育の向上につながる事例をたくさん紹介してほしい。ラーニングコモンズなど。
- ・いつもありがとうございます。LAは初めて勉強しました。楽しく理解できました。
- ・金子さんの発表資料もいただくと助かります。
- ・①今回のLAで授業改善した内容が、(社会に出る学生を考えた時に)本当に役に立っているのか、初等教育でやる興味をもたせて学習の場に着かせるだけではないのか、企業に入ったらそんな手取り足取りなどしてもらえなくなり、挫折につながるのかとか、考えた方がよい。 ②データを設定する背景の「課題」をもう少し考えないともったいない。背景、課題、目的(ゴールイメージ)、解決仮説設定、仮説検証、結果評価(評価基準)、次への課題提起、で構成した方がよい。

研究政策と知的財産戦略 -大学における研究成果の取扱い- (2018.2.17)

玉井 克哉 (東京大学 教授)

回収率 = 79.2% (19/24)

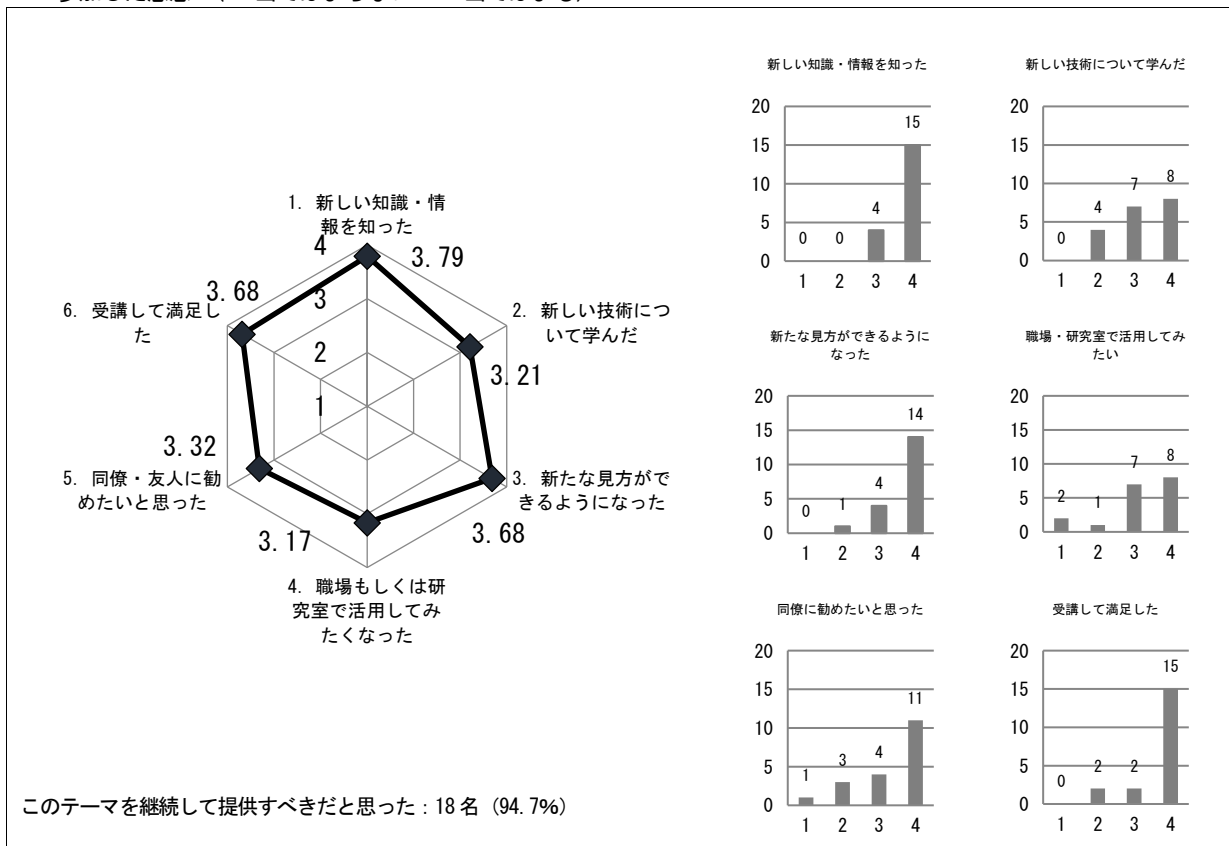
回答者属性(N=19)

【職階】教授(2)/准教授(8)/講師(0)/助教・助手(3)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(2)/職員<係長・主任・一般職員等>(4)/その他(0)/無回答(0)

【性別】男性(14)/女性(5)/無回答(0)

【学校種】東北大学(6)/東北大学外(13)/無回答(0)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・特徴を把握することができたこと。
- ・研究成果の権利について、全体的にイメージがよくつかめた、歴史的な流水がよく分かった。

- ・歴史的、文化的、制度的な要素を日、米、独で比較しながら、どうして日本の制度がうまくいかないのか、巧妙にストッパーが組み込まれているのかというからくりを分かりやすく説明していただいた。このからくりを一部でも理解しながら身の振り方を考えるといいと思った。(特任の身分です)
- ・大学改革に関して
- ・①機関帰属原則 ②大学にかかわる研究資金・環境 ③日・米の差(違い)
- ・産学連携の歴史、世界的な流れ等。
- ・①研究成果についての考え方の変化とその背景について理解できた。 ②特許の持つ問題点や残額連携の問題点。 ③研究成果の取り扱いについての考え方の基本を学ぶことができた。
- ・詳しい内容は難しかったけれど、引き続き大学は政府の資金を最も頼りに(当面は)すべきということは分かった。役立ちはしませんが…
- ・大学による研究成果はどのように取り扱われるべきなのか、機関に帰属すべきか、補助金や交付金を受けている公共財なのかを考えることとなった。研究費が低減している中で資金獲得の方法は様々な側面があると学んだ。
- ・率直に問題点を教えていただいた点、ありがとうございます。
- ・日本とアメリカの産学連携との比較、パイ・ドール法の成立過程。
- ・研究大学ではないので、あまり実践的ではなかったが、特定の分野についてプロに任せる重要性を理解できた。また、社会、政府、経済界、大学、研究者全員に意識改革が必要。
- ・産学連携について

3. わかりにくいと思ったこと

- ・知財法のテクニカルな話を具体的にもっと知りたかった。
- ・①痛快な話だったが、現場で動く特任専門職の自分の立場からすると、全く明るい未来見えず、明日からの仕事のモチベーションが下がってしまった。 ②「ムラの」社会構造から脱却するには何をすべきなのか、少しでもよいので何かヒントが欲しかった。 ③もう一度戦争でも起きて負けるようなことがないと、日本は根本的に変わることができないのではないかな?
- ・現状の大学に関する知財の権利義務関連の実例、東大 TLO の大学内での立場をもう少し聞きたかった。しかしながら非常に面白い内容であった。

4. セミナーについての意見・感想

- ・全体像をつかむための導入講義として、大変ためになりました。次回、現在の日本における事例(国からの外部資金を得て発明された技術を実社会で展開した事例等)を詳しくお聞きしたいです。
- ・CSTI の弱体化を小林信一先生が、以前東北大のセミナーで指摘していました。CSTI の上山先生は米国の科学技術史の専門家ですが、かえってイノベーションが阻害されているようにも感じます。小林先生は自然科学の研究者が CSTI にいないことを危惧していましたが、大学の自主性と自律性を財政的にも担保した方が良いように、私見ですが感じます。(国が大学をどうしたいのかが分からない)
- ・大変満足

回収率 =93.8% (15/16)

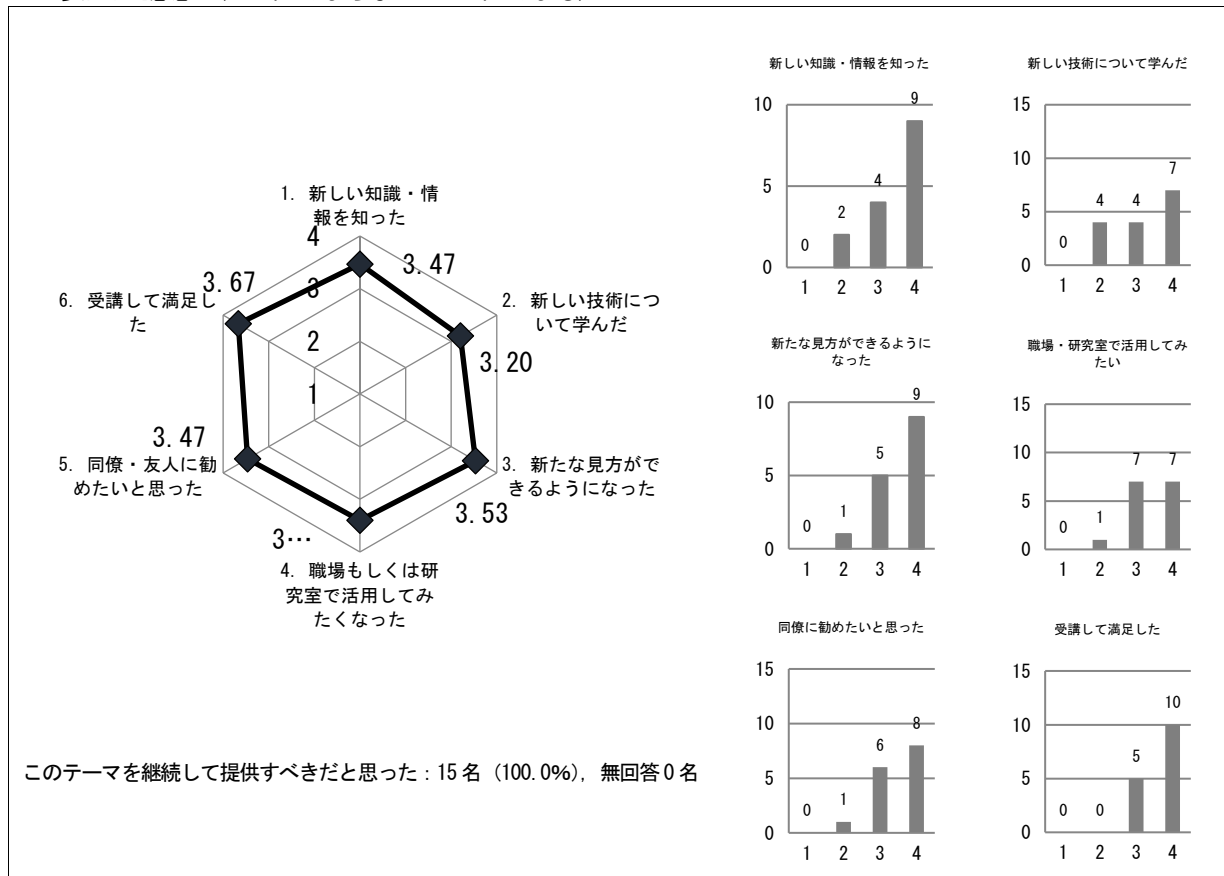
回答者属性(N=15)

【職階】教授(0)/准教授(0)/講師 (0)/助教・助手(0)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・課長以上>(0)/職員<係長・主任・一般職員等>(15)/その他(0)/無回答(0)

【性別】男性(6)/女性(8)/無回答(1)

【学校種】東北大学(5)/東北大学外(10)/無回答(0)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・視点
- ・坂倉さんが思ったこと全般
- ・女性としての生き方、上司からの目線が分かった
- ・IPPOプログラム：学生の進路について大学が携わることができる
- ・お二人のしごとに対する姿勢は見習いたいと思いました。
- ・「見る」ことはやはり重要だと再確認できた。
- ・「職員論」というテーマというより、「生き方論」について触れることができ良かった。
- ・置かれた状況の中で自分らしく、高みを目指してどう成長していくか考えながら、今後仕事と向き合いたいと思いました。
- ・自分の担当以外の議事録の確認
- ・人を知る。こちらから出向いて話す姿勢。普段からの何気ない話の重要性。
- ・誰にでも言えることば「何をしたら良いかわからない。今の自分から一歩ふみ出す」
- ・周りを見ろということ。こぼれた仕事を拾ってくれている「だれか」がいるということを忘れないようにしようと思いました。
- ・女性として、女性の立場で生きること。管理職のあり方（そうあってほしい）

3. わかりにくいと思ったこと

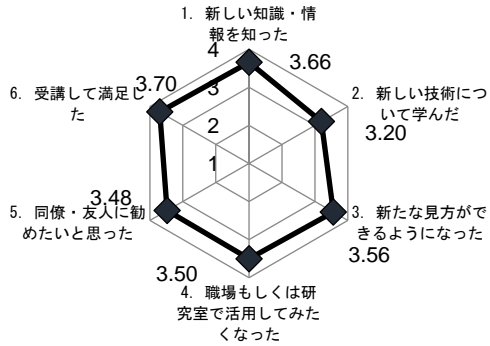
- ・若手にとっての俯瞰すること
- ・若手目線の話が欲しかったです
- ・特にありません
- ・申し訳ありません。大津さんのお話は難しい部分が多く、理解できない点も多々ありました。

4. セミナーについての意見・感想

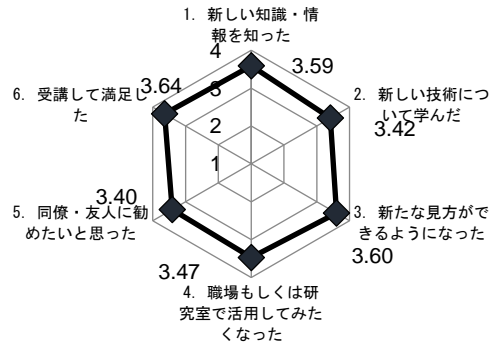
- ・和気あいあいとして良かったです。
- ・グループの移動がもっとであると良かった。

コード別集計結果

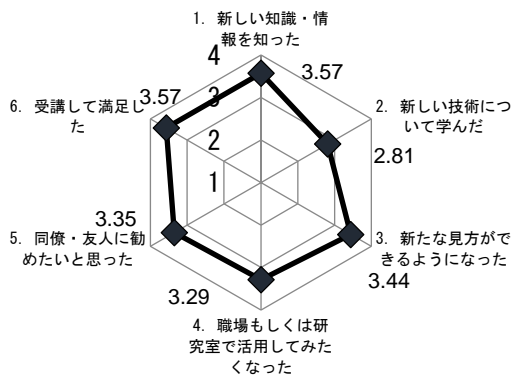
高等教育のリテラシー形成関連（コード：L）



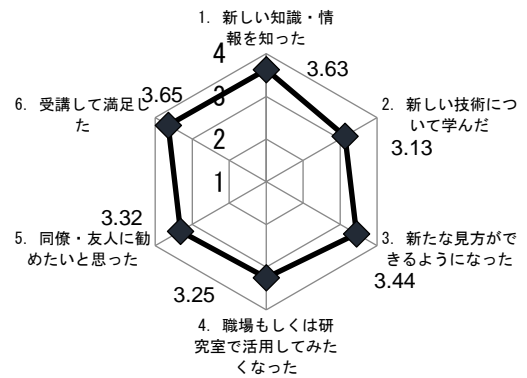
専門教育での指導力形成関連（コード：S）



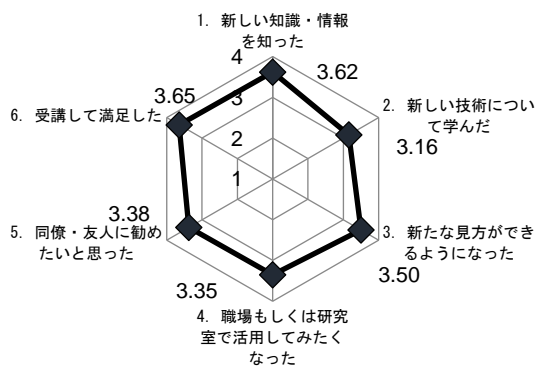
学生支援力形成関連（コード：W）



マネジメント力形成関連（コード：M）



全体



4.6 PDPonline（専門性開発プログラム動画配信サイト）

①PDPonline における動画コンテンツ一覧（2017年3月末時点）

	セミナー名	講師（所属は講演当時、敬称略）
1	Managing internationalisation: The priorities of the University of Melbourne	Richard James（メルボルン大学）
2	Finding Common Ground: enhancing interaction between domestic and international students	Sophie Arkoudis（メルボルン大学）
3	研究と実践のインタラクション：大規模学生調査研究と大学IRコンソーシアム	山田礼子（同志社大学）
4	学術分野の男女共同参画とポジティブ・アクションの課題—憲法学研究者としての歩みにふれて	辻村みよ子（東北大学）
5	Designing Your Courses for More Significant Learning	Dee Fink（高等教育コンサルタント）
6	授業デザインとシラバス作成	串本剛（東北大学）
7	大学教育論：教養と専門の二項対立を越えて	小笠原正明（北海道大学）
8	リーダーシップと意思決定	吉武博通（筑波大学）
9	歴史から見た大学：中世から現代まで	寺崎昌男（立教大学）
10	認知科学と学習の原理・応用	佐伯胖（信濃教育会教育研究所長、東京大学名誉教授）
11	Ensuring Research Integrity in the Australian Context: Future Directions	Marc Fellman（豪ノートルダム大学）
12	データに基づく教学改革をどのように進めるか～アセスメントの5ステップ～	山田剛史（愛媛大学）
13	大学教育と青年期発達	鈴木敏明（東北大学）
14	授業づくり：準備と運営	邑本俊亮（東北大学）
15	アカデミック・ライティングを指導する—現状の分析と指導法の提案—	井下千以子（桜美林大学）
16	東北大学生の履修行動と学修成果	串本剛（東北大学）
17	学修成果測定をめぐる国際動向	杉本和弘（東北大学）
18	人文・社会科学における研究キャリア形成—現状と若干の提言	佐藤裕（国際教養大学）
19	学習と教育の科学—認知理論から大学の授業改革を考える—	市川伸一（東京大学）
20	Ethical Conduct in Research Supervision – Principles, Policies, and Procedures	Gabriele Lakomski（メルボルン大学）
21	学習効果を高めるICTの活用法～反転授業も含めた授業設計～	向後千春（早稲田大学）
22	デジタル知識革命と大学の未来～ポスト・グーテンベルク時代の教育に向けて～	吉見俊哉（東京大学）
23	発達障害学生支援の現状と法が求める合理的配慮	青野透（金沢大学）
24	Transforming Classrooms for Active and Collaborative Learning	Andy Leger（クィーンズ大学）
25	学生が成長する環境とは何か—ボーダーフリー大学の現実をふまえて—	葛城浩一（香川大学）
26	学力形成と教育マネジメントの役割—金沢工業大学の実践—	西村秀雄（金沢工業大学）
27	大学教育改革のトレンドと日本が目指すべき21世紀の学士課程教育像	小笠原正明（北海道大学名誉教授）
28	体育を通して見る人間教育	木原成一郎（広島大学）、小林勝法（文教大学）、大築立志（東京大学）、浅井英典（愛媛大学）
29	大学教員の役割とキャリアステージ	羽田貴史（東北大学）
30	社会学における数理学教育の現状と課題	盛山和夫（関西学院大学）

31	大学における統計科学・データサイエンス教育の課題と展望	渡辺美智子（慶應義塾大学）
32	外国人留学生の日本における就職支援の課題と企業の取り組み事例	田籠喜三（株式会社 TAGS）
33	Academic Leadership and Current Challenges in Higher Education: an Australian Perspective	Peter McPhee（メルボルン大学）
34	Leadership Foundation for Higher Education(UK)	Doug Parkin（Leadership Foundation for Higher Education）
35	Curriculum Reform in Australian Universities: Management for Internationalization	Peter McPhee（メルボルン大学）
36	Classroom English: Pronunciation	Vincent Scura（東北大学）
37	データを活用した教育改善へのステップ	鳥居朋子, 川那部隆司（立命館大学）
38	私立大学のガバナンスの課題と展望 —地方中・小私学の可能性を考える	合田隆史（尚綱学院大学）
39	国立大学のガバナンスとリーダーシップ	吉武博通（筑波大学）
40	世界の高等教育政策	杉本和弘（東北大学）
41	大学職員の専門性開発 —その現状と課題—	大場淳（広島大学）
42	大学カリキュラムの構造と編成原理	吉田文（早稲田大学）
43	「しまった !!」とならないために —ICT時代の教育で押さえておきたい法—	三石大, 金谷吉成（東北大学）
44	発表倫理を考える	山崎茂明（愛知承德大学）
45	研究評価の手法とマネジメント	林隆之（大学改革支援・学位授与機構）
46	インストラクショナルデザインへの誘い	鈴木克明（熊本大学）
47	コーチング技能を活用した院生指導	出江紳一（東北大学）
48	日本の高等教育政策	羽田貴史（東北大学）
49	組織のパフォーマンスを向上させるマネジメント	藤本雅彦（東北大学）
50	現代社会における科学技術イノベーション政策の動向と課題	小林信一（放送大学客員教授）
51	リスクマネジメントとしての研究倫理の取り組み	羽田貴史（東北大学）
52	実践から語る—大学数学教育の現状と未来へのデザイン	水町龍一（湘南工科大学）
53	科学教育を科学的に変革する：学生が学習する授業は人気教授の名講義に勝る	Steven Pollock（University of Colorado Boulder）
54	ファカルティディベロッパー（FDer）に求められる専門性	佐藤浩章（大阪大学）
55	これからの大学に求められるマネジメント・組織開発	吉武博通（首都大学東京）
56	私立大学のガバナンス ～事例にみるその多様性と可能性～	大森昭生（共愛学園前橋国際大学）
57	教学ガバナンスのあり方とそれを支えるアカデミック・リーダーの育成	杉本和弘（東北大学）
58	内部質保証を学習成果につなげる道標	大森不二雄（東北大学）
59	経営支援に向けた IR 情報のマネジメント	森雅生（東京工業大学）
60	課題を考える—大学教育の課題とデータサイエンス学部の挑戦	竹村彰通（滋賀大学）
61	学生理解と学生発達	岡田有司（東北大学）
62	大学生のクリティカルシンキングの育成	楠見孝（京都大学）
63	Leadership to Internationalize Higher Education and its Institutions	John K. Hudzik（Michigan State University）
64	Engaging Students in Learning in English-medium Classes	Todd Enslin（東北大学）

65	グローバル化する高等教育における国際化戦略・政策・実践	太田浩（一橋大学）
66	国民の数量的リテラシーに求められるもの —科学技術立国を支える基盤	桑原輝隆（政策研究大学院大学）
67	イノベーション人材育成に資する数学教員養成の在り方	根上生也（横浜国立大学）
68	聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスの理念に基づく授業環境の整備	石原保志，宮城愛美，宇都野康子（筑波技術大学）
69	聴覚障害学生の語学授業の配慮と課題	須藤正彦（筑波技術大学）
70	聴覚・視覚障害学生の体育授業における配慮と工夫	栗原浩一（筑波技術大学）
71	発達障害を含む精神障害のある学生への合理的配慮と相談支援のあり方について	長友 周悟（東北大学）
72	障害学生の発達の課題と支援のあり方	石原保志（筑波技術大学）
73	大学教職員の力量向上と役割の高度化	篠田道夫（桜美林大学）
74	各国の高等教育における教職員の能力開発と組織開発	高野篤子（大正大学），大森不二雄（東北大学），杉本和弘（東北大学），大場淳（広島大学）
75	これからの働き方と今後の教育のあり方	柳川範之（東京大学）
76	大学教育イノベーションに向けた3つの取組	日向野幹也（早稲田大学），竹内比呂也（千葉大学），佛淵孝夫（佐賀大学）